

# JFA news

7 NO.459  
2022.  
月情報号



特集

## 私のサッカーライフ

選手に聞く  
クラブの取り組み  
日本フットボールリーグの理念



あらゆる速さで、  
突き抜ける。



エックス  
スピードポータル

TM & © 2022 Cartoon Network.

adidas

リオネル・メッシ



## CONTENTS

### 特集

# 私のサッカーライフ

## 004 日本サッカー発展の鍵となる 全国リーグ

### 005 選手に聞く

- 鈴木雄也 選手 (Honda FC)
- 横竹翔 選手 (高知ユナイテッドSC)
- 吉田凧沙 選手 (ニッパツ横浜FCシーガルズ)
- 田口元気 選手 (フウガドールすみだ)
- 伊藤果穂 選手 (バルドラル浦安ラス・ポニータス)

### 010 クラブの取り組み

- Honda FC
- 高知ユナイテッドSC

### 014 日本フットボールリーグの理念 加藤桂三JFL理事長に聞く

### 【特別企画】

## 070 FIFAワールドカップカタール2022に向けて 森保一SAMURAI BLUE監督

### 【連載】

- 017 隔月連載 JFAホットスポット  
「『アスパス! ピーチクリーン』を実施」
- 058 短期連載 JFAスポーツマネジャーズカレッジ  
大石隆夫 ジュビロ磐田アカデミー統括部育成部部长  
「講座を受け、物事の考え方が整理された」
- 060 隔月連載 私とフットボール  
茂庭照幸  
「自分がいることで周りの選手に良い影響を与えたい」
- 062 隔月連載 フットボールにできること  
「なでしこリーグ企画」
- 063 隔月連載 ピーチサッカーナビ  
茂恰羅オズ ピーチサッカー日本代表監督  
「ワールドカップ制覇に向けたチームづくり」
- 064 いつも心にリスペクト  
大住良之  
「最も大事なこと」

### ◎ JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、  
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

### ◎ JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、  
人々が幸せになれる環境を作り上げる。  
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、  
人々に勇気と希望と感動を与える。  
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには  
世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

### ◎ JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること  
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること  
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと  
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること  
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

### 【日本代表】

- 066 キリンチャレンジカップ2022  
SAMURAI BLUE vs バラグアイ、ブラジル
- 068 キリンカップサッカー2022  
SAMURAI BLUE 大会レポート
- 072 AFC U23アジアカップウズベキスタン2022  
U-21日本代表 大会レポート
- 074 第48回Maurice Revello Tournament  
U-19日本代表 大会レポート
- 075 U-16インターナショナルドリームカップ  
2022 JAPAN Presented by JFA  
U-16日本代表 大会レポート
- 076 国際親善試合  
なでしこジャパン vs セルビア、フィンランド

### 【大会・試合】

- 015 JFA 第21回全日本O-50サッカー大会
- JFA 第22回全日本O-60サッカー大会
- JFA 第16回全日本O-70サッカー大会
- 018 Fリーグオーシャンカップ2022
- 019 Fリーグ2022-2023 ディビジョン1・2開幕
- 021 日本女子フットサルリーグ2022-2023開幕
- 022 月刊レポート~JFAリリースインフォメーション&活動報告
- 030 2022/23競技規則 改正
- 036 会議レポート
- 042 DATA BOX
- 054 蹴球通信
- 065 サッカーファミリー広場
- 079 日本サッカーミュージアム
- 080 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。  
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真  
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walrix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス!」に取り組んで  
います。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)が  
つなぐパス」の意を含めた造語でサッカーファミリーが世代や時  
代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。





SPRING SUMMER 2022

ALFRED DUNHILL

No. 459

ALFRED

CONTENT

ALFRED

ALFRED DUNHILL LTD.



DUNHILL.COM

dunhill





特集 私のサッカーライフ

# ここが本気になれる場所

人生の岐路に立ったとき、現役選手としてプレーを続けるかどうか、迷うことは多いだろう。

日本サッカーは、サッカーおよびフットサルのいずれも全国リーグが整備されており、

以下、地域リーグ、都道府県リーグが展開され、多くの選手がプレーしている。

それぞれがプレーを続ける理由や目的はさまざまだ。

今号では、日本フットボールリーグ（JFL）と日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）、

日本フットサルリーグ（フリーグ）、日本女子フットサルリーグ（女子フリーグ）で

プレーする選手とクラブにスポットを当て、選手とクラブの可能性や多様性について考える。





# 日本サッカー発展の鍵となる 全国リーグ

## 競技力向上に不可欠な リーグ戦

日本サッカーに初めて全国リーグが誕生したのは1965年のことだ。企業のサッカー部8チームが参加する日本サッカーリーグ（JSL）がこの年の6月にスタートした。当時、全国規模でなおかつ年間を通して行われるリーグは日本のアマチュアスポーツでは初だった。JSL創設のきっかけとなったのは、1960年に日本代表コーチとして招聘されたデットマール・クラマーだ。クラマーは、日本サッカーの強化には強いチーム同士が戦うリーグ戦が必要だと日本サッカー協会（JFA）／当時は日本蹴球協会）の関係者らに説いていた。そして、東京オリンピックが終わった後、帰国に際して行われた送別会の席で、クラマーは「日本サッカー界への四つの提言」としてスピーチし、そこであらためてリーグ戦の必要性を訴えたのである。

全国リーグは、競技力の向上と競技の普及促進に不可欠なものであることから、各カテゴリーで整備

され、1989年には日本女子サッカーリーグ、1993年にはJリーグ、2007年には日本フットサルリーグ（Fリーグ）、2016年には日本女子フットサルリーグ（女子Fリーグ）／初年度はプレ大会として開催、2021年にはWEリーグと各カテゴリーのトップリーグが誕生している。

## それぞれのレベルで 実力伯仲の戦いを展開

第1種のリーグ戦は現在、Jリーグを頂点にピラミッドが形成されている。Jリーグへの登竜門“という位置づけにある日本フットボールリーグ（JFL）には企業チーム、Jリーグを目指すチーム、地域のサッカークラブが参加し、青森県から宮崎県までの各会場で試合が開催されている。

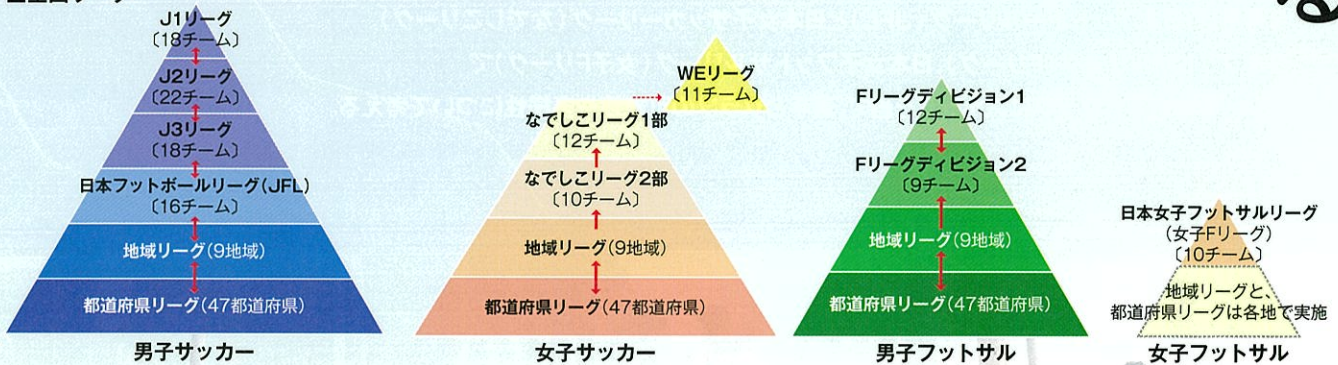
女子は、昨年9月にWEリーグ（日本女子プロサッカーリーグ）が開幕したことにより、それまでの日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）はチーム編成も大幅に変わり、アマチュア最高峰のリー

グとして再スタートを切った。現在、WEリーグは降格なしのエキシビジョン型を採用しており、なでしこリーグとの昇降格はない。2022シーズンのなでしこリーグは計22チームが所属し、1部はリーグ優勝を、2部では1部昇格を懸けた戦いが繰り広げられている。

日本フットサルの頂点に位置するFリーグは、初年度は8チームでスタートを切ったが、16回目となる2022-23シーズンは計21チームが参加し、それぞれF1とF2でのぎを削っている。女子フットサルは、リーグ戦が行われていない都道府県はあるが、女子Fリーグを戦う10チームがけん引する形で日本女子フットサルのトップリーグを戦っている（19～21ページ参照）。

全国リーグは、より高いレベルでプレーしたいという思いを持った選手たちが集まる場所でもある。全国リーグで日本トップレベルの戦いが繰り広げられていくこと、そこでプレーする選手たちの活躍が、日本サッカー全体の発展の一翼を担っていることはいうまでもない。

### ■全国リーグ



※チーム数などは2022年度に準ずる





働きのながらでも  
サッカーは楽しい鈴木雄也選手  
Honda FC (日本フットボールリーグ)

鈴木雄也(すずき ゆうや):1991年2月14日生まれ、神奈川県出身。武相高校を卒業後、専修大学を経て、Honda FCに加入。日本フットボールリーグではチームの優勝に何度も貢献し、個人でも8年連続ベストイレブンに選出。

大学まで続けたことで  
MVPにも選ばれる

地元のサッカーチームに小学1年生で加入しました。当時はサッカーが楽しくて仕方なく、学校の授業が終わるとランドセルを置いてすぐさまサッカーをしに行くような少年でした。中学校はクラブチームで、高校では部活動(武相高校)でサッカーを続けました。高校の監督は厳しくも愛のある方で、精

神面が鍛えられました。僕らが1年生のときにインターハイに出場したのですが、自分たちの代では県予選で早々に敗退しました。自分のレベルではサッカーを続けるのは難しいと感じ、高校でやめるつもりで専修大学に進学しました。ところが、時間がたつにつれてサッカーが好きだという気持ちが大きくなり、サッカー部の練習に参加して大学でもサッカーを続けることにしました。

大学にはサッカー推薦で入ってくる選手も多く、僕は底辺からのスタートでした。でも、ボランチからセンターバックに転向したことでトップチームでの出場機会が増えていったんです。現在のプレースタイルにもつながっているのですが、意識したのは声です。自分が身体能力などで劣っている分、周りを声で動かす。普段からよく人間観察をしていて、チームメイトや対戦相手の特徴などをつかむのが得意なのが生きたと思います。大学4年時にはキャプテンとして関東大学リーグ1部でMVPにも選ばれました。MVPになるほどの活躍をしたという認識はありませんでしたが、プロに行きたいと思

い、声が掛かるのを待っていました。ある試合でロッカールームに戻ったら、コーチから「オフアアが来たぞ」と。喜んだ矢先に「Honda FCから」と言われ、「Jリーグじゃないんだ」と思ったのを覚えています(笑)。結局Jクラブからは声が掛からず、Honda FCに加入しました。

このチームにいるからこそ  
違う経験ができる

Honda FCは企業チームです。朝8時から12時まで会社で働き、昼食を挟んで、14時半から練習するのが基本的な流れです。最初のうちは仕事のやりがいという

ものに気付くまででしたが、知らないことを知ったり、新しいことを覚えたりしていくのが割と好きで、今では仕事にもめり込んでいます。働きのながらでも、サッカーは楽しいですね。企業チームでは、一緒に仕事をしている人が応援してくれるのが喜びです。サポーターの皆さんも含め、貴重な休日の時間を使い、お金を払ってまで僕たちの試合を見に来てくださる。大学時代に教わったことですが、有料試合をしている責任というのをかみしめながらプレーしています。



「人と同じことをしていても勝てない」「選んだ道を良い道にするのも自分自身」(鈴木選手)といった精神で、サッカーや仕事にも向き合っている

サッカーを続けているのかなと思います。30歳前後になると、会社で重要な仕事を任せられるようになってくるので、サッカーを続けるか悩む人が多いのは事実です。自分としては、サッカーと仕事の両立ができる姿を見せ、若い選手たちのモデルになれるよう、できる限りプレーを続けていきたいと思っています。昔はプロに行った選手よりも頑張ろうと、常に誰かと自分を比べていましたが、今は独自の道を歩ませてもらっています。このチームにいるからこそ、他ではできない経験ができる。自分がサッカーを一生懸命やることで周りの人々を喜ばせることができる。そういったことにすごく幸せを感じています。



# サッカーを 続けたからこそ つながった縁



## 横竹 翔選手 高知ユナイテッド SC (日本フットボールリーグ)

横竹翔(よこたけ つばさ): 1989年8月30日生まれ、広島県出身。サンフレッチェ広島のジュニア、ジュニアユース、ユースを経てトップチームに昇格。その後、ガイナレ鳥取から高知ユナイテッドSCに移籍。アンダーカテゴリー日本代表の選出歴もある。

### 幼少期からサッカーに 親しみプロの道へと進む

父がサッカーをしていた影響で、物心がつく前からサッカーは身近な存在でした。小学1年生のときにサンフレッチェ広島スクールでサッカーを始めました。他のスポーツもしていたのですが、父はサッカーだけはすごく褒めてくれ

て、僕をサッカー好きにしようとしていたみたいです(笑)。

僕は身長が伸びるのが早く、小学6年生で168センチと周りよりも頭一つ抜けていたので活躍できていたのですが、全国大会では同じくらしい体格の選手がいてフィジカルだけでは通用しないことを思い知らされました。中学生時代に経験したナイキプ

レミアカップ(当時)は今でも印象に残っています。全国大会で優勝して世界大会に出場し、そこでボカ・ジュニアーズ(アルゼンチン)やアトレティコ・マドリッド(スペイン)と対戦しました。海外の選手は大人びていて体つきやプレーの質も異なり、世界はすごいと痛感し、意識もより高くなりました。高校では1年生から試合に出させてもらい、週1回のメンタルトレーニングも経験しました。

しかし、プロになると、ユースと比べて格段にレベルが上がリ、力の差を感じました。ベンチにすら入れず、苦しい気持ちの方が大きかった。2年目からは出場機会が増えて自信ができましたが、5年目に病気を経験するなど再びうまくいけなくなりました。ただ、不調のときもベンチ入りしていたので、自分の中にどこか甘えがあったんだと思います。成長したいという気持ちや自分に対する厳しさがあつたら、もっと長くJ1でプレーできたのかなと思います。

### あらためて感じた サッカーの楽しさ

僕は広島県生まれ、サンフレッチェ一筋で育ち、ずっとこのチームでプレーしたいと思っていました(2012シーズンが終わって)構想外を言い渡され、そのときに必要だと言ってくれたガイナレ鳥取に移籍しました。鳥取では1年

目からキャプテンを任せてもらい、最初はそれなりの結果を出してました。しかし、徐々に試合に出る機会がなくなり、「何をすればいいのだろう」という迷いも生まれ、自信を失った結果、プレーもうまくいけなくなっていました。

鳥取との契約が終わった後は、広島でコーチをされていた河内勝幸さんとの縁で、四国地域リーグのアイゴツソ高知(後にアイゴツソ高知と高知UトラスターFCが統合して高知ユナイテッドSCが発足)の練習に参加しました。社会人チームなので仕事をしながらサッカーをしている選手が多く、サッカーにどれだけ熱があるチームなのかと不安でしたが、みんな真剣にサッカーと向き合っていました。Jクラブがない高知県にJクラブを誕生させようという熱い思いも感じました。

それからは試合にも出場でき、サッカーの楽しさをあらためて感じていきます。また高知は、気候も温暖で自然豊か、人も温かい。ここで出会った女性と結婚して家族も増えました。Jリーグのチームから声が掛からなかったときは引退も考えましたし、サッカーを続けていなければ高知に来ることもなかったでしょう。そういう意味

でも、サッカーがつかないでくれた縁だと言えますし、周りの人たちには本当に感謝しています。

現在所属する日本フットボールリーグ(JFL)は戦力が均衡しているリーグです。いろんな特色を持ったチームがある中、どこに対戦しても難しい試合になります。どちらが勝つか分からないという点でも魅力的なリーグだと思います。

サッカーは正解がないのが一番の楽しさ。難しいからこそ、楽しいと感じます。今もうまくいかないことの方が多いのですが、その分、成功したときや苦しい状況を打開できたときの達成感は大い。もう一度Jリーグの舞台に立つことが僕の目標で、チームの「高知県にJクラブを」というミッションにもやりがいを感じています。みんなでそこを真剣に目指していますので、今後も力になれるよう頑張りたいと思います。



「サッカーを楽しめるうちはプレーを続けたい。やり切った次に向かった方が後悔は少ないと思う」と話す横竹選手。現在も目標に向かって努力を続けている



**友達や仲間ができて  
サッカーが楽しくなった**

私は3人きょうだいの末っ子として生まれました。姉はバレーボール、兄はサッカーをしていて、私も何かスポーツをしたいと迷っていたところ、両親から「お兄ちゃんと一緒にサッカーしたら？」と勧められ、サッカーを始めることにしました。ただ、両親が姉や兄に厳しくしていたのを見ていたの

で、私は自分のペースで楽しみたいと思い、両親には試合に来ないこと、プレーにも口出ししないことをお願いしました。

地元の少年団チームで男子に交じって遠慮なくプレーできることが楽しかったですね。そうしているうちに女子チームのリベルタ徳島FCから誘われ、「全国大会に出たらデイズニールランドにも行けるよ」という母の言葉につられて入ることにしました。実際、全国



吉田凧沙(よしだ なぎさ)：1996年10月26日生まれ、徳島県出身。日ノ本学園高校を卒業後、FC吉備国際大学Charmeで4年間プレー。INAC神戸レオネッサを経て、2021年からニッパツ横浜FCシーガルスに所属。

## 「頑張ろう」よりも、「楽しもう」を大切に

大会は福島県のJヴィレッジで開催されたので行けなかったのですが(笑)。でも、サッカーを続ける上で女子チームに入ったことは大きな転機でした。仲の良い友達ができ、サッカーがより楽しいと思えるようになりました。

その後、日ノ本学園高校(兵庫県)に進学して密度の濃い3年間を過ごしました。優勝できなかったのは1年生の全日本高等学校女子サッカー選手権大会だけで、全国制覇を何度も経験しました。優勝へのプレッシャーはすごく大きかったのですが、高校生ながら一人一人が自分のためだけでなく、誰かのために頑張るといふ強い思いを持って戦っていました。

私は元々、足技を得意とする選手ではなかったのですが、臨時コーチの方からドリブルを教えてもらう機会があり、「遊び心は大事だよ」という言葉から、相手との駆け引きを楽しむ心を大切にするようにになりました。それからはサッカーを「頑張ろう」ではなく、「楽しもう」と思ってプレーしています。

管理栄養士になるためにサッカーは高校でやめようと思っていました。ですが、志望していた大学に落ちてしまい、吉備国際大学でサッカーを続けることにしました。もし合格していたら今の私はいないですね(笑)。吉備国際大は当時、なでしこリーグに所属する唯一の大学チームでした。トップリーグでプ

レいできることは楽しい反面、勝てない試合が多く、勝つことの難しさを知った4年間でした。

**出場機会を求めて移籍  
楽しむ心を忘れずプレー**

大学卒業後、今の自分がどれだけできるのかチャレンジしてみようと思い、INAC神戸レオネッサに加入しました。I神戸には代表選手が多くいて、試合の出場機会は少なかつたのですが、2年間、高いレベルの中で練習できたことは、今の自分に大きなプラスになっています。友人がクラブの事務方として働いていたこともあり、多くの方々のサポートのおかげで、自分はサッカー中心の生活を送れているのだということに気づけたのも大きいですね。日頃から感謝の気持ちを忘れてはいけないうようにになりました。

今はニッパツ横浜FCシーガルスで試合に出られることに喜びを感じています。医療事務の仕事ですが、今からのサッカー生活ですが、今の仕事もサッカーをしているから出合えたものですし、体や健康に関する知識が増えるので楽しく仕事ができています。昨年からはYouTubeチャンネルを立ち上げて動画を投稿しています。自分を飾らず、女子サッカー選手のありのままを見てもらえたらと思っています。YouTubeをきっかけに私を知ってくださり、

応援してくださる方も増えました。私を目標にしてくれている女の子もいるんです。そうしたファンの方からのメッセージや手紙は励みになりますし、うれしいですね。サッカーを続けてきてよかったと思うのは、さまざまな人とのつながりや多くの仲間ができたことです。

私は高校2年生の時、大学生だった兄を交通事故で亡くしました。サッカーを楽しんでできるうちは、兄の分まで長く続けることが目標です。最初は両親に口出されるのが嫌だった私ですが、今では家族の応援が大きな力になっています。サッカーで元気な姿を見せられることがうれしいですね。サッカーは見る人を楽しませたり、勇気をもたらし、できるスポーツです。これからは遊び心を忘れず、楽しんでプレーして、チームメイトと共にチームの目標に向かって戦っていきたいと思っています。

生真面目にサッカーをしていたという吉田選手。相手との駆け引きや遊び心を覚えてからサッカーがより楽しめるようになった





## 田口 元気選手

### フウガドールすみだ (日本フットサルリーグ)

田口元気(たぐち げんき): 1991年7月3日生まれ、茨城県出身。ブラックショーツフットサルクラブを経て、大学卒業後の2014年にフウガドールすみだに加入。国内最高峰のリーグで活動する傍ら、不動産会社の(株)エルプラスで勤務に当たる。

# 仕事での考え方は フットサルにも 生きる

## トライした人しか 見えないものがある

現在、私はFリーグのフウガドールすみだでプレーしながら、不動産デイベロップの会社に勤めています。午前の9時から11時半まではチームの練習。急いでランチを取って、午後から仕事へ。日によっては物件調査のために

直接現場に向き、近くのカフェでパソコンを広げます。基本的には土日休みですが、重要な案件が生じたときはその対応にあたります。Fリーグの試合でアウェイの会場に向かう新幹線の中で仕事をするのもあれば、フットサル日本代表の合宿中に契約書をチェックすることもありました。

今のところ、フットサルと仕事をうまく両立することはできています。「どうやってスイッチを切り替えているの?」とよく聞かれますが、特別なことはしていません。仕事で気になることがあっても、フットサルの練習中にビジネスの問題は解決できないからです。私が心がけているのは、今できることを一生懸命やること。一つ一つを全力で取り組んできたからこそ、今の自分があると思っています。

高校(鹿島学園)まではサッカーに打ち込み、大学からフットサルに情熱を注ぎました。当初、卒業後は内定をもらった企業に就職するつもりでした。社会人になる準備を進めていたある日、フウガドールすみだ前監督の須賀雄大さん(現、フットサル日本女子代表監督)から声をかけてもらい、それでFリーグに挑戦してみようと思ったんです。内定した企業に就職し、会社勤めをしながらプレーヤーとして頑張ろうと。22歳での決断を下したときは、先のことは読めませんでした。フットサルと仕事を両立できるのかどうかも全く分かりませんでした。きつとトライした人しか見えないものがあると思いました。

冒頭で触れた生活サイクルになりましたが、仕事では職場での働きぶりを、フットサルではピッチでのパフォーマンスを評価されるという前提はずっと変わっていません。フラットに評価してもらえない環境が良かったですし、どちらかが足かせになることもありませんでした。

## 二足のわらじで 自分なりの前例を示す

フットサルは仕事に通ずるものがあると思います。ピッチ上の状況を見極めて実行に移すことが重要という点は仕事も同じ。逆もまたしかりです。現状を把握できなければ、案件はスムーズに進みません。フットサルも同じです。選手同士で問題の解決方法について話すとき、まず前提条件をはっきりさせることが不可欠です。例えば、得点力を上げるためにシユートを10本中8本は成功させようという提案しても、そもそも技術がなければ難しいでしょう。中長期的に技術力を上げることは大事ですが、現実的な解決方法を見いださなければ、目の前の課題は克服できません。仕事での考え方はフットサルにも生きます。

私は、フットサルと仕事という二足のわらじで成果を上げてきたつもりです。



チームでキャプテンを務める田口。今後はクラブでタイトルを獲得するとともに、フットサル日本代表に選出されることが目標だという。

2019年には、28歳でフットサル日本代表に初招集されました。フットサル一本に集中してきた選手とは異なるモデルケースの一つ示せたのかなど。代表に選ばれて何よりもうれしかったのは、仕事関係の人や応援してくれている人たちが喜んでくれたこと。あらためて、フットサルと仕事のどちらをもっと頑張ろうと思いました。今後はフウガドールすみだでタイトルを獲得し、フウガドールすみだを地域に良い影響を及ぼすクラブにするためにいろいろな形で貢献していきたい。日本代表に選ばれ、3年後のFIFAフットサルワールドカップに出場することも大きな目標の一つです。

私にとっても、フットサル、仕事、家庭のいずれか一つでも欠けた生活は想像できません。三つが重なり合っているからこそ、人生が豊かになるんだと思います。



# フットサルが楽しい それが私の原動力



**伊藤 果穂選手**  
バルドラール浦安ラス・ボニータス  
(日本女子フットサルリーグ)

伊藤果穂(いとう かほ):1994年11月18日生まれ、奈良県出身。十文字高校女子サッカー部で3年間プレー。卒業後、フットサルに転向し、東京都リーグのTapaZida(タバジータ/当時)を経て、2018年にバルドラール浦安ラス・ボニータス加入。同年よりフットサル日本女子代表に選出。

## また熱くなれるもの それがフットサルだった

私は小さい頃からサッカーを始め、高校3年間は十文字高校(東京都)の女子サッカー部でプレーしました。チームは全日本高等学校女子サッカー選手権大会にも出場して、周りには高校卒業後になでしこリーグを戦うチームや大学

の女子サッカー部に進む選手もいました。ですが私は、サッカーは高校3年間でやり遂げようと考えていました。試合には出ていませんでしたが、そこまで目立つ選手ではなかったです。大学やなでしこリーグで続けることは狭き門だろうと自分なりに考えていたからです。当時を思い返すと、高校で燃え尽きて、サッカーを続けるというこ

とを考えられなかったのかもしれない。

大学生活を送るうちに、何か熱くなれるものを見つけたと思うようになりました。新しいことを始めるなら、自分が今までやってきたことを生かせるものがないなと思った先に出合ったのがフットサルでした。競技レベルや自分の目標うんぬんよりもまずは楽しくプレーしたいと考え、当時、東京都女子フットサルリーグ1部にいたタバジータ(現、タバジータ世田谷)に加入しました。始めてみると、すごく楽しくて、生活はフットサル中心になっていきました。加入して1年目に東京都選抜に選ばれたことも大きかったですね。というのも、当時の東京都選抜にはフットサル日本女子代表の選手が多くいたからです。選抜チームでは考えさせられることや学びが多く、フットサルの奥深さを知ることができました。東京都選抜で全国優勝したい、タバジータで関東リーグに上がりたい、そう考えていたときに日本女子フットサルリーグ(女子フットサル)が創設されました。もっとフットサルがうまくなりたい、もっとフットサルを知りたいという思いが強くなり、移籍を考えるように。5年間で籍したタバジータも大好きなチームだったので悩みましたが、いろいろな方に相談して、よりフットサルを追求できるという理由でバル

ドラール浦安ラス・ボニータスへの移籍を決断しました。初めてトップリングの舞台に立ったときは、会場の雰囲気を感じました。試合は毎回ワクワクしますし、この舞台で戦えることが楽しいです。

## 仲間と日本一を目指して 戦えることは誇り

浦安に移籍した1年目は悩むことも多くありました。初めて代表チームに招集されたときも壁にぶち当たりました。一方で、自分が着実に成長していることは実感できていました。仕事とフットサルの両立は時に厳しいこともありましたが、今のチームの仲間たちと日本一を目指して戦えることを誇りに思っています。最近では、私を目標にしていると語ってくれる選手もいて、「一緒にプレーしたいから浦安に来た」「会場にプレーを見に行きたい」という声が大きくなっています。本当にありがたいです。

家族も私にとっては大きな支えです。ほぼ毎試合、会場に応援に来てくれて、喜んでくれる姿を見れば、多少の苦しさは何ともありません。浦安は昨シーズン、女子Fリーグと全日本女子フットサル選手権大会で二冠を達成しました。チームはそれに満足せず、連覇に向けて日々努力しています。その中で、私はチームメートのいろいろな個性や特長を引き出せたらと思っ

ています。チームとしても、個人としてもさらに進化していきたい。

フットサルの魅力は、考えることが多いことでしょうか。フットサルは再現性が高く、システムや戦術がプレーに直結している気がします。相手と駆け引きをしたり、ボールにも多く絡める部分が楽しいですね。「もっとうまくなりた」と思って努力することはつらくはなく、全てを楽しんでいる気持ちでやるのが私の原動力になっています。やり続けることで成果につながるかもしれない。もちろん、そうではないこともあります。フットサルという競技に出会い、日々楽しいと思えることで充実した毎日を過ごしているのだとあらためて感じます。「今この瞬間を楽しんで、今この瞬間を頑張りたい」という思いながらフットサルに向き合っている毎日です。



浦安でキャプテンを務める伊藤選手(左)。「自分の活躍やチームの勝利を応援してくれる人たちが喜んでくれる。それが何よりうれしい」と話す





# クラブの取り組み～Honda FC～

## 小林 秀多チーム統括 インタビュー



アマチュアサッカー界の雄としてその名をはせるHonda FC。企業母体のクラブとして活動を続け、その歴史は50年を超える。クラブのビジョンや目指す姿、その活動内容、強さの秘訣などを小林秀多チーム統括に聞いた。

○オンライン取材日：2022年6月23日

# 「プロを超えるアマチュアであれ」 アマチュアでも 強い集団を作ることができる

従業員および地域から存在を期待されるチームに

——本田技研工業株式会社（ホンダ）の公式部として1971年に

創部され、50年以上が経過しています。クラブとして大切にしていることを教えてください。

**小林** 企業としてはHondaJetを造ったり、最近では宇宙産業へ

の参入を表明するなど、新しい領域に乗り出していくチャレンジングスピリットを非常に大事にしています。それと同じく、Honda FCにも他がやらないことにチャレンジし続けていくという「ホンダイズム」のようなものがあります。それらを継承していくことを重視しています。また、「プロに行くだけがサッカーではない。いろいろな続け方がある。プロに行かなくても、アマチュアでも強い集団を作ることができる」という考えの下で、「プロを超えるアマチュアであれ」を掲げてサッカーに取り組んでいます。

——Honda FCの選手たちは普段どのような生活を送っているのでしょうか。

**小林** 選手全員がホンダの社員で、仕事とサッカーを両立しています。基本的には午前仕事、午後はサッカーという形ですね。例えば週末に試合がある場合、月曜が休みで、火曜から金曜までは午前に出社して仕事、午後は職場を離れてトレーニングとなります。両立とはいえ、比較的サッカーに専念できる環境にあると思います。

——クラブとして目指す姿、目標として掲げていることは？

**小林** 多くの方から「存在を期待されるチームになること」を目指しています。まずは自社の従業員か

ら「ホンダマン」として認められること、クラブを応援してもらえようになること。そして、地域に根差し、地元の方々からも応援される存在となること、このクラブがあるから生き生きと生活していけると言っていただけの方を一人でも多く増やすこと。そうなるために努力を続けています。

——それらを実現するために取り組んでいることはどういったことでしょうか。

**小林** たくさんの方の従業員に応援してもらえよう、選手を各部署にバランズよく配属し、多くの人たちとコミュニケーションを図れるようにしています。当然ながら選手自身の努力も必要です。「約束事を守る」「与えられた仕事をしっかりとこなす」など社会人として当たり前のことはもちろん、短い勤務時間の中でどれだけ成果を出せるか、自身のキャリアアップとしても仕事の専門性をいかに高められるかを意識させています。勤務態度や業務への貢献などで信頼関係を築いた上で、「一度サッカーの試合を見に行ってみよう」と思ってもらえるのが理想です。

——地域貢献活動についてはいかがでしょうか。

**小林** Honda都田サッカー場というスタジアムを会社が持っているの、そこを地元の人たちに開



「プロになれなかったときに、やめてしまうのではなく、働きながらもサッカーができる環境があるということ、自分たちの頑張りで示していく」と小林秀多チーム統括は話す

放してイベントを行うなどの活動を推進しています。公式試合などの開催時には、職業体験も兼ねて中高生に運営を経験してもらったり、近隣の高校生にハーフトイムでダンスショーを行ってもらったり、交流も深めています。試合では地元サッカーチームの中高生にボールパーソンや担架要員をお願いしているのですが、試合後にそのまま都田サッカー場でトップチームのスタッフが高生に指導することもあります。

地元の浜松市は、トップアスリート連携事業を推進していますので、われわれもヤマハ野球部や女子バレーボールのプレス浜松、陸上のスズキアスリートクラブなどと協力し、市内の小中学校に選手を派遣してスポーツ教室や講演会を実施しています。さらに、浜松市内の幼保施設からサッカースクールの依頼があった際、スクールの専任スタッフと共に選手も派遣し、子ども



—— 企業チームならではの魅力はどこにあると思われませんか。  
**小林** 会社のバックアップがしっかりしていることは大きいですね。ホンダはスポーツへの理解が深く、スポーツを通じて従業員を元気づけること、地域との関係を良好にしてホンダのファンを増やすことを重視していますので、安心してサッカーに打ち込める環境を作ってもらっています。そのほか、セカンドキャリアを考えなくてもいいという点もメリットだと思います。チームの戦力である限りは思い切りサッカーをして、引退後は職場に残ることもできます。自分が生まれ育った地域の事業所に転職したいといった要望も受け入れてもっています。



サッカーでも仕事でも、与えられた時間の中でそれぞれができることを考え、努力を続けている

たちと触れ合う機会もつくっていただきます。

## 安心してサッカーに打ち込める環境

—— 選手の業務内容はどのように決めているのですか。

**小林** ホンダでは現場・現物・現実を重視する「三現主義」を掲げているため、最初は現場に配置することが多いですね。自分たちが何を作っているのか、それがどう形になっていくのかを知り、ものづくりをしっかりと覚えてほしいという意図があります。その後、中堅からベテランになると、ジョブローテーションという形で徐々に製品管理や事務作業などの間接業務に移っていくケースもあります。

—— 選手の補強に関する仕組みも教えてください。

**小林** 会社としての採用枠が年ごとに定められており、その枠の中で獲得する形になります。引退した選手の人数に応じて自由に獲得できるというわけではありません。ちなみに、クラブの規定として現役を続けられるのは35歳までです。社内には資格制度があり、現役時代に指導員やチーフという資格を取得し、その後は主任を目指すのですが、そこにチャレンジできる年齢がだいたい35歳なんです。実は、過去に在籍した選手から「ある程度、サッカーを続けたいけど、長く続けられ続けるほど、引退して社業に専念してから遅れが出てしまう」という悩みを聞いていました。ですから、仕事のキャリアアップを考える意味でも引退の年

齢を定めています。これは新たに入ってくる選手にも最初に伝えていきます。

—— Honda FCにはどのような選手が集まっていると感じられますか。

**小林** 元々はプロを目指していた選手がほとんどなので、その悔しさをバネに人として成長したい、選手として成長したいというメンタリティーを持った選手が多いです。とはいえ、Honda FCからJクラブにステップアップする選手もいますから、「ここで頑張ればまだプロに行ける可能性がある」という向上心や高いプロ志向を持った選手もいます。われわれとしては、上へのステップアップもチャレンジの一つと捉えていますので、背中を押して「頑張ってこい」と送り出しています。

## 究極の目標は天皇杯優勝 チームの存在価値を高める

—— 日本フットボールリーグ(JFL)に所属し、アマチュアサッカー界をリードする存在となつていきます。JFLに所属することの意義をどのようにお考えでしょうか。

**小林** JFLにはさまざまな形態のクラブがあります。その中でわれわれは、プロを目指すことが全てではないという考えを持った企業チーム、ということ。少し違った考え方や物の見方をしているの

で、このリーグでHonda FCという存在を発信し続けていく意味は大きいと思っています。われわれに勝つために戦力を整えてレベルアップするクラブがあるのなら、JFLに存在する意義はあると思いますし、その一方で、Honda FCで活躍し、プロに引き抜かれた選手がその名を売ってくれることも大切だと思っています。

—— JFLというリーグの魅力とは？

**小林** 三浦知良選手(鈴鹿ポイントゲッターズ)や茂庭照幸選手(FCマルヤス岡崎)などの元日本代表選手がその経験値を伝えていたり、まちおこしのために生まれたクラブがあったりなど、目指す姿やそのクラブで育んでいるものが異なるチームが混在しているリーグですから、それぞれの方法で各地域が盛り上がり、少しずつ地方創生がなされていく様子を体感できるのがJFLの醍醐味だと思います。

た選手たちがいるクラブです。で、天皇杯はアマチュアとしてサッカーを続けてきて、どれだけ成長できたかを示すチャレンジの場です。選手たちも大きな舞台になればなるほどワクワクしていますし、自分たちのプレーを見てもらうことやその場を楽しむことを体現できています。また、自分たちのスタイルを貫いた上で勝ちたいという思いもあるので、それがモチベーションにもなっています。

—— 今後のクラブとしての目標を教えてください。

**小林** 究極の目標は天皇杯優勝です。「プロを超えるアマチュアである」と自分たちで日頃から口にしていくからには本気で目指していますし、選手たちも真剣にチャレンジしています。また今後も、企業チームとして独自性を出しながら、自分たちの存在価値も高めていきたいと思っています。

天皇杯ではJクラブを倒すなど活躍を見せる。目標は天皇杯優勝







# クラブの取り組み～高知ユナイテッドSC

## 宮地 貴嗣 取締役 インタビュー

高知ユナイテッドSCは、高知県初のJクラブを目指して日本フットボールリーグ（JFL）を戦いながら、県内外の高知県民をユナイト（団結）させる存在として地道な地域貢献活動が続いている。クラブの宮地貴嗣取締役にクラブ創設の経緯や理念、目標について聞いた。

○オンライン取材日：2022年6月23日

# 子どもたちに夢と目標を 高知県民の誇り、 生きがいとなる存在を目指して

### Jリーグ加盟を目標に 県下二つのクラブが統合

— 高知ユナイテッドSCが設立

された経緯を教えてください。  
**宮地** 2002年のよさこい高知国体（第57回国民体育大会）に向けて強化していた「南国高知FC」というチームがありました。01年

から四国リーグで5連覇し、同年の全国地域リーグ決勝大会（現、全国地域サッカーチャンピオンズリーグ）でも、もう少しでJFL昇格という成績を残しました（3位）。その後、徐々にチームが弱体化していったのですが、14年に「アイゴッソ高知」にチーム名を変えてJリーグ加盟を目指すことになりました。一方で、高知大学サッカー部のBチーム所属選手やOBが活躍する場として「高知UトラスタRFC」というチームもあったんですね。そして、「高知県にJクラブを」という大きな目標に向かって、16年にこの2クラブが統合して「高知ユナイテッドSC」が誕生しました。

— クラブとしての理念、目指す姿とは？

**宮地** 一番に掲げているのは「高知の子どもたちに夢と目標を」という理念です。地元の人々に「高知ユナイテッドはJリーグ加盟を目指しています。応援してください」とお願いしても、別の競技を応援しているからと言われることが多いんです。ですが、「SC（スポーツクラブ）」としている通り、Jリーグを目指しつつも、将来的には野球やゴルフなど、サッカー以外のスポーツにも取り組んでいきたい。それをもう一つの理念「スポーツでもっと幸せな高知へ」という言葉に込めました。高知の子どもたちに



高知県初のJクラブを目指して現在はJFLを戦っている高知ユナイテッドSC

— クラブの公式サイトには「高知家」というワードも出てきますね。  
**宮地** 「高知家」というのは高知県の移住促進プロモーションのキャッチコピーなのですが、高知の人たちは一つの家族のように接

し合うというか、つまり、旅行で訪れた方にも家族のようなおもてなしをするんです。われわれの理念の一つにも「大好きな高知のために、高知愛をかたちにする」という言葉がありますし、県外からチームに加入した選手も口をそろえて「高知の人は温かい」と言ってくれます。引退後も高知に残る選手もいるくらいですから。

### 一丸となって高みを目指し スタジアムを地域のハブに

— 「高知の子どもたちに夢と目標を」という理念を実現するため、どのような取り組みをされているのでしょうか。

**宮地** 県内各地でサッカー教室を開催したり、私たちの試合にさまざまな形で参加してもらっています。サッカー教室は、幼稚園や保育園に声をかけさせていただいて、承諾いただいた園で週に1回実施しています。先日の試合では、明德義塾高校の生徒さん350人に和太鼓の演奏をはじめ、皆さんが活躍している分野でのパフォーマンスをスタジアムで披露していただきました。サッカーの試合だけでなく、グルメやイベントを楽しむ場としても試合会場を運営できるようになってきたので、今後は高校生以下の子どもたちにもいろいろな形で使ってもらいたいと思っています。



# 私のサッカーライフ

——選手はどのような1週間を送っているのでしょうか。  
**宮地** 今年に関しては、日曜に試合があって月曜がオフ、火曜、水曜に練習をして木曜がオフ、金曜、土曜に練習をして日曜の試合に備える、というのが基本パターンです。

——子どもたちとの関わりのほかに、地域貢献として取り組んでいることはありますか。  
**宮地** 高知県は農業が盛んな県です。地元で農家さんに選手がおうかがいして一緒に田植えをしたり、玉ねぎの収穫をしたりしています。毎年8月にはよさこい祭りがあり、選手も参加しています。鏡川という川の清掃活動も、トップチームやアカデミーの選手たちが一緒に年々回数が増えていきます。



スタジアムでも地元の高校生に出演してもらったりなど地域との交流を行う



地域との強い関係性を築くためにさまざまなアプローチをしている。選手たちの農業体験もその一つだ

頻度は少ないものの2部練習をやる日もあります。最近暑くなってきたので午前練習だけです。  
 ——選手それぞれに雇用形態や活動状況は異なると思います。それぞれについても教えてください。  
**宮地** プロ契約の選手もいますし、仕事をしながらサッカーをしている選手もいます。クラブとして、小学生を対象としたサッカーコースをほぼ毎日やっていますので、そこでコーチをするケースが最も多いです。また、クラブを支援いただいている平成学園という幼稚園があるのですが、そこで保育補助として保育士の先生と共に子どもたちと遊んだり、業務に携わっている選手もいます。ほかには、応援していただいているスパーマーケットでの勤務やメーカーさんで清掃

——アカデミーからトップチームに昇格するサイクルも確立されているのでしょうか。  
**宮地** 現状アカデミーはジュニアユースまでしかないため、そこから直接トップチームに上がるとい流れば構築されていません。毎年どのようにユースチームの立ち上げはどうしようかと議論していますし、今年、Jリーグ百年構想クラブに認定され、J3クラブライセンスの申請をしましたが、Jリーグ側からも「将来的にはユースカテゴリーの整備が必要」と言われています。

業務をしている選手もいたり、さまざまです。  
**サッカーをみんなの日常に着実に歩を進める**  
 ——選手を補強する際に、クラブとして求める条件はありますか。  
**宮地** 補強は、西村昭宏GMが担当しているのですが、素直で、最後まで諦めずに走れることが第一条件だと思っています。選手たちには、「たとえ負けたとしても、試合を見に来てくれた人たちに最後まで諦めずに戦う姿を見せてほしい」と、毎年、繰り返し伝えていきます。もちろんテクニクがあるとか足が速いといったサッカー選手としての要素も大事ですが、諦めずに最後まで走り切れる選手がいることでチームの魅力は増すと思っています。

——高知ユナイテッドSCはアマチュアの最高峰であるJFLを戦っています。このリーグに参加することの意義をどう捉えていますか。  
**宮地** JFLを共に戦うチームが全国各地から高知に来て試合を行い、それに伴ってファンの人たちも訪れてくださるのは非常にありがたいことです。高知の人間からすると、地元でJクラブができることで何が起るのか、当初は全く想像できませんでしたが、しかし、全国リーグであるJFLに参入することで2週間に1回、全国から多くの方が来てくれるようになり、ああ、全国リーグに参加するのはこういうことなのか、と思うようになりました。例えば東京で私たちの試合があると、関東近郊にいる高知県出身の人たちが誘い合ってスタジアムに応援に来てくれるんです。そうやって「高知愛」を確かめる機会が生まれました。これも四国リーグ時代は分からなかったことです。サポーター同士、事務方同士でのやり取りも互いのカラーが出るので面白いですね。サッカーやスポーツが、地元愛を感じるためのツールになることを知っています。

ます。会社の経営状況を考えて、今すぐに、とは言いにくい部分がありますが、できるだけ早くユースチームを設立したいと考えています。  
 ——今後のクラブの目標を教えてください。  
**宮地** 短期的には、やはりJリーグ昇格が最大かつ重要な目標です。そのためにはJFLで4位以内、ホームゲームでの平均入場者数2000人以上をクリアしなければなりませんので、チームとしてはとにかく1試合1試合、勝ち点3を積み重ねていくこと。そして、クラブとしては、1人でも多くのお客様に来ていただけるよう、チームの知名度を上げ、試合を見に行きたいと思っていただけでいいかなと思っています。長期的には、Jリーグで安定した活躍を続け、県民の皆さんがもっとクラブやチームのことを日常的に話題にするような状況をつくり上げていきたいと考えています。高知県の皆さんが、このクラブを県民の誇り、生きがいだと感じてくださり、子どもたちがクラブに関わることで高知のことをもっと好きになってもらうことが、私たちの将来的なビジョンです。子どもや孫の世代になって「高知にこのクラブがあつてよかったね」と思ってもらえるようになることを目指していきます。

らうことができていますし、サポーターが互いにもてなし合うなど、オフ・ザ・ピッチでの盛り上がりも感じています。

らうことができていますし、サポーターが互いにもてなし合うなど、オフ・ザ・ピッチでの盛り上がりも感じています。



## 日本フットボールリーグの理念

# 誰もがチャレンジできる場所

1999年に創設された日本フットボールリーグ（JFL）は、Jリーグを目指すクラブ、企業チーム、地域のアマチュアチームなど多様なチームを抱える全国リーグとしてその地位を築いてきた。加藤桂三理事長にJFLの理念や運営面で重視していることを聞いた。



加藤桂三 JFL 理事長

国リーグの積み重ねによって全体のレベルが上がり、日本代表チームもワールドカップ出場が当たり前になってきました。そうした中で、もっと高いレベルに挑戦したいという選手たちも増えていきます。社会人になっても彼らがチャレンジできる場所をつくり、整えていくこと、チームがそれぞれの夢を追い求められる場所をつくること、それがJFLの果たすべき重要な役割だと考えています。

### 多様なチームがしのぎを削る

日本フットボールリーグ（JFL）は1999年、9チームによって創設されました。日本サッカーのトップレベルの強化に寄与してきた日本サッカーリーグ（1965〜92年）がJリーグの誕生とともに形を変え、プロとアマチュアが混在するジャパンフットボールリーグ（92〜98年）を経て、今のJFLがスタートしました。

その成り立ちから、JFLは第一種のリーグ構造の真ん中、つまりJリーグと地域リーグの間に位置しています。Jリーグ参入を目指すチームはJFLでの好成績が求められるため、JFLはJリーグへの登竜門とも呼ばれています。一方で入会条件を満たしたチームであれば、どんなチームでもチャレンジできる全国リーグがJFLである、という考え方も大切にしています。

そのため、アマチュアリーグで最高峰を目指したいという企業チームのみならず、過去には大学チームやJクラブのセカンドチームなども参加してしのぎを削ってきました。JFLは、プロとアマチュアの接点を担う重要な位置づけにあるリーグだと認識しています。

リーグの主役は、選手です。選手は個々に目標を持ってリーグ戦を戦っています。選手にはそれぞれの目標を達成してほしいという思いを込め、毎シーズン異なるキャッチフレーズをつけており、今シーズンは「ひと味違うプレーで魅せろ!」としました。

プロを目指している選手もいれば、人生を長い目で見て仕事をしながらサッカーを続けている選手もいて、高いレベルでチャレンジしたいという強い思いを持った選手がJFLにはいます。JFLで自らを磨き、Jリーグに戦いの舞台を移し

た選手もこれまで何人もいました。また、地域リーグも含めたアマチュアチームの中には、Jリーグでプレーした経験のある選手が今や数多く在籍しています。豊富な経験を持つ選手は、チームに良い影響をもたらす存在で、チーム側も経験ある選手を求めています。そういうサイクルができることが、日本サッカー全体の競技力向上とチーム力の向上につながっていくはずで

「J3に負けない競技レベルに」

リーグとしては、J3リーグに負けない競技レベルにあると自負しています。常に同等レベルを保たなければならぬとも考えています。天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会では、JFLのチームがJクラブに勝利することもあります。特に近年はJFLで力を付け、J3に参入したチームが好成績を残すなど健闘を見せています。「ア

マチュア」の最高峰リーグとしてつても、実際は「アマチュア以上プロ未満」であるのが今のJFLです。リーグの立ち位置を表わす新たな言葉を考えなければならぬ時期にきているように思います。

2017年の第19回大会からは「JFLチャンネル」と称し、各チームの協力も得てスカウティング映像などを利用したインターネットライブ配信をしています。遠方で開催される試合を見に行けないというファン・サポーターの皆さんがいたことが大きな理由でした。最初は一部の試合のみ配信していましたが、コロナ禍でリモートマッチ（無観客試合）になったり、移動制限などがあつたことから、20年から一部の試合を除いてほぼ全試合を中継しています（現在はYouTube内にチャンネルを設置）。

日本サッカーは、長年にわたる全



第24回JFLのビジュアルは16チームをクッキングガールで表し、ベテランから若手までの鮮やかで工夫されたフレーズを「ひと味違う」と表現。ひと味違うプレーで多くの人を感動させるような試合を目指している。

### JFLチャンネル

YouTubeのオフィシャルチャンネルでは、試合をライブ配信するほか、各節のゴールハイライトなども配信。



<https://www.youtube.com/c/JFLOfficialChannel/>





## JFA 第21回全日本O-50サッカー大会



### 【大会概要】

6月25日から27日、千葉県市原市で開催。各地域から選出された16チームが4グループに分かれてリーグ戦を行い、各グループ1位チームが2次ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を決定する。

# T・ドリームスが初の全国優勝を果たす

1次ラウンドは最終戦まで激闘が続いた。グループAでは、連勝同士のFC船橋50（開催地／千葉）と盛岡FCマスターズ（東北／岩手）が対決し、後半に2得点したFC船橋が準決勝に進んだ。

グループBは最終戦を前に3チームが勝ち点1差にひしめく大混戦。3位の香川FC50（四国1／香川）が首位のレアル関西（関西／大阪）を下したが、もう一方の試合は、終盤に2点を返されながらも前半の3点を守り切ったT・ドリームス50（関東3／東京）が勝利して首位に立ち、4強入りを果たした。

グループCでは勝ち点、得点数、失点数で並んだ山梨マスタース（関東1／山梨）とアルフト安曇野シニア（北信越／長野）が1次ラウンド突破を懸けて3戦目で対決。引き分けた場合は、警告数の差により安曇野が勝ち上がることになるが、山梨が前半のゴールで勝利し、昨年逃した2次ラウンド進出をつかんだ。

グループDでは羅針盤倶楽部NAGOYA（東海／愛知）が逆転突破。過去5大会で2度優勝している福岡とびうめシニアサッカークラブ（九州1／福岡）との首位争いを1-0で制し、勝ち点2差をひっくり返した。

準決勝は2試合とも接戦となる。共に残り5分で試合が動き、T・ドリームスと羅針盤倶楽部がそれぞれ1-0で勝利して決勝進出を決めた。

決勝では、序盤からT・ドリームスが主導権を握る。羅針盤倶楽部の攻撃を遮断し、前線にボールを入れさせない。攻撃に移ると、開始9分、縦パスに抜け出した野本英男がそのままゴール。後半に入ると攻め方を変えるなど羅針盤倶楽部が策を打つが、T・ドリームスは相手に流れを渡さず、1-0でこれを制した。

前々回大会に続き、準優勝となった羅針盤倶楽部のキャプテンの杉山孝は「点差以上の完敗」と話し、T・ドリームスの勝利を称えた。T・ドリームスの本田泰人選手兼監督は、O-40では果たせなかった全国制覇を「チーム力のおかげ」と喜んだ。

## JFA 第22回全日本O-60サッカー大会



# 勝負強さを発揮した愛知セレクトが頂点に立つ

### 【大会概要】

6月18日から20日、愛知県松山市で開催。各地域から選出された16チームが4グループに分かれてリーグ戦を行い、各グループ1位チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を決定する。



コロナ禍の影響で第20回大会と21回大会が中止を余儀なくされ、3年ぶりの開催となった全日本O-60サッカー大会、1次ラウンドでは2チームが





全勝突破を果たした。グループAでは、前回王者(第19回大会/2019年)の京都O-60(関西/京都)が、3試合で5得点無失点という安定した戦い、ふりを発揮した。グループBでは、千葉四十雀SC(関東2/千葉)が逆転突破を狙うゼフィーロ石川(北信越1/石川)との直接対決を制し、1次ラウンド13得点無失点という圧倒的な強さで4強入りした。

グループCは1戦ごとに首位が入れ替わる混戦で、最終的に愛知セレクト60(東海2/愛知)が突破。初戦を引き分けた後に連勝して、準決勝へと進んだ。

グループDの最終戦は劇的な展開となった。首位の渋谷区FCミドル60(関東1/東京)と、それを勝ち点1差で追うセレンソ長野60(北信越2/長野)の対戦は、1-1で終了。すると、3位だった上灘サッカー育成会(四国/愛媛)が3-0で勝利して一気に首位に立ち、決勝ラウンドへと駒を進めた。

準決勝は2試合とも後半に大きく動いた。京都O-60と千葉四十雀の試合は後半、千葉四十雀が長い距離のFKを直接決めるなど2得点して勝利。愛知セレクトと上灘サッカー育成会との対戦も愛知セレクトが後半に3点を追加して、4-1で決勝進出を決めた。

雨の予報を覆し、真夏のような日差しが降り注ぐ大会最終日、3試合目となるファイナルは、慎重な滑り出しとなった。前半から頻りに選手を交代しつつ、集中力を保って相手の隙を探り合う。後半、それぞれロングボールから交代選手の突破力に懸けるが、ゴールは生まれない。無得点でPK戦に突入すると、1本外した千葉四十雀に対して愛知セレクトは全員が成功。キャプテンの由谷貴浩は、「3年前の前回大会では準決勝で負けていたので、どうしても優勝したかった」と喜んだ。

## JFA 第16回全日本O-70サッカー大会



# アスレチッククラブちばがグループ2位から日本一に！

### 【大会概要】

6月18日から20日、愛媛県松山市で開催。各地域から選出された12チームが3グループに分かれてリーグ戦を行い、各グループ1位3チームに加え、各グループ2位の中で成績上位の1チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を決定する。

O-60大会同様に3年ぶりの開催となった今大会は、各グループでのリーグ戦のみ実施されていたこれまでの「オープン大会」から、優勝を懸けて決勝ラウンドまで行う大会方式に変更され、初代日本一の座を賭けた熱戦が繰り広げられた。

グループAは、兵庫県70選抜(関西/兵庫)が3戦全勝で1次ラウンドを突破。グループBは、3試合12ゴールと得点を爆発させた岩手70(東北/岩手)が3連勝で決勝ラウンドに進んだ。

混戦となったのがグループCだ。初日の2戦を終え、静岡県選抜O-70(東海/静岡)と大会初出場の山梨シニア70(関東2/山梨)が勝ち点4で並んだ。第3戦、静岡は、熊本オールドキッカーズ(九州/熊本)に4-0で勝利。首位突破のためには、得点数を稼がなければならない山梨は、勝ち点1差の信州惑々サッカークラブ(北信越1/長野)を押し込んで残り5分で先制するが、ラストプレーで追いつかれるシヨッキンガな幕切れとなった。

決勝ラウンドへは各グループ1位、そして各グループ2位のうち最も成績が良いチームが進む。最後の一枠は、リーグ最終戦でえひめ四十雀フットボールクラブ(開催地/愛媛)を5-0で破ったアスレチッククラブちば(関東1/千葉)がつかんだ。

準決勝の第1試合は後半、9分間で3ゴールを挙げた兵庫が相手の攻撃力を封じて勝利。もう1試合は、0-0でPK戦にもつれ込む熱戦の末、ちばが静岡を5-3で退けた。

決勝は、ちばが主導権を握るが、兵庫も粘り強く守って終盤は押し返す。PK戦もちらつき始めた後半のアディショナルタイム、縦パスに抜け出したちばの増田仁が相手DFに寄せられながら右足を振り抜き、ドラマチックな決勝ゴールを決めた。秋田信也監督は「1次ラウンドを2位で勝ち上がり、準決勝はPK戦。自分たちに運があった」と笑顔で振り返ったが、堂々の戦いぶりでもO-70年代初の日本一に輝いた。





# JFA ホットスポット

## 「アスパス!ビーチクリーンを実施」

日本サッカー協会 (JFA) マーケティング部  
パートナーシップ第一グループ 高倉裕紀

日本サッカー協会 (JFA) の活動や各委員会、各部の取り組みに焦点を当てた JFA ホットスポット。第9回は今年5月と6月に実施した「アスパス!ビーチクリーン」について、マーケティング部の高倉裕紀が紹介する。

### 環境と地域をテーマに スポンサー連携を

JFA は2020年7月に複数部署の職員ならびに日本代表OBで構成されたSDGs推進チームを組織し、国内で開催される代表戦ならびに天皇杯におけるSDGs関連施策の企画の立案・実行や、JFAにおけるSDGs重点領域の設定といった活動を推進してきました。そして創立100周年を迎えた2021年、次の100年に向けてSDGsの取り組みやサッカーを通じて社会貢献活動の総称を「アスパス」として制定し、5つの重点領域「環境」「人権」「健康」「教育」「地域」をテーマ

に掲げました。

取り組みを展開する上で大切にしている点は、JFA内の単独のチームおよび部、JFAのみに閉じたものにならないようにすることです。今後の展開を見据えた際に、アスパスチームだけでは十分な活動が行えませんし、各部署だけでやるうとしても広がりに限界があります。

私自身はマーケティング部に在籍し、スポンサー関連業務を担当しています。スポンサー各社の目標とJFAがアスパスで実現したい目標という二つの視点で企画を練り、そこに各部署の活動をひもつけることで、一つの活動に複数の部門や組織が参加することができ、より大きなインパクトを持たせられるのではないかと考えました。

2022年度の活動を検討する中で、6月にサムライブルー (日本代表) の活動が高田宮記念JFA夢フィールドで控えていること、そして、日本代表オフィシャルサプライヤーのアディダスジャパン株式会社が海洋プラスチック汚染問題に対する取り組み「RUN FOR THE OCEANS」(※1) を展開していること、ヒアリングを進める中で指導普及部でのビーチクリーン活動を夢フィールド周辺で実施する計画があることから、今回はアスパスのテーマのうち「環境」と「地域」を実施する機会としてこれらを連携できるのではないかと思いアディダスさんに提案したところ、先方からもビーチクリーン活動をRUN FOR

THE OCEANSの取り組み対象として連携することをご提案いただき、ぜひやりましょうということになり、準備を進めました。

### ファミリーが一体となって 環境保全に取り組み

そして5月と6月、日本財団と環境省が推進する「海ごみゼロウィーク」(※2) に賛同する形で「アスパス!ビーチクリーン」を実施しました。初回はJFAの職員とビーチサッカー日本代表、対戦相手のチームによる活動を実施しました。その実績を踏まえ、2回目は対外的に告知をして参加者を募り、当日は幕張地域の住民21名、ファン・サポーター56名、日本代表スポンサー各社から76名、千葉県サッカー協会の方やJFA職員も参加し、総勢176名での活動となりました。中でもファン・サポーターの皆さんの応募状況を見ると、関東圏だけではなく全国各地から来てくださった方も多かったのかなと思っております。

立場が異なるサッカーファミリーが集まる機会は、代表戦以外にはなかなかないものです。ビーチクリーンを行う前、皆さんには夢フィールドのBピッチに集まってもらい、待機時間にキックターゲットをプレーしていただいたり、天然芝に転がってくつろげるような時間を設けました。皆さんが楽しそうに過ごされている姿がとても印象的でした。ビーチクリーン活動の後には、サムライ

ブルーのトレーニングも見学および応援いただきました。

今回の活動で感じたことは、ファン・サポーターの方やスポンサー企業の方、JFAの職員などさまざまな立場の参加者がいましたが、日本代表を応援したいという気持ちで、サッカーを通じて社会を良くしたいという共通した思いを皆さんが持たれているということでした。

一緒に活動し、同じ時間を過ごすことで、サッカーファミリーが一体になるということを感じてきましたし、これを機にスポンサー各社の皆さまと共に今後地域やファン・サポーターの皆さんと連携した社会貢献活動に取り組んでいけたらと考えています。

また今回、海洋プラスチック汚染の実態を目の当たりにしました。幕張のビーチは地域住民の皆さんが定期的に清掃されており、比較的きれいに保たれています。それでも多くのゴミがあり、調べてみるとマイク



6月4日、それぞれの形でサッカーと関わる176人が共にビーチクリーン活動を実施

ロプラスチックといった生態系に影響を与えるものも多く含まれていました。次にこういった企画をする際は、環境保全に関する学びの機会を事前に設けることも検討したいと思えました。

JFAの取り組みは、JFA公式ウェブサイト、メールマガジン等を通じて、地域・都道府県サッカー協会の皆さんにもその取り組み内容をお伝えしてまいります。ぜひ本誌をお読みの皆さんにも、サッカーを通じて社会貢献活動、アスパス!のアクションを一緒に起こしていただければと考えています。

※1 2017年にスタートした取り組みで、今年度は、より多くの人々が参加できるように「走行時間10分ごとにプラスチックボトル一本相当のプラスチックゴミをアディダスバーレーが沿岸地域から回収する」世界的なムーブメントを展開した。

※2 2020年にはプラスチックをはじめとする海洋ごみの量が魚の量より多くなるといわれていることから日本財団と環境省は共同で「海ごみゼロ」を目標に清掃活動を推進。今年5月30日「ごみゼロの日」、6月5日「環境の日」、6月18日「世界海洋デー」を含む5月28日・6月12日を「春の海ごみゼロウィーク」に設定。

### ■アスパス!ビーチクリーン

#### 【第1回】

2022年5月19日 / 千葉市美浜区美浜 幕張の浜  
参加人数: 60人 (ビーチサッカー日本代表候補の選手・スタッフ、ヴィアティン三重BS・東京ヴェルディBSの選手、JFA役員・職員)  
ごみ袋回収数: 可燃35枚、不燃10枚 (合計45枚)

#### 【第2回】

2022年6月4日 / 千葉市 幕張海浜公園  
参加人数: 176人 (日本代表サポーター、幕張地域住民、日本代表スポンサー各社担当者、JFA役員・職員)  
ごみ袋回収数: 可燃86枚、不燃43枚 (合計129枚)



# Fリーグオーシャンカップ2022



## 名古屋オーシャンズが 4大会連続9度目の優勝!

### 3年ぶりの大会 22チームでしのぎを削る

日本フットサル界の2022-2023シーズンの幕開けを告げるFリーグオーシャンカップ2022が5月25日から6月5日にかけて行われた。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった同大会

は、Fリーグディビジョン1（F1）の12チーム、同ディビジョン2（F2）の9チームに加え、特別枠として木暮賢一郎監督が率いるU-19フットサル日本代表も参加し、ノックアウト方式で頂点を競い合った。1次ラウンド1回戦には、今シーズンからF2に加入したリガールヴィア葛飾とマルバ水戸FCが登場

した。葛飾はF1のエスボラーダ北海道を相手に、元フットサル日本代表の森岡薫が開始49秒でゴールを決めるなど2得点を挙げる活躍を見せ、3-2で初戦を飾った。また、水戸もヴィンセドル白山を5-1で下し、2回戦に進出した。

U-19フットサル日本代表はF1のベスカドーラ町田と対戦。宮下豪也がハットトリックを達成するなどして試合をリードするも、残り5分で3-4と逆転負けを喫して1回戦敗退となった。しかし、昨年のFIFAフットサルワールドカップにも出場した毛利元亮をはじめとする若い選手らは、フットサル日本代表経験者を多数擁する町田と対等の戦いができたことに手応えを得ていた。

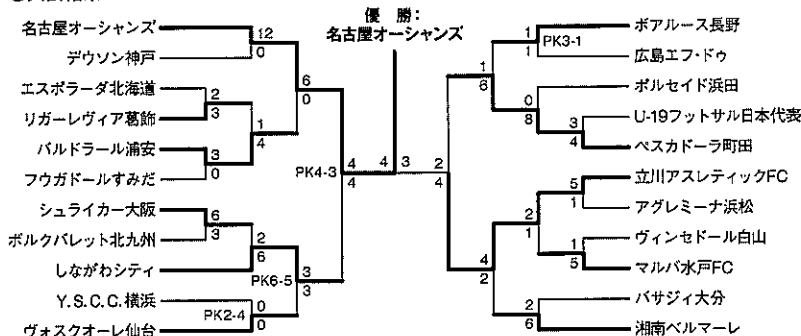
2回戦では、名古屋オーシャンズがデウソン神戸を12-0で圧倒するなど、F1勢が強さを見せる。そんな中、F2を2連覇しているしながわシティはシュライカー大阪に6-2で勝利し、F1の強豪とも渡り合える力を示した。また、財政難により昨シーズンまでリーグへの参入が見送られていたF2のヴォスクオーレ仙台もY.S.C.C.横浜にPK戦の末に勝利し、ベスト8に進出した。3回戦では、このF2勢が激突。3-3で突入したPK戦も延長にもつれ込む接戦となったが、しながわが仙台に6-5で競り勝ち、F2勢で唯一、ベスト4進出を決めた。

### 名古屋が選手権の リベンジを果たす

会場を駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場に移して行われた準決勝の対戦カードは、名古屋としながわのF1王者対F2王者、もう一方は町田と立川アスレティックFCの東京ダービーとなった。名古屋としながわの試合はシーソーゲームとなったが、PK戦を制した名古屋が決勝に駒を進め、町田に逆転勝ちした立川と対戦することに。今年3月に行われた全日本フットサル選手権の決勝と同一カードになった。

約3カ月前の対戦では立川が1-0の完封勝利を収めたが、この試合では第1ピリオド11分にゴール前のこぼれ球をオリベイラ・アルトゥールが決め、名古屋が先手を取る。対する立川も、上村充哉、皆本晃という新旧日本代表コンビがゴールを奪い、第1ピリオドのうちには逆転した。しかし、選手権のリベンジに燃える名古屋は、第2ピリオドの立ち上がりから怒涛の攻撃を見せ、新加入の外国籍選手、ダルランのゴールで追いつくと、さらにアルトゥールがこの試合2点目を挙げて逆転に成功。その後、両チーム1点を取り合った末に、名古屋が4-3で制し、優勝カップを頭上に掲げた。

#### ○大会結果



惜しくも初戦敗退となったU-19フットサル日本代表。F1リーグの強豪・ベスカドーラ町田に対して接戦を繰り広げた

<3位決定戦> しながわシティ 2-3 ベスカドーラ町田



# フリーグ2022-2023

# 開幕

フリーグの2022-2023シーズンが幕を開けた。  
ディビジョン1の12チーム、ディビジョン2の9チームが  
しのぎを削る今シーズン。  
長い戦いを制するのはどのチームか。



## 新体制のフリーグが開幕

日本フットサルリーグ（フリーグ）は、昨シーズンまで一般財団法人日本フットサル連盟が運営・管理していたが、今年4月に同連盟から独立し、新たに設立された新法人「一般社団法人日本フットサルトップリーグ」に移管された。日本フットサルトップリーグは、アジアの頂点世界のトップで

戦える選手の強化・育成、さらに各クラブが地域に根付いた愛されるリーグを目指して新たなスタートを切った。

ディビジョン1とディビジョン2は共に6月18日および19日に開幕。来年2月5日までリーグ戦が展開される。

ディビジョン1は12チームが参加し、ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たり（全22節）でリーグ戦を行い、上位3チームがプレーオフに進出。リーグ2位と3位のチームが準決勝を戦い、勝利チームがリーグ1位とのプレーオフ決勝（最大5試合）で対戦する。

ディビジョン2は、今シーズンからマルバ水戸FCとリガレヴィア葛飾が加わり、9チームによるホーム&アウェイの2回戦総当たり（全18節）のリーグを戦う。ディビジョン2の1位チームは、ディビジョン1の12位のチームと2試合の入れ替え戦を行い、勝利したチームがディビジョン1に残留、または昇格する。

## 名古屋は6連覇へ向けて

### 順調な滑り出し

ディビジョン1のオープニングゲームでは、昨シーズン、サッカー



第1節、古巣・大分を相手にゴールを守り切った矢澤大夢。横浜は昨シーズン4位の大分に完封勝利を飾った

元日本代表の松井大輔の加入でも話題となったY.S.C.C.横浜とバサジイ大分が対戦した。昨シーズンの順位では、横浜が10位、大分が4位だったが、今シーズンの優勝を目標に掲げる横浜は、大型補強を横行。FIFAフットサルワールドカップリトアニア2021のフットサル日本代表の一員だった矢澤大夢や芝野創太を大分から獲得したほか、ブラジル人のロドリゲス・リッツィ・ガブリエルらが加入した。大学までサッカーをプレーしていた選手らも経験を積み、第1節では成長ぶりを見せた。

開始5分、菅原健太の左足シュートで先制した横浜は、第2ピリオド3分にも芝野が古巣に

恩返し弾を決めてリードを広げる。その後もGK矢澤を中心にゴールを守ると、攻勢を仕掛ける大分から2点を奪って4-0で白星を挙げた。

クラブOBの甲斐修侍が新たに監督に就任したベスカドーラ町田は、開幕戦に1562人の観客を集め、エスポラーダ北海道を迎え討つ。新監督の船出を白星で飾りたい町田だったが、この日は、昨シーズンまで町田に在籍していた元フットサル日本代表の室田祐希に主役の座を奪われる。開始18秒の先制ゴールを含むハットトリックを達成した室田の活躍などで、町田はアウェイの北海道に4点差をつけられ、3-7で敗れて黒星スタートとなった。



町田は開始早々の失点からリズムをつかめず、北海道の2倍のシュートを放ちながら初戦で苦い敗戦を喫した





6連覇を狙う名古屋は完封勝利を収め、幸先の良いスタートを切った

今シーズンから運営母体が変わってチーム名も新たになった立川アスレティックFCは、ホームでバルドラール浦安と対戦した。町田からフットサル日本代表 GKのピレス・イゴールが加入して充実の戦力をそろえた浦安との一戦は実力伯仲の好試合に。しかし、浦安に1-2で敗戦。元フットサル日本代表キャプテンの小宮山友祐監督が率いる浦安にとっては、古豪復活を印象付ける結果となった。

北九州で成長を遂げた清水誠也らすみだには経験を積んで戻った選手が多くいる。そのすみだは、星のパスから清水誠也がゴールを決めて先制するが、第1ピリオドのうち2失点。反撃も実らずに1-3で開幕戦を落としてしまった。これまでの全15シーズンのうち、14シーズンで優勝を飾っている名古屋は、昨シーズン、入れ替え戦の末にディビジョン1残留を果たしたポアルース長野と対戦した。星翔太やペピータら、昨シーズンまでの主力がチームを去ったが、新たに元フットサルブラジル代表のダランが加入するなど、今シーズンも優勝候補の筆頭に挙がっている。名古屋は、フットサル日本代表でキャプテンを務める吉川智貴の活躍もあって、3-0で快勝。6連覇に向けて幸先の良いスタートを切った。吉川はこの試合でFリーグ通算300試合出場を達成した。

多くのイベントを用意し、開幕戦で最多1576人を集めたポルクバレット北九州は、Fリーグ屈指の人気クラブで、昨シーズン2位の湘南ベルマーレと対戦した。北九州は、昨季の得点王でもあるロドリゴに先制されると、その後も失点を重ね、第1ピリオドだけで0-3とリードを広げられ

る。第2ピリオドは互いに点を取り合う展開となったが、第1ピリオドのリードを生かした湘南に3-6で敗れてしまった。注目の開幕戦が終わってからも、フットサル日本代表のエースである清水和也がすみだに復帰、名古屋が元フットサルスペイン代表のアンドレシートを獲得するなど、話題豊富な今シーズンのFリーグ。昨シーズン、下位に沈んだチームが力を付ける一方、大分や町田、上位の常連だったチームが世代交代を迎えるなど、これまでは様相の異なるシーズンとなりそうだ。

1昇格へ強化を進め、かつて大阪のディビジョン1優勝に貢献したブラジル人のチアゴ・セウバックらを獲得。開幕戦では、そのチアゴのゴールもあり、アグレミーナ浜松に5-1の勝利を収めた。リーグ新加入の葛飾は、ポルセイド浜田とのアウェイ戦に臨み、元フットサル日本代表の森岡薫の2ゴールを含む大量6得点を挙げて初勝利を飾った。第2節では、第1節に試合がなかった水戸も、ヴィンセドル白山と2-2で引き分けて勝ち点1を獲得。地域リーグから上がってきた2チームの戦いぶりだが、これまでディビジョン2に所属していたチームに大き

な刺激を与えている。ディビジョン1だけでなく、ディビジョン2のレベルも上がっているFリーグ。2019-20シーズン以来の導入となったプレーオフに進出する3チームはどこになるのか。そして、名古屋、しながわの牙城を崩すチームが出てくるのか注目したい。

ディビジョン2では、2連覇中のしながわシティがディビジョン1

**[Fリーグ2022-2023 大会概要]**

開催期間：2022年6月18日(土)～2023年2月5日(日)  
大会方式：ホーム&アウェイ方式による2回戦 総当たりリーグ戦

**■ディビジョン1(12チーム)**

- ・エスポラーダ北海道
- ・バルドラール浦安
- ・フウガドルすみだ
- ・立川アスレティックFC
- ・ベスカドーラ町田
- ・Y.S.C.C.横浜
- ・湘南ベルマーレ
- ・ポアルース長野
- ・名古屋オーシャンズ
- ・シュライカー大阪
- ・ポルクバレット北九州
- ・バサジヤ大分

**■ディビジョン2(9チーム)**

- ・ヴォスクオーレ仙台
- ・マルバ水戸FC
- ・リガレヴィア葛飾
- ・しながわシティ
- ・ヴィンセドル白山
- ・アグレミーナ浜松
- ・デウソン神戸
- ・広島エフ・ドウ
- ・ボルセイド浜田

**■Fリーグ2022-2023プレーオフ(F1のみ)**

準決勝：2023年2月(予定)  
決勝：2023年2月(予定)  
大会方式：リーグ戦終了後、リーグ戦上位3チームでプレーオフを行う。

**■Fリーグ2022-2023 ディビジョン1・2入替戦**

2023年2月(予定)  
大会方式：  
・リーグ戦終了後、ディビジョン1の12位のチームとディビジョン2の1位のチームでディビジョン1・2入替戦を行う。  
・2試合を開催し、勝利チームがディビジョン1に残留または昇格する。

**F2は2チームが新加入 しながわは3連覇なるか**

ディビジョン2では、2連覇中のしながわシティがディビジョン1

な刺激を与えている。ディビジョン1だけでなく、ディビジョン2のレベルも上がっているFリーグ。2019-20

シーズン以来の導入となったプレーオフに進出する3チームはどこになるのか。そして、名古屋、しながわの牙城を崩すチームが出てくるのか注目したい。



F2第1節の浜田戦で葛飾の森岡薫(左)がFリーグ通算300得点を挙げた



# 日本女子フットサルリーグ 2022-2023 開幕



## 新たな大会方式で開催

2016年にプレ大会が開催され、翌17年に正式大会としてスタートした日本女子フットサルリーグ。昨シーズンと同様10チームが参加し、6月25日から来年1月22日までのリーグ戦を戦う。これまではセントラル方式での1回戦総当たりリーグ戦とリーグ上位3チームによるプレーオフによって年間優勝チームを決定していたが、今シーズンはプレーオフを廃止し、1回戦総当たりリーグ戦の後、上位と下位に分

## 浦安と西宮が好発進

開幕節は6月25日と26日、埼玉県さいたま市のサイデン化学アリーナで開催された。初日、立川アスレティックFCレディース（立川・府中アスレティックFCからチーム名称を変更）は、2年ぶりに菅野大祐監督が復帰したエスポラーダ北海道イルネーヴェと対戦した。諸事情によりベンチ入りメンバーが8名のみとなった北海道に先制を許したが、終盤、サテライトチームから昇格した猪又紅音の同点弾でドローに持ち込んだ。

開幕節は6月25日と26日、埼玉県さいたま市のサイデン化学アリーナで開催された。初日、立川アスレティックFCレディース（立川・府中アスレティックFCからチーム名称を変更）は、2年ぶりに菅野大祐監督が復帰したエスポラーダ北海道イルネーヴェと対戦した。諸事情によりベンチ入りメンバーが8名のみとなった北海道に先制を許したが、終盤、サテライトチームから昇格した猪又紅音の同点弾でドローに持ち込んだ。

アルコ神戸は、チーム生え抜きの中西真由美を新監督に迎え、体制を一新。そのアルコ神戸と、新戦力を加えて上位リーグ進出を狙うフウガドルすみだレディースの対戦は、開幕戦ということもあり、両チーム共に堅実な試合運びを見せる。第2ピリオド、神戸が相手のミスから素早いカウンターで先制ゴールを奪うと、この1点を守り切って白星スタートを切った。

地元で開幕を迎えたさいたまサイコは、福井丸岡ラックと対戦した。第1



地元のさいたまは丸岡に2点のリードを許したが大きく巻き返して4-2に持ち込んだ。

ピリオドは丸岡が3-1とリードを奪うも、第2ピリオドでさいたまの攻撃力が爆発。ホームの応援を受けて終了間際に同点に持ち込み、4-4で勝ち点を分け合った。

2日目には、昨シーズンの年間王者であるバルドラル浦安ラス・ポニータスと準優勝のSWHレディース西宮が登場した。浦安は、昨シーズン最下位に終わった流経大メニーナ龍ヶ崎と対戦。圧倒的な攻撃力で9得点を奪い、9-2で勝利して勝ち点3を獲得した。西宮とミネルバ宇部の一戦は、一方的な展開に。開幕時点でベンチ入りメンバーが7人と厳しい戦力の宇部に対し、西宮は猛攻を仕掛けて8-

0と完勝した。試合数が増え、プレーオフがない新たな大会方式で迎えた今シーズン、各チームはどのような戦略を立ててリーグ戦に臨むのか。プレ大会も含めて7年目となる日本女子フットサルリーグ、10チームの戦いに注目だ。



2022-2023シーズンの日本女子フットサルリーグを戦う10チーム

### 〈日本女子フットサルリーグ2022-2023〉

- 大会形式
  - レギュラーシーズン(6月25日~9月19日)  
10チームによるセントラル方式の1回戦総当たりリーグ戦を実施
  - 上位リーグ・下位リーグ(11月5日~2023年1月22日)  
レギュラーシーズンの上位5チーム、下位5チームの2グループによる1回戦総当たりのリーグ戦を実施。レギュラーシーズン終了後の勝ち点を持ち越し、全5節終了後に順位を決定する。
- 年間順位決定方法
  - ・レギュラーシーズン9節、上位リーグ・下位リーグ5節の全14節が終了した時点で、上位リーグのうち勝ち点の合計が多いチームを年間優勝チームとする。
  - ・上位5チームと下位5チームとの間で順位が入れ替わることはない。
- 参加チーム(10チーム)
  - ・エスポラーダ北海道イルネーヴェ
  - ・流経大メニーナ龍ヶ崎
  - ・さいたまサイコ
  - ・バルドラル浦安ラス・ポニータス
  - ・フウガドルすみだレディース
  - ・立川アスレティックFCレディース
  - ・福井丸岡ラック
  - ・SWHレディース西宮
  - ・アルコ神戸
  - ・ミネルバ宇部



日本サッカー協会（JFA）および  
各リーグ・連盟等のリリース情報、  
活動内容を報告します。

## 日本サッカー協会

## キリングroupとの「日本サッカー協会オフィシャルパートナー」契約に基本合意

JFAとキリンホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、キリンパレージ株式会社は6月1日、2023年から2030年の8年間にわたる「日本サッカー協会オフィシャルパートナー」契約を締結することに基本合意した。

次期パートナーシップ契約は、現在の「日本代表オフィシャルパートナー」から協賛対象範囲を拡張し、全カテゴリーの日本代表チームのほか、各種大会や選手育成、指導者養成、審判、グラスルーツなど、JFAの事業全般をサポートする。

JFAは、40年以上の長きにわたって日本代表チームをサポートしているキリングroupと、日本サッカーの低迷や興隆、スポーツ発展の歴史を共に歩んできた。日本代表チームの強化のみならず、“よろこびがつかなく世界”を目指して、東日本大震災の際には子どもたちを対象としたサッカー教室を開催するなど、各種事業に共に取り組んできた。サッカー、スポーツには、人々の健やかな心身を支え、次世代を育み、年齢や性差などを超えて人々をつなぐ力がある。キリングroupとのパートナーシップ契約継続は、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」というJFA理念に合致するものであり、地域や環境における社会課題の解決、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指すとともに、ウェルビーイングな社会の実現に貢献するという、JFAとキリングroupの共通する目標に向かって活動を加速させていく。

【「日本サッカー協会オフィシャルパートナー」契約概要】

期間：2023年1月1日～2030年12月31日

対象：・サッカー日本代表チーム

SAMURAI BLUE（日本代表）、なでしこジャパン（日本女子代表）、フットサル日本代表、ビーチサッカー日本代表、各年代日本代表、サッカーe日本代表

・大会、育成、指導者養成、審判養成、グラスルーツなどのJFA事業全般



6月1日、日本サッカー協会オフィシャルパートナー契約の基本合意に関する記者会見をJFAハウスのヴァーチャルスタジアムで実施（対面とオンラインのハイブリッド形式）。JFAの田嶋幸三会長（左）、キリンホールディングス株式会社の磯崎典典代表取締役社長が登壇した

## Soccer Medical Camp 2022の開催 ～ニチバン株式会社と協働でアスレティックトレーナーを育成

JFAはJFA Youth & Development Programme（JYD）のオフィシャルパートナーであるニチバン株式会社と、サッカーに関わるアスレティックトレーナーを目指す人々を対象とした育成プロジェクト「SOCCER MEDICAL CAMP 2022」を開催する。今年で3度目の開催となる。このプロジェクトによって、サッカーを安心・安全にプレーできる環境づくりを日本全国に定着させ、メディカル領域からサッカー界の発展をサポートし、将来的な日本サッカー全体の強化を目指す。

### 【サッカーメディカルキャンプ2022概要】

趣旨：サッカーに関わるアスレティックトレーナーを志す方を対象に、JFAの活動に関わるドクターやアスレティックトレーナーからのセミナー機会を提供し、サッカーの現場における怪我予防、応急処置、コンディショニング等の業務に触れる機会を提供する。

主催：ニチバン株式会社、公益財団法人日本サッカー協会

日程：2022年8月23日（火）～10月22日（土）

※スケジュール、内容、講師は変更の可能性あり

実施方法：集合研修およびオンライン

会場：オンライン、JFAハウス会議室、高円宮記念JFA夢フィールド

受講料：無料

※会場までの交通費やオンライン開催時の通信費などは受講生負担

受講人数：全20名（推薦枠10名、一般募集枠10名）

※一般募集は6月24日終了

備考：応募条件は下記の通り。資格の有無は問わない。

- ・将来、サッカー界でアスレティックトレーナーとして活動を志す者（18歳以上、高校生は不可）
  - ・アスレティックトレーナーとして基本的な知識があり、日本スポーツ協会推奨の基本的なテーピングが巻ける者
  - ・オンライン講義では個人で集中できる環境の下で、全日程において高いモチベーションを維持して最後まで参加可能な者
- ※受講生に対して何らかの資格を付与するものではない  
※集合研修は新型コロナウイルスの感染防止対策を行った上で実施する

## JFAウクライナ人道支援募金、義援金を日本スポーツ協会を通じて 特定非営利活動法人国連UNHCR協会に寄付

JFAは、JFAウクライナ人道支援として、6月2日の札幌ドーム（北海道）と同6日の国立競技場（東京都）で行われたキリンチャレンジカップ2022、6月10日のノエビアスタジアム神戸（兵庫県）と同14日のパナソ

ニックスタジアム吹田（大阪府）で行われたキリンカップサッカー2022の4つの会場で募金活動を実施した。

各会場に会場したファン・サポーター、メディアから寄せられた寄付



金(合計753,053円)を義援金として、日本スポーツ協会(JSPO)を通じて特定非営利活動法人国連UNHCR協会へ寄付した。

1. 義援金総額：753,053円  
※募金活動を実施した4会場における寄付金の合計金額
2. 寄付先：日本スポーツ協会を通じて特定非営利活動法人国連UNHCR協会へ寄付

## 筑波大学デジタルネイチャー開発研究センターと共同研究を行うことに合意

JFAと筑波大学デジタルネイチャー開発研究センターは、「物理再構築技術とサッカーの融合」をテーマとした共同研究を実施することについて合意した。6月23日に開催した第8回JFA理事会で決定した。同日、JFAは日本サッカーミュージアムとオンラインのハイブリッド形式での記者会見を実施し、田嶋幸三JFA会長と同センターの落合陽一センター長が登壇した。共同研究の内容は下記の通り。今年7月から研究を開始する予定としている。

### 【共同研究内容(予定)】

1. 世界一のサッカースタジアム観戦環境および新たな視聴環境の開発
  - ・デジタルデータによる自由視点の試合映像の構築
  - ・観戦/視聴におけるダイバーシティ・インクルージョンの追求
2. サッカー技術や指導方法に関わるデジタル技術の開発
  - ・ヴァーチャルリアリティ(VR)やドローンなどの技術を駆使したグラスルーツ向け指導技術の構築
3. 日本サッカーミュージアム、日本サッカー殿堂の監修
  - ・日本サッカーミュージアムにおける展示・掲額のあり方の検討や上記研究技術の転用・検証

### ●田嶋幸三 JFA会長 コメント

科学技術は日進月歩で、スポーツの世界でも新しい技術を取り入れ、競技力の向上や選手強化、戦術などに生かしています。また、5Gという強力な通信インフラが整備されたことにより、ピッチにいるかのような自由視点の映像を楽しめたり、スタジアムにいなくても観客席に座っているかのような視点と視野でサッカーを観戦できたり、あるいは、視覚情報だけに依存しない観戦体験を得られるなど、可能性は大きく広がっています。今回の共同研究により、老若男女・障がいの有無を問わず多くの人々に今まで経験したことがない楽しみ方でサッカーのダイナミズムや魅力を味わっていただくほか、その研究・開発をグラスルーツサッカーの発展、指導技術の向上、JFAのレガシーの有効活用などさまざまな分野に活用していきたいと考えています。

### ●落合陽一 センター長 コメント

筑波大学は日本初の「フットボール部」を組織した高等師範学校を前身に持ち、サッカーとの関わりにおいて日本で最も深く長い歴史を持つといえる大学の一つです。またメディア芸術やデジタル芸術の分野でも国内最古の教育機関の一つであり、多くの先駆者を輩出してまいりました。そのような大学の文化的背景の中、我々デジタルネイチャー開発研究センターは自然と調和するデジタル技術を志向し、視聴触覚の臨場感技術や波動制御技術・最適化技術・人工知能技術を駆使し、持続可能な人・計算機・自然の環境が、多角的に花開く未来に向け歩んでいます。スポーツによる健康の増進、身体感覚の拡張、観戦による共悦的な体験は生活習慣が変化し、分断が顕著な新型感染症以降の世界において人類の調和と発展に重要な意味を持つと考えています。今回の協働によって、サッカーにおける「現在」の観戦・「過去」の歴史の追体験・「未来」に向けた教育が、属性によらない全ての人々に包摂的に提供される一助となれるようまい進していきたいと考えています。



6月23日にヴァーチャルスタジアムでの記者会見に登壇した田嶋幸三JFA会長(左)と落合陽一センター長

## アスパス!の取り組み

### キリンチャレンジカップ2022/キリンカップサッカー2022の試合会場で実施

JFAは、社会貢献やSDGs(持続可能な開発目標)の達成に資する活動を「アスパス!」と称し、サッカーファミリーと共に取り組んでいる。6月のキリンチャレンジカップ2022およびキリンカップサッカー2022でもさまざまな取り組みを実施した。

#### ■「人権・教育」に関する取り組み

- LGBTQ+啓発ブースの出展(6月6日/国立競技場)  
6月のプライド月間の啓発活動に賛同し、場外ブースにてLGBTQ+について知り、理解を深め、会話のきっかけを提供する啓発ブースを出展。
- 児童養護施設で生活する子どもを観戦に招待、日本代表選手とのオンライン交流会を実施(6月14日/パナソニック スタジアム 吹田)  
スタジアムの熱気や選手の気迫あふれるプレーに触れ、非日常の特別な体験を提

供することで、子どもたちがサッカー・スポーツのすばらしさを感じ、夢に向かってチャレンジする一助となることを目指して実施。今回は、児童養護施設で生活する子どもたちと関係者100人を試合に招待するほか、6月11日と12日には日本代表選手とのオンライン交流会を実施した。

- 「JFA STORE」での優先レーンの設置(6月6日/国立競技場、6月10日/ノエビアスタジアム神戸、6月14日/パナソニック スタジアム 吹田)  
「JFA STORE」の売店で体が不自由な方や妊婦の方などが快適に買い物ができるよう、会計に優先レーンを設置。
- 視覚障がい者に向けた実況解説シートの設置(全会場)  
視覚に障がいがある人も耳で試合を楽しめるよう、実況解説シートを設けてスタジアム内専用ラジオから生放送で実況と解説を届けた。受付とシートエリア内には数名のサポートスタッフが待機し、サポートした。



## JFAリリースインフォメーション&amp;活動報告 月刊レポート

- 一人で座って観戦することが難しい子どもを対象としたポータブルチェア実証実験(6月14日/パナソニック スタジアム 吹田)  
脳性麻痺などの障がいがあり、自分で座席に座っていることが難しい子どもを対象に3組10名の家族を招待。障がいの有無にかかわらず、誰もが試合観戦を楽しむことができる環境づくりを目指した。
- センサリールームの設置・観戦サポート(6月14日/パナソニック スタジアム 吹田)  
聴覚や視覚など感覚過敏などを含む発達障がいの特徴のある子どもとその家族を仮設のセンサリールーム(\*)での観戦に招待した。  
(\*)照度を抑えた照明と大きな音や声などの大音量を遮る部屋で、人混みや大音量を避け、ガラス越しにサッカー観戦や映画などを楽しめる空間。
- 「環境」に関する取り組み
- adidas「RUN FOR THE OCEANS」とJFAの取り組み  
6月6日のキリンチャレンジカップ2022(対ブラジル代表)当日、試合開始前の国立競技場内を走り、セッション後には試合観戦ができる特別な企画「KOKURITSU RUN」を開催。また、「JFA アディダス RUN FOR THE OCEANS キャンペーン」として、6月のキリンチャレンジカップ2022の2試合で日本代表選手が試合中の走った時間、および6月4日に幕張海浜公園で行ったビーチクリーン活動(17ページ参照)の参加者のクリーン活動参加時間の全てをRUN FOR THE OCEANSの走行時間としてカウントした。
- JFA×キリン ペットボトル3分別回収啓発活動(6月6日/国立競技場、6月10日/ノエビアスタジアム神戸、6月14日/パナソニック スタジアム 吹田)  
JFAとサッカー日本代表オフィシャルパートナーであるキリンは、分別回収の社

会的意義に取り組むため、ペットボトル資源循環プロジェクトを開始。第1弾として、3会場でペットボトルの3分別回収を啓発・促進する取り組みを行った。

- サッカーボールの寄付(全会場)  
まだ使えるサッカーボールを持ち寄ってもらい、海外各地へ支援物資としてサッカーボールを送る取り組みを実施。
- 環境に配慮した試合運営(全会場)  
試合運営で必要になる紙資料などをできる限りデータで展開し、廃棄物の削減を目指した。
- 温室効果ガス算定(全会場)  
大会運営に関する温室効果ガスの算定を、東京都市大学の協力の下に実施した。
- 「健康」に関する取り組み
- 元日本代表と歩いてウォーキングフットボールをプレー(6月10日/ノエビアスタジアム神戸)  
老若男女、サッカー経験の有無を問わず一緒に楽しめる「ウォーキングフットボール」を実施。ゲストとして元日本代表の播戸竜二氏、元日本女子代表の澤穂希氏、宮間あや氏が参加した。
- そのほかSDGsに関連する取り組み(発信)
- SDGsブースの出演(全会場)  
来場者にサッカーやスポーツを通じた社会貢献、JFAのSDGsの取り組みなどを紹介し、共に取り組んでいくことを呼びかけるブースを出演。

## なでしこジャパン(日本女子代表)

## 10月の国際親善試合の対戦相手はナイジェリア、ニュージーランドに決定

10月6日(木)にノエビアスタジアム神戸(兵庫県)、同9日(日)に長野Uスタジアム(長野県)で開催するなでしこジャパン(日本女子代表)の国際親善試合の対戦相手がそれぞれナイジェリア女子代表、ニュージーランド女子代表に決定した。

## 【国際親善試合 開催概要】

日時 : 2022年10月6日(木)※キックオフ時間は調整中  
会場 : 兵庫県/ノエビアスタジアム神戸  
対戦カード : なでしこジャパン(日本女子代表) 対 ナイジェリア女子代表  
主催 : 公益財団法人日本サッカー協会  
日本代表オフィシャルパートナー : キリンビール株式会社、  
キリンビバレッジ株式会社  
日本代表オフィシャルサプライヤー : アディダス ジャパン株式会社  
テレビ放送 : 調整中

日時 : 2022年10月9日(日)※キックオフ時間は調整中  
会場 : 長野県/長野Uスタジアム  
対戦カード : なでしこジャパン(日本女子代表) 対 ニュージーランド女子代表  
主催 : 公益財団法人日本サッカー協会  
日本代表オフィシャルパートナー : キリンビール株式会社、  
キリンビバレッジ株式会社  
日本代表オフィシャルサプライヤー : アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送 : 調整中

## ●池田太 なでしこジャパン監督 コメント

10月の国際親善試合にナイジェリア女子代表、ニュージーランド女子代表という素晴らしい2チームと戦えることをうれしく思います。ナイジェリアはダイナミックさがあり、アフリカ大陸で強さを見せているチームです。ニュージーランドは来年のFIFA女子ワールドカップのホスト国として一層の準備を進めています。欧米のチームだけでなく、ワールドカップに向けてさまざまな特徴のある国との試合を重ね、自分たちの経験を高めていかなければなりません。多くの方々に楽しんでもらえる熱い戦いをお見せしたいと思います。

## ※対戦国関連データ

- ・ナイジェリア女子代表  
FIFAランキング : 39位(2022年6月17日更新)  
過去の対戦成績 : 3試合/日本の2勝1敗(4得点1失点)
- ・ニュージーランド女子代表  
FIFAランキング : 22位(2022年6月17日更新)  
過去の対戦成績 : 9試合/日本の7勝2分け(21得点8失点)

## U-17日本女子代表

## FIFA U-17女子ワールドカップインド2022、組み合わせが決定

FIFA U-17女子ワールドカップインド2022(10月11日~30日)の組み合わせ抽選会が6月24日、スイスのチューリヒで行われ、グループス

テージの組み合わせが決定した。



●FIFA U-17女子ワールドカップインド2022 組み合わせ  
 グループA A1: インド、A2: アメリカ、A3: モロッコ、A4: ブラジル  
 グループB B1: ドイツ、B2: ナイジェリア、B3: チリ、B4: ニュージーランド  
 グループC C1: スペイン、C2: コロンビア、C3: メキシコ、C4: 中国  
 グループD D1: 日本、D2: タンザニア、D3: カナダ、D4: フランス

●U-17日本女子代表 マッチスケジュール(時間は現地時間)  
 ・グループステージ  
 第1戦 10月12日(水) 20:00  
 U-17日本女子代表 対 U-17タンザニア女子代表  
 第2戦 10月15日(土) 20:00  
 U-17日本女子代表 対 U-17カナダ女子代表  
 第3戦 10月18日(火) 20:00  
 U-17フランス女子代表 対 U-17日本女子代表  
 ※試合会場は3試合全てPandit Jawaharlal Nehru Stadium(ゴア/インド)  
 ・ノックアウトステージ  
 準々決勝 10月22日(土) ゴア/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium  
 準決勝 10月26日(水) ゴア/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium

3位決定戦 10月30日(日) ナビムンバイ/DY Patil Stadium  
 決勝 10月30日(日) ナビムンバイ/DY Patil Stadium

●狩野倫久 U-17日本女子代表監督 コメント  
 FIFA U-17女子ワールドカップは、この世代が国際大会を通じて世界の各チームと真剣勝負ができる非常に貴重な機会であり、国際経験を積む重要な大会です。チーム立ち上げ当初から取り組んできた日本の武器、個々の強みを最大限に生かし、アグレッシブで攻撃的なサッカーを展開すること、そして世界の舞台で選手たちが躍動しトロフィーを掲げることを、チーム一丸となって目指します。グループステージで対戦するタンザニア、フランス、カナダをはじめ、ワールドカップの出場国はどれも強豪で、簡単な試合は一試合もありません。U-17日本女子代表は、大きな目標をサッカーに対する情熱やパワー、エネルギーに代え、一試合一試合、全力で挑むチャレンジャーチームです。大会に向け、最善の準備をして臨みたいと思います。

## フットサル日本代表

### 9月の国際親善試合でフットサルブラジル代表と対戦

9月15日(木)に鳥根県の松江市総合体育館、9月18日(日)に愛知県のスカイホール豊田で開催する国際親善試合において、フットサル日本代表がフットサルブラジル代表と対戦することが決定した。フットサル日本代表にとって、9月下旬に開幕するAFCフットサルアジアカップクウェート2022に向けた強化試合となる(6月30日発表)。

なお、鳥根県での全カテゴリーにおける日本代表戦の開催は初めて。愛知県豊田市でのフットサル代表戦開催も今回が初となる。

#### 【国際親善試合 概要】

日時: 2022年9月15日(木)※キックオフは調整中  
 対戦: フットサル日本代表 対 フットサルブラジル代表  
 会場: 鳥根県/松江市総合体育館  
 主催: 公益財団法人日本サッカー協会  
 主管: 一般社団法人鳥根県サッカー協会  
 日本代表オフィシャルパートナー: キリンビール株式会社、  
 キリンビバレッジ株式会社  
 日本代表オフィシャルサプライヤー: アディダス ジャパン株式会社

日時: 2022年9月18日(日)※キックオフは調整中  
 対戦: フットサル日本代表 対 フットサルブラジル代表  
 会場: 愛知県/スカイホール豊田

主催: 公益財団法人日本サッカー協会  
 主管: 公益財団法人愛知県サッカー協会  
 日本代表オフィシャルパートナー: キリンビール株式会社、  
 キリンビバレッジ株式会社  
 日本代表オフィシャルサプライヤー: アディダス ジャパン株式会社

●木暮賢一郎 フットサル日本代表監督 コメント  
 2020年2月19日以来、約2年半ぶりに国内での親善試合ができること、ブラジルと対戦できることをうれしく思います。過去には、2006年と2012年にブラジルと国内親善試合を行っていますが、満員の会場でプレーしたのを今でもはっきりと覚えています。特に2012年は三浦知良さんが共にプレーしたこともあって盛り上がりもすばしく、結果も3-3の引き分けでした。昨年のFIFAフットサルワールドカップではベスト16でブラジルと対戦し、2-4で敗れました。再び国内で対戦できることは日本フットサル界にとっても素晴らしい機会になると思います。ブラジルはサッカー、フットサルの両方において名実ともにナンバーワンの国です。先日、キリンチャレンジカップ2022のSAMURAI BLUE 対ブラジル代表戦がかなりの盛り上がりを見せたことも記憶に新しいと思います。ぜひこの機会に、多くの方々にフットサルの魅力を知っていただけたらと思います。

## Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)

### クラブライセンス判定における財務基準

Jリーグは、クラブライセンス判定における財務基準について、2022年度は特例措置を延長せず、2021年度末をもって特例措置を終了することを決定した(6月28日発表)。

2021年第10回理事会(2021年10月28日)で2021年度末までは特例措置を継続し、その後2年の猶予期間を設けた上で、元の基準に戻す(特例措置なし)ことを決議。その際、「今後状況が大きく悪化した場合は、

2022年度のライセンス判定に向けて特例措置の延長も検討する」としていたが、コロナ事由によって再び入場制限が厳しくなった事例もなく、入場料収入が大きく下がる見込みもないことから、「特例措置延長の必要性はない」と判断した。

なお、猶予期間の延長については、外部環境・内部環境等を踏まえ、2022年10月に判断する。



## 鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ百年構想クラブの資格

Jリーグは6月28日に開催した理事会で、鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ百年構想クラブの資格について下記の通り決定した。

【鈴鹿ポイントゲッターズのJリーグ百年構想クラブの資格について】

●決定事項：Jリーグ百年構想クラブの資格を失格とする

●失格に至る理由：

鈴鹿ポイントゲッターズは、2022年2月28日に開催した第2回理事会にて、懲罰の対象となりうる行為の発覚、ならびにクラブのガバナンス体制に不備があると判断しうる複数の事情が認められるなど、Jリーグ百年構想クラブ規程第7条第1項第1号に定める「Jリーグの目的に

反する行為」が認められたことから、Jリーグ百年構想クラブの資格について解除条件付きの資格停止となった。

解除条件として、クラブがガバナンス体制を改善する意思があり、2022年6月のJ3ライセンス申請期限までに入会を認め得る状況に改善する可能性があることを前提に、「ガバナンス体制の改善」ならびに「ステークホルダーからの支援継続」が実効的に機能し実践されているとJリーグ理事会において判断されることが必要であったが、2022年6月28日の第6回理事会において、ガバナンスの改善に至ると客観的に判断でき得るまでの十分な体制構築が行われていないことから、解除条件を満たすことができないと判断した。

## WEリーグ(日本女子プロサッカーリーグ)

### 2021-22 WEリーグアウォーズを開催～WEリーグ初代MVPは山下杏也加選手

WEリーグは6月7日、東京都のビルボードライブ東京で、「2021-22 WEリーグアウォーズ(英語表記: 2021-22 WE LEAGUE AWARDS)」を開催した。勝村政信さん(俳優)と榎戸教子さん(フリーアナウンサー)が進行役を務めた。また、アウォーズの様子はDAZNおよびDAZN YouTubeでライブ配信された。

WEリーグ最優秀選手賞を受賞した山下杏也加選手(INAC神戸レオネッサ)には、正賞として賞金50万円とガラス製盾、副賞としてタイトルパートナーのYogiboから賞金100万円とMVP特別仕様のYogibo MAXが贈呈された。フェアプレー賞は、2021-22 Yogibo WEリーグにおける反則ポイントの年間合計数およびマッチコミッションナーによる各試合におけるフェアプレーに対する評価を総合的に考慮して選考委員会で決定され、三菱重工浦和レッズレディースが受賞。最も印象的なWE ACTION DAYの取り組みに贈られる「2021-22 MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」はちふれASエルフェン埼玉が受賞した。その他表彰各賞と受賞者は下記の通り。

【2021-22 WEリーグ受賞者一覧】

●最優秀選手賞(MVP)

GK 山下杏也加(INAC 神戸レオネッサ)

●2021-22 WEリーグ ベストイレブン

GK 山下杏也加(INAC 神戸レオネッサ)

DF 高橋はな(三菱重工浦和レッズレディース)

DF 清家貴子(三菱重工浦和レッズレディース)

DF 南萌華(三菱重工浦和レッズレディース)

DF 清水梨紗(日テレ・東京ヴェルディベレーザ)

DF 三宅史織(INAC 神戸レオネッサ)

MF 安藤梢(三菱重工浦和レッズレディース)

MF 柴田華絵(三菱重工浦和レッズレディース)

MF 成宮唯(INAC 神戸レオネッサ)

FW 菅澤優衣香(三菱重工浦和レッズレディース)

FW 田中美南(INAC 神戸レオネッサ)

●得点王

FW 菅澤優衣香(三菱重工浦和レッズレディース)

●2021-22 Yogibo WEリーグ 優勝

INAC 神戸レオネッサ

●2021-22 Yogibo WEリーグ 準優勝

三菱重工浦和レッズレディース

●2021-22 Yogibo WEリーグ 3位

日テレ・東京ヴェルディベレーザ

●フェアプレー賞

三菱重工浦和レッズレディース

●優秀監督賞

星川敬 監督(INAC神戸レオネッサ)

●優秀審判員賞

2021-22 Yogibo WEリーグ 担当審判員 \*1

\*1 今年度は「最優秀審判賞」を選考せず、WEリーグ担当審判員全員を「優秀審判賞」として表彰

●2021-22 MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY

ちふれASエルフェン埼玉 第11節「子どもたちの未来に夢や希望を！」(受賞理由)ダイバーシティの中でも家庭環境の多様性に着目し、行政と連携しながら、難しいバックグラウンドを持つ児童養護施設の子どもたちと心のこもった交流を行ったこと。スポンサーを募り、選手デザインのオリジナルウェアを作成して子どもたちに渡すなど、選手が企画から実施、当日の進行まで積極的に関わり、クラブの独自性と主体性を表現した活動となっていた。

●特別賞

WEリーググラスルーツパートナーのダイハツ工業株式会社より、グラスルーツ活動への尽力に敬意を表して、WEリーグ全11クラブにサッカーボール(4号球)10個を贈呈。

※参考：WEリーグ表彰規程(<https://weleague.jp/pdf/regulation/11.pdf>)



2021-22 WEリーグベストイレブン



初代MVPに輝いた山下杏也加選手



MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAYを受賞したちふれASエルフェン埼玉にはガラス製プレートが贈られた



## 2021-22 WEリーグアウォーズ、演出にはWEリーグと同じく 世界を目指す各界のスペシャリストが結集

6月7日に開催された「2021-22 WEリーグアウォーズ」では、世界を  
目指すWEリーグと同じ志を持った各界のスペシャリストたちによる演  
出が施された。

ステージデザインは、テキスタイルデザイナーの久米希実さん、建築家  
の植村遥さんによるユニット「オンデルデリンデ」が担当。ビルボードラ  
イブ東京のステージにファブリック(カーテン)を使った装飾が登場し  
た。音楽を担当したDJ YUMMYさんは、ハウスミュージックを独自に解  
釈した表現を得意とし、日本のDJカルチャーの女性進出を大きくけん引

した一人。乾杯のオリジナルカクテル/モクテルを振る舞ったのは、ザ・  
ペニンシュラ東京ビバレッジマネージャーの鎌田真理さん。鎌田さんは  
ディアジオ社が主催するワールドクラスカクテルコンペティション日本  
大会の初代チャンピオン(2009年)で、日本一6回を誇るビバレッジのス  
ペシャリストである。受賞者のポートレート撮影は若手写真家でドラマの  
スチール・メイキング撮影でも活躍中の北園莉奈さんが担当し、優勝  
トロフィーと優勝メダルを制作した菅原工芸硝子のガラス職人・桑升桃  
子さんも参加した。

## 2021-22 Yogibo WEリーグ みんなで選ぶベストゴール!を開催

WEリーグは、2021-22 Yogibo WEリーグで記録された全260得点の  
うち、ファン・サポーターをはじめとする“みんな(WE)”の投票によって  
ベストゴールを決定する「2021-22 Yogibo WEリーグ みんなで選ぶベ  
ストゴール!」企画を開催した。

同企画は、各クラブからノミネートされた全11ゴールに対するTwitter  
のリツイート数やいいね数、Instagramのいいね数をポイントとして合算  
し、最もポイントが高かったゴールを「2021-22 Yogibo WEリーグ ベス  
トゴール」として表彰するというもの。企画概要は6月1日に発表され、同5  
日までを投票期間としてポイントを集計。その結果、第1節で三菱重工浦  
和レッズレディースの塩越柚歩選手が決めたゴールがベストゴールに決  
定した。塩越選手のゴールは合計3,735ポイントを集め、SNSでは「WE  
リーグへの期待値を極限まで高めたスーパーゴール」「このゴール見て  
ファンになった」といったコメントが寄せられた。ベストゴールに輝いた  
クラブ/得点者にオリジナルWEリーグロゴモニュメントが贈呈される。

【2021-22 Yogibo WEリーグ みんなで選ぶベストゴール! 投票結果】

### ●1位 (3,735ポイント)

三菱重工浦和レッズレディース

第1節 vs東京NB 88分 塩越柚歩 選手

(クラブからの選出理由)WEリーグ開幕戦で、日テレ・東京ヴェルディ  
ベレーザ相手に88分という時間帯で勝ち越しを決めた素晴らしい  
ゴール。チーム全員で勝ち取り喜びを分かち合った勝利をもたらした  
ゴールで、WEリーグシーズンの幕開けに相応しいベストゴール。

### ●2位 (1,850ポイント)

サンフレッチェ広島レジーナ

第20節 vs埼玉EL 17分 上野真美 選手

### ●3位 (1,427ポイント)

AC長野パルセイロ・レディース

第11節 vsマイ仙台 50分 奥津礼菜 選手

## 2021-2022年度第12回理事会を開催

WEリーグは6月22日に第12回理事会を開催した。決議事項や報告事項  
は下記の通り。その他詳細はWEリーグ公式ウェブサイト参照。

### 【第12回理事会 報告事項】

#### ●2021-22年度総括

2021年7月~22年6月期のリーグ実績の総括について報告した。次ペ  
ージ右表およびWEリーグ公式ウェブサイト参照。

### 【第12回理事会 決議事項】

#### ●2022年度予算

2022年7月~23年6月期予算について承認した。

### 正味財産増減予算書

2022年7月1日から2023年6月30日まで

(単位:円)

科目	金額
I一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 受取年会費	( 220,000,000 )
② 受取補助金等	( 435,000,000 )
③ 協賛金収益	( 550,000,000 )
④ 入場料収益	( 10,000,000 )

科目	金額
経常収益計	1,215,000,000
(2) 経常費用	
① 事業費	( 998,817,175 )
リーグ運営費	108,013,175
カップ戦事業費	87,500,000
広報事業費	61,094,000
プロモーション事業費	27,750,000
マーケティング事業費	144,670,000
放送制作費	129,300,000
システム開発費	5,600,000
クラブ配分金	0
事業理念推進補助金	390,000,000
理念推進関連費用	13,060,000
その他事業費	31,830,000
② 管理費	( 213,166,000 )
役員報酬	32,370,000
給与手当	52,500,000
退職給付費用	0
役員退職慰労引当金繰入額	4,500,000
福利厚生費	2,750,000
旅費交通費	9,280,000
会議費	800,000
通信費	3,450,000
事務用品費	1,180,000
修繕費	750,000



科目	金額
水道光熱費	960,000
賃借料	684,000
保険料	0
租税公課	36,300,000
業務委託費	43,000,000
支払手数料	1,100,000
支払報酬	6,552,000
諸会費	1,000,000
雑費	15,990,000
経常費用計	1,211,983,175
当期経常増減額	3,016,825
当期一般正味財産増減額	3,016,825

●2022年度事業計画

2022年度事業計画について承認した。WEリーグ公式サイト参照。

●2022-23 Yogybo WEリーグ開催日程

2022-23 Yogybo WEリーグは2022年10月22日(土)または23日(日)~2023年6月10日(土)または11日(日)に開催予定とする。

●ホームタウン追加申請

日テレ・東京ヴェルディベレーザより、ホームタウンの追加申請を受領し、承認した。

(1)ホームタウンの変更(追加)内容

- 変更前：北区、板橋区、稲城市、多摩市、日野市、立川市
- 変更後：北区、板橋区、足立区、稲城市、多摩市、日野市、立川市

(2)ホームタウン変更(追加)申請理由

2020年度に足立区から全6回の障がい者向けスポーツ教室指導事業を受託し、区内での活動を開始した。区内の障がい者福祉施設の利用者を対象とした活動は、2021年度に年間24回、2022年度に年間34回(予定)とその開催回数を増加させてきた。足立区の区政90周年である2022年、スポーツを通して将来のより住みよい街づくりを推進していくために、足立区と東京ヴェルディ株式会社による「運動・スポーツに関する連携・協力協定」が締結された。正式な連携に伴い、ホームタウン変更(追加)を申請する。

2021-22シーズン総括！EXECUTIVE SUMMARY

VISION 01: サッカー事業  
 GOOD  
 ・プロ化による環境改善  
 ・新型コロナウィルス感染対策の徹底  
 ・「楽しくフェア」なプレー  
 NEXT  
 ・スタジアム観客に注力  
 ・リーグ認知度向上、興味関心の拡大  
 ・競技力の可視化

VISION 02: 社会事業  
 GOOD  
 ・社会事業 [WE ACTION] の実施  
 ・クラブ、選手による [WE ACTION DAY] を実施で22回開催  
 ・パートナーやメディア、クラブ、選手が参加する [WE ACTION MEETING] を2回開催  
 NEXT  
 ・「課題発見」から「実践」へ移行。  
 ・ステークホルダーと連携し、具体的なアクションを創出する。

VISION 03: 組織・事業基盤  
 GOOD  
 ・11社とパートナーシップ協約を締結  
 ・公益法人化  
 ・女性専用トイレの導入  
 NEXT  
 ・高度化による収入源の確保  
 ・さらなるパートナーシップの構築  
 ・クラブ経営体質転換と経営の安定化  
 ・女性リーダー育成、意識改革

2021-22年度総括より抜粋

日本女子フットサルリーグ

日本女子フットサルリーグ2022-2023大会概要

日本女子フットサルリーグは6月15日、2022-2023シーズンの大会概要およびスポンサー、パートナーを併わせて発表した。

【日本女子フットサルリーグ2022-2023大会概要】

- 大会名称：日本女子フットサルリーグ2022-2023
- 主催：公益財団法人日本サッカー協会、一般社団法人日本フットサルトップリーグ
- 主管：日本女子フットサルリーグ
- 後援：一般財団法人日本フットサル連盟
- オフィシャルスポンサー：日本トリム(株式会社日本トリム)
- オフィシャルボールスポンサー：sfida(株式会社イミオ)
- オフィシャルパートナー：ATHLETA(株式会社アスレタ)、カルチョ(株式会社TYKグループ)

- オフィシャルPRパートナー：PR TIMES(株式会社PR TIMES)
- オフィシャルサポートカンパニー：マクロミル(株式会社マクロミル)
- 開催期間：2022年6月25日(土)~2023年1月22日(日)
- 大会形式：(レギュラーシーズン)10チームによるセントラル方式の1回戦総当りリーグ戦  
(上位リーグ・下位リーグ)レギュラーシーズンの上位5チーム、下位5チームの2グループによる1回戦総当りのリーグ戦
- 年間順位決定方法：レギュラーシーズン9節、上位リーグ・下位リーグ5節の全14節が終了した時点で、上位リーグのうち勝ち点の合計が多いチームを年間優勝チームとする。上位5チームと下位5チームとの間で順位が入れ替わることはない。

2022-2023シーズンも「SPOTV NOW」での配信が決定

日本女子フットサルリーグは6月15日、2021-2022シーズンに続き、「SPOTV NOW」で全65試合の無料配信が決定したことを発表した。SPOTV NOWは、株式会社LIVE SPORTS MEDIAが運営するライブ配信メディアで、スマートフォンやタブレット、パソコンからWoman Athletes Project(WAP\*)に加盟するWリーグ(女子バスケット)、ホッケー女子リーグ、日本女子フットサルリーグ(女子フットサル)など国内女子トッ

プリーグの試合をライブ配信で視聴することができる。なお、国内女子トップリーグ各種コンテンツは、SPOTV NOWの無料会員登録により、無料で視聴が可能。

(\*)Woman Athletes Project(WAP)は、一般社団法人日本トップリーグ連携機構が行う女性アスリート支援プロジェクト。





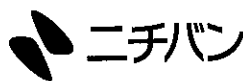
日本サッカーの発展のため、  
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme



OFFICIAL PARTNER

TOYOTA



molten®  
For the real game

GREENPROJECT PARTNER

TOA  
東亜道路工業

FUJITA  
DaiwaHouse Group

JYD SUPPORTER

Deloitte.  
デロイト トーマツ

日本総研  
The Japan Research Institute, Limited

The Pokémon Company

あそびと教育



ボーンランド

JYD







# 2022/23競技規則 改正

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から2022年6月16日付回状第25号をもって2022/23年の競技規則改正を含む、第136回IFAB年次総会における決定について通達された。

通達自体の日本語訳(概略)は、下記の通り。競技に直結する規則の改正の数は少ないものの、2020年5月のIFAB通達により、「第3条-競技者」において使える交代要員を最大で3人から5人とした暫定的な改正を、今回の改正で正式に第3条の規定とした注目すべき改正があった。

これまで通り、サッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員はこれらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたい。

IFABからの回状に添付されている「2022/23年競技規則-概要と詳細」は、必要に応じ「JFAの解説」を加えたものを下記に掲載している。各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、あわせてお願いしたい。

これらの改正等は、昨年より競技者、チーム役員および審判員が競技規則の変更を習熟する時間を取るために、国際的には2022年7月1日から有効となっている。日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、下記の通り適用される。

なお、今回の競技規則の主な改正についての説明用映像を本協会のホームページに掲載している。

## 第136回国際サッカー評議会年次総会の決定

当初の年次総会(AGM)は延期されたが、2022年6月13日、IFABはドーハにおいて第136回AGMを開催した。年次総会は、FIFAのジャンニ・インファンティーノ会長が議長を務め、IFABの5つの構成メンバーであるFIFA、スコットランドFA、(イングランド)FA、アイルランドFA、ウェールズFAからの代表者が出席した。

競技規則の変更案は既にIFABの理事会メンバーにより承認され、2022年3月25日付IFAB回状24(<https://downloads.theifab.com/downloads/circular-24?l=en>)をもって通知されているところだが、AGMの出席者によって、正式に裁可された。

第3条(競技者)の改正が追加され、競技会が氏名を届けられる交代要員の数を最大12人から15人に増やせることについても承認された。

2022/23年の競技規則のすべてはIFABのウェブサイトやアプリからダウンロードでき、また、直接アクセスすることもできるようになっている(<https://downloads.theifab.com/downloads/laws-of-the-game-202223?l=en>)。

出席者はまた、世界レベルで実施されている「脳振盪による交代(再出場なし)」の追加に関する試行の暫定的分析結果について、説明を受けた。140を超える競技会がこの試行に参加したが、(昨年の)年次事務会議において、科学的に有効な判断を下せるように十分な医学的データを収集すべく、試行を2023年8月まで延長することを決定し、AGMとしてこの決定を支持することとした。「脳振盪による交代(再出場あり)」についても再検討されたが、出席者は、実際に脳振盪となった、あるいはその疑いがある競技者を退場させ、その試合では引き続きプレーさせないようにするため、今後も「再出場なしの交代」に焦点をあて試行を継続していくべきであると合意した。試行の実施手順が正しく適用されるよう、さらなる教育が必要であることについても合意された。

さらには、ビデオアシスタントレフェリー(VAR)技術をより多くの競技会で用いることができるVAR Light(簡易なVAR)の技術革新について、FIFAがその最新情報を説明した。VAR Lightは、既に100以上の試合で試行されている。また、ビデオ審判員がオフサイドかどうかについて、より速く、また精度高く、判断できるシステム(いわゆる、「半自動オフサイドテクノロジー」)の成功についても説明した。

また、施設基盤や予算が非常に限られた競技会での審判員を援助する「ビデオサポート」の提供など、その他の技術コンセプトの試行も検討された。より詳細な情報は、今後提供される。

その他、試合中にレフェリーの特定の判定を解説する可能性、よりフェアにプレー時間を計算できるかどうか、またキックインなどの試行についても話し合われた。同様に、FIFAから、限定的であるものの、現在進められているオフサイドの考え方の修正案試行についての最新情報が紹介された。

すねを少ししか保護することができない、とても小さなシンガード(すね当て)の使用について、懸念が示された。これは、最終的にはクラブやチームと連携してそれぞれの競技者の責任で行うべきものではあるが、AGMとしては、競技会が競技者に適正な大きさのシンガードの着用を勧められるようにしたい。

### 改正の可能性が高い競技規則や関連プロセスの提案について

IFABは、サッカーの試合の継続的な発展に取り組む続けるが、そのためにも導入の実現性が高いアイデアや競技規則改正の可能性について試行



# 2022/23競技規則 改正

することがある。しかしながら、有効な結果を確実に得るため、試行は合意に基づく実施手順および要件を用い、かつ適切な管理の下、実施されなければならない。つまり、競技規則の一部変更の実施、または試行は、IFABに承認されていなければならない。競技会においてはIFABとFIFAの参画なく、そのような実施や試行を進めることはできないことを、すべてのサッカーのステークホルダーは知っておかなければならない。競技規則の変更につながる提案の実施手順については、近くお知らせする。

## 2022/23年競技規則は、7月1日から有効

2022/23年競技規則が有効になるのは、2022年7月1日。この期日以前に始まる競技会については、変更を早めて施行することも、また、次シーズンが始まる前までであれば、施行を遅らせることも可能である。

われわれはグローバルな意見交換を維持することとしている。それによって競技規則が引き続き、より良いものになり、すべてのレベルのサッカーのピッチ上で、フェア、インテグリティが促進され、また、守られることになる。

みなさま方のご協力に感謝する。何か疑義、質問あれば、ご連絡いただきたい。

国際サッカー評議会  
事務局長ルーカス・ブラッド

# 2022/23年競技規則 変更

## 【競技規則変更の概要】

主な変更の概要は、下記の通り。

### 第3条—競技者

- 競技規則の暫定的な改正により、「トップ」の競技会では5人までの交代要員（交代回数の制限があるもの）を使えることが認められているが、これを、暫定的ではなく正式に、第3条の規定とする。
- 競技会規定により最大15人の交代要員の氏名を届けられることができる。

### 第8条—プレーの開始および再開

- チームが取るエンドおよびキックオフを決定するためのコイントスは、主審によって行われることを明確化する。

### 第10条—試合結果の決定

- 試合中のみならずペナルティーマークからのキック（PK方式）のときであっても、チーム役員は警告される、または退場を命じられることがあることを明確化する。

### 第12条—ファウルと不正行為

- ゴールキーパーが自分自身のペナルティーエリア内でボールを手や腕で扱う場合（ハンドの反則にならない）について明確化する。
- 競技者が主審の承認なく競技のフィールドから離れ、その後、外的要因に対して反則を犯したときに与えられるフリーキックの位置について明確化する。

### 第14条—ペナルティーキック

- ペナルティーキックが行われる前、および行われたときにゴールキーパーがつく位置について明確化する。

## すべての競技規則変更の詳細

次は、2022/23年競技規則への変更となる。各変更には、新しい／改正／追加の文章をこれまでの文章と共に示している。また、必要に応じ、変更理由を書き加えている。

### 第3条—競技者:トップの競技会における交代要員の追加

#### 2. 交代の数

##### 【改正された文章】

##### 公式競技会

公式競技会の試合においては最大5人の交代要員を使うことができ、その数は、FIFA、大陸連盟または各国サッカー協会が決定する。ただし、トップディビジョンにおけるクラブのトップチームまたは各国の「A」代表チームが出場する男子および女子の競技会では、交代は、最大で3人までとする。競技会規定により、最大5人の交代要員を使えることが認められる。各チームは、

- 最大3回の交代回数を使うことができる。\*
- これに追加して、ハーフタイムにも交代を行うことができる。

\*両チームが同時に交代を行った場合、両チームが交代の回数を使ったとカウントする。同一の競技の停止中にチームが複数の交代（および交代の要求）を行った場合、1回の交代回数を使ったとカウントする。



## 延長戦

- チームが最大の交代要員数または交代回数を使わなかった場合、使われなかった交代要員数および交代回数は、延長戦で使うことができる。
- 競技会規定により、延長戦において更にもう1人の交代要員を使うことができるとした場合、各チームに1回、追加の交代回数が与えられる。
- 交代は、後半終了と延長戦の間、また、延長戦のハーフタイムにも行うことができる。ここでの交代は、交代回数を用いたとしてカウントしない。

競技会規定には、次について明記しなければならない。

- 3人から最大1215人までの範囲で、氏名を届けすることができる交代要員の数。
- (チームが認められたすべての交代要員を使い切っている、いないにかかわらず)試合が延長戦に入ったとき、さらにもう1人の交代要員が使えるかどうか。

## その他の試合

国際各国の「A」代表チームの試合においては、最大1215人の交代要員の氏名を届けことができ、そのうち最大6人の交代要員を使うことができる。

(…)

また、交代の数に関する「競技規則の修正全般」の変更を参照のこと。

## 【解説】

暫定的な第3条の改正により、トップディビジョンにおけるクラブのトップチームまたは各国の「A」代表チームが出場する男子および女子の競技会において、交代については1試合5人までの交代要員を使うことが(交代回数の制限があるものの)認められているが、これを暫定的ではなく正式に第3条の規定とする。

加えて、競技会規定により最大15人の交代要員の氏名を届けられることができる。

### <JFAの解説>

競技規則改正により、「交代回数は、最大3回である\*」とし、「\*」により、「同一の競技の停止中」における交代回数のカウントについて補足的に注釈しているが、この考え方は次のとおりである。

#### 1. 複数の交代

- スローイン、ゴールキックなどで競技が停止されている間に2人や3人の交代があった場合、それらが同一の「競技の停止中」に行われたのであれば、使った交代回数は1回とカウントする。
- 仮に最初の交代後、交代して退いた競技者以外の競技者の負傷が判明するなどして、追加的に交代を行ったとしても、それが同一の競技の停止中であれば、使った交代回数は1回とカウントする。

#### 2. 交代の要求

- 試合の終盤などで交代の要求を行ったものの、第4の審判員が主審に交代があることを伝え、交代ボードが示された後にキャンセルするなど戦略的に要求のみを行ったと判断されるのであれば、1回の交代回数としてカウントする。
- もっとも、交代を第4の審判員に伝えたものの、コーナーキックなどになってしまい、そのタイミングでの交代を見合わせるようなケースまでカウントするものではない。

## 第8条—プレーの開始および再開：主審がコインをトスする

### 1. キックオフ

#### 【改正された文章】

#### 進め方

- 主審がコインをトスし、コイントスに勝ったチームが(…)を決める。

#### 【解説】

チームが取るエンド、およびキックオフを決定するためのコイントスを行うのは、主審の責務であり、第10条の文章と一貫性を持たせるべきである。

## 第10条—試合結果の決定：チーム役員

### 3. ペナルティーマークからのキック

#### 【改正された文章】

ペナルティーマークからのキック中の交代および退場

- 競技者、交代要員、交代して退いた競技者またはチーム役員は、警告される、または退場を命じられることがある。

#### 【解説】

試合中のみならずPK方式のときであっても、チーム役員は警告される、または退場を命じられることがあることを確認する。



## 第12条—ファウルと不正行為：ゴールキーパーによるハンドの反則

### 3. 懲戒措置

#### 得点または決定的な得点の機会の阻止 (DOGSO)

##### 【追加された文章】

競技者が、ハンドの反則により、相手チームの得点または決定的な得点の機会の阻止した場合、反則が起きた場所にかかわらず、その競技者は、退場を命じられる（自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く）。

##### 【解説】

競技規則第12条の「得点または決定的な得点の機会の阻止」の項の文章は不十分で、ゴールキーパーが自分自身のペナルティーエリア内で手や腕を用いてボールも触れたとしても退場を命じることができるという誤った解釈となり得ることから、第12条「退場となる反則」の項に、「ただし書き」を追加して書き入れた。

##### <JFAの解説>

ゴールキーパーが自分自身のペナルティーエリア内で手や腕でボールに触れることはハンドの反則にならないことから、第12条の「退場となる反則」の項にある「ハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会の阻止」の規定には、「（自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く）」の文章を追加的に書き入れ、解釈の明確化を図っている。

他方、同じく第12条の「得点または決定的な得点の機会の阻止」の項でも、「ハンドの反則により相手の得点等を阻止した場合は退場が命じられる」と規定されているが、ここにはゴールキーパーを例外とする文章がなかったことから、味方競技者が意図的にバックパスしたボールをゴールキーパーが手や腕で止めることも退場になるという誤った解釈とされてしまうこともあった。そこで、この項にも「（自分のペナルティーエリアでゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く）」の説明を書き入れ、競技規則の確実な施行を期すこととしたものである。

## 第12条—ファウルと不正行為：競技のフィールドを出て、外的要因に反則を行う

### 4. ファウルや不正行為の後のプレーの再開

##### 【改正された文章】

(…)

競技のフィールドの内外にかかわらず競技者が外的要因に対して反則を行い、主審がプレーを停止したならば、主審の承認なく競技のフィールドから離れたことで間接フリーキックが与えられた場合を除き、プレーは、ドロップボールで再開される。間接フリーキックは、競技者が競技のフィールドから出た地点の境界線上から行われる。

##### 【解説】

外的要因に対して反則が犯された場合、フリーキックは与えられないと競技規則は明確に示している。しかしながら、ボールがインプレー中、競技者が主審の承認なく競技のフィールドを離れ、その後外的要因に反則を犯した場合、主審の承認なく競技のフィールドから離れるという反則を犯したことにより（相手チームに）間接フリーキックが与えられる。間接フリーキックは、競技者が競技のフィールドから出た境界線上の地点から行われる。

## 第14条—ペナルティーキック：ゴールキーパーの位置

### 1. 進め方

##### 【改正された文章】

(…)ボールがけられるとき、守備側ゴールキーパーは、少なくとも片足の一部をゴールラインに触れさせているか、ゴールラインの上方、または後方に位置させておかなければならない。

##### 【解説】

これまで、ペナルティーキック（またはペナルティーマークからのキック）が行われた瞬間、ゴールキーパーは、少なくとも片足の一部をゴールラインに触れているか、ゴールラインの上方に位置させておく必要があった。これにより、ゴールキーパーが片足をゴールラインより前方に、もう一方の片足を後方に位置させていた場合、仮に不正な利益を得ることがなくても、競技規則上は反則となっていた。そこで、足がこのような位置にあっても罰せられることがないように競技規則の文章を改正した。

また、この改正について説明することにより、ゴールキーパーは、ボールがけられる瞬間までは、両足をゴールライン上に残しておかなければならず、ゴールラインの後方にも前方にも立ってはならないという競技規則の「精神」について強調していることになる。

##### <JFAの解説>

競技規則は、「ペナルティーキックに際して、守備側ゴールキーパーは、ボールがけられるまで、ゴールポストやクロスバー、ゴールネットに触れることなく、キッカーに面して、ゴールライン上にいなければならない」としている。

この「ゴールライン上にいる」とは、IFABの解説で競技規則の「精神」として再確認されているように、ゴールキーパーはボールがけられるまで両足をゴールライン上に残しておくことである。



# 2022/23競技規則 改正

しかしながら、「ボールがけられる瞬間」に限っては、片足の一部がゴールラインに触れている、もしくはゴールラインの上方にある、または後方にあれば「ゴールライン上にいる」と解釈される。決して、キッカーが助走しているときなどボールがけられる前に片足をゴールラインより前に出したり、ラインの後方に位置させてよいということではない。  
 なお、この考え方は2020/21年の競技規則で導入されているので、本年の改正では、単にボールがけられる瞬間、片足の一部がゴールラインの後方に置かれていても反則とはならないことを追加的に認めたことになる。

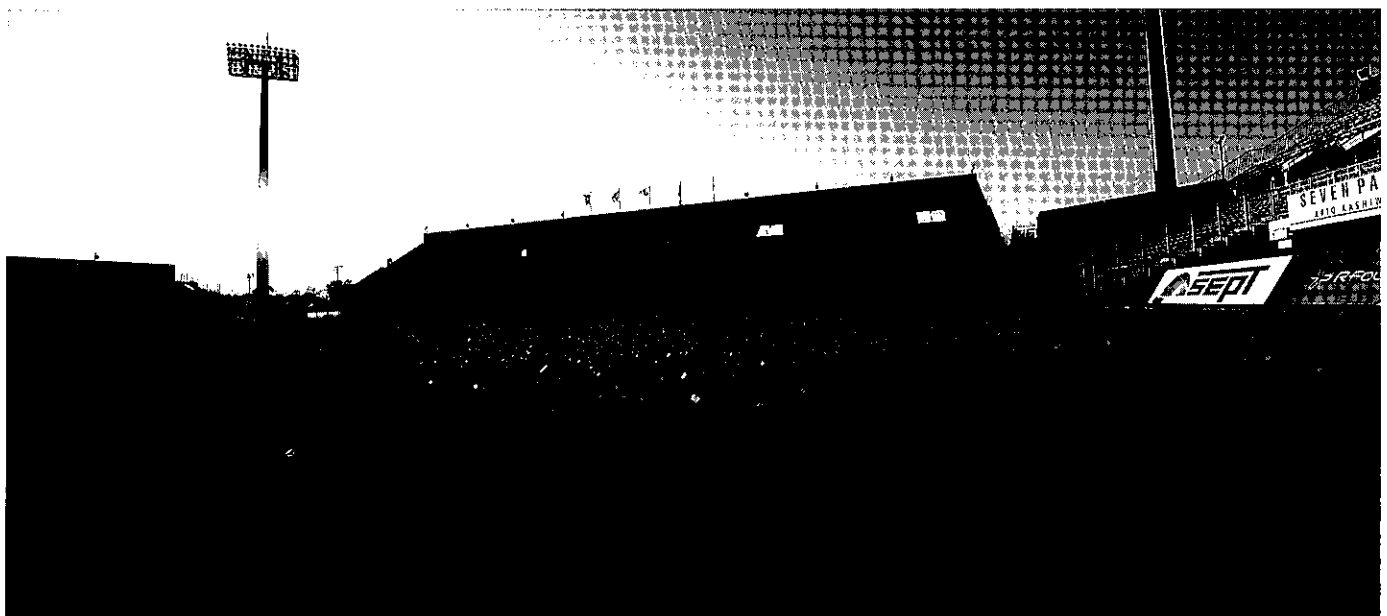
## 2022/23年競技規則の適用開始日について

各リーグや各種競技会における2022/23年競技規則の適用開始日は、以下とする。

リーグ	適用開始日	備考
2022明治安田生命J1リーグ	7月30日(土)	第23節
2022明治安田生命J2リーグ	7月30日(土)	第29節
2022明治安田生命J3リーグ	7月30日(土)	第19節
2022JリーグYBCルヴァンカップ	8月3日(水)	プライムステージ
第24回日本フットボールリーグ(2022)	8月27日(土)	第19節
2022/23WEリーグ	調整中	調整中
2022プレナスなでしこリーグ1部	9月3日(土)	第16節
2022プレナスなでしこリーグ2部	9月23日(金祝)	第16節

JFAが主催する競技会	適用開始日	備考
天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会	9月7日(水)	準々決勝
各種全国大会(決勝大会)	原則 7月24日(日)	現競技規則(2021/22年)・新競技規則(2022/23年)のどちらを適用するかを各競技会毎に確認し、競技会規程等に明記する。また、代表者会議や監督会議、マッチコーディネーションミーティングの都度確認する。 ※高円宮杯プレミアリーグU18の適用は第13節の9月からとする

上記以外の競技会	適用開始日
地域・都道府県FAが主催する各種大会	遅くとも、2023年4月1日(土) ※大会主催者が適用開始日を決定する。







# JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

## SAMURAI BLUE



©JFA / アジア2次予選兼アジアカップ中国2023予選 対タジキスタン代表戦 先発メンバー (2021.6.7)

OFFICIAL PARTNER



OFFICIAL SUPPLIER



SUPPORTING COMPANIES







## 公益財団法人日本サッカー協会 2022年度第8回理事会

公式URL <https://www.jfa.jp/>

日本サッカー協会（JFA）は2022年6月23日、2022年度第8回理事会をJFAハウスおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

1 協会納付金免除 …………… P36	5 日本サッカー協会公式応援ソング …………… P38
2 落合陽一氏 共同研究プロジェクト …………… P36	6 国際委員会 委員追加・交代 …………… P38
3 報酬諮問委員会設置 …………… P36	7 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認ガイドブック改正 …………… P38
4 アドバイザリーボードメンバー選任 …………… P37	

### 協会納付金免除

加盟団体規則第18条に定められる協会納付金について、2020年3月より続くコロナ禍の影響を考慮し、過去2シーズン（4月1日～3月31日間をシーズン）に続いて、2022年シーズンについても主催者による入場料収入の3%相当額のJFAへの納付を免除することとする。

なお、2023年1月1日以降にスタートする新シーズンについては、規定通りに納付金を徴収することとする。

（JFAが主催、共同主催または後援する有料競技会においても同様）

### 落合陽一氏 共同研究プロジェクト

落合陽一氏が主宰する筑波大学デジタルネイチャー開発研究センターと共同研究をする。

※23ページに関連記事あり

### 報酬諮問委員会設置

新たに専門委員会として報酬諮問委員会を設置する。

委員会の設置についてお諮りするものである。

#### 【目的】

役割に応じた適切な理事報酬について、ガバナンスの観点から強化するため。

#### 【関連規定の改正・新規制定】

改定：各種委員会組織運営規則

改正概要：専門委員会に報酬諮問委員会を新設する

#### 【背景】

(1)理事の報酬は、原則として評議員会の決議で決定され（法人法197条、89条）、評議員会にて別途定める報酬総額の範囲内で評議員会にて別途定める支給基準に従って算定した額を支給するとされている（定款第31条）。

#### 【報酬諮問委員会規則】

##### （目的）

第1条 この規則は、公益財団法人日本サッカー協会（以下「本協会」という。）の定款第31条及び「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」第5条第1項に基づいて決定される理事の報酬に関し、当該決定における会長の機能の独立性・客観性と説明責任を強化することを目的として、会長の諮問機関として設置する報酬諮問委員会の構成、運営、権限等について定めるものである。

##### （構成）

第2条 報酬諮問委員会の委員は、業務執行理事、外部理事、外部監事又は外部の有識者の中から、理事会の決議により選定する。

2 報酬諮問委員会は、委員3名以上で構成し、その過半数は外部理事、外部監事又は外部の有識者でなければならない。

3 報酬諮問委員会の委員長は、その委員の中から、報酬諮問委員会の決議によって選定する。

##### （招集）

第3条 報酬諮問委員会は、原則として、委員長が招集する。ただし、他の委員も

(2)JFAにおいては上記定款第31条に基づき、「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」が定められ、同規則5条1項において、評議員会が報酬総額と支給基準を承認した上で、理事会の承認を経て会長が理事報酬表を基準として各理事の報酬を決定している。また、公益認定法に基づき、支給の基準を公表している。

(3)上記の報酬決定プロセス自体に現状、問題があるわけではないが、昨今のガバナンス強化の方向性やJFAでも適任となる理事を持続的に招聘（しょうへい）していくためにも、より一層の客観性や透明性を高め、理事の役割と責任に応じた適切な報酬とその決定プロセスについて議論する必要がある。

(4)これらのことから、今後は各理事の報酬額の決定における“会長一任”を解消して報酬委員会で独立性を担保して決めていくプロセスへと改定していく前提で、まずは委員会での検討を具体的に進めるため、報酬諮問委

左ページ左へ続く。



必要に応じて報酬諮問委員会を招集することができる。

- 報酬諮問委員会の招集は、各委員に対し会日の3日前までに通知しなければならない。ただし、緊急の必要があるときはこの限りでない。
- 報酬諮問委員全員の同意があるときは、前項の招集手続を経ないで報酬諮問委員会を開催することができる。

(開催)

第4条 報酬諮問委員会は、定時評議員会の直後に開催される報酬諮問委員会において予め定める年間スケジュールによるほか、必要に応じて随時開催する。

2 報酬諮問委員会は、JFAハウス又は適宜の場所において開催する。ただし、必要があるときは電話会議又はWEB会議の方法で開催することができる。

(議長)

第5条 報酬諮問委員会の議長は、委員長がその任にあたる。ただし、委員長に事故があるときは、予め報酬諮問委員会の定めた順序により他の委員がこれに代わる。

(決議の方法)

第6条 報酬諮問委員会の決議は、議決に加わることができる委員の過半数が出席し、その委員の過半数をもって行う。

2 報酬諮問委員会の決議につき、特別の利害関係を有する委員は、議決権を行使することができない。この場合、その委員は、出席した委員の数に算入しない。

(権限)

第7条 報酬諮問委員会は、会長の諮問に応じて、以下の事項について答申を行う。

- 理事の報酬を決定するに当たっての方針
- 評議員会に付議する理事又は監事の報酬に関する議案の原案
- 理事の個人別の報酬の内容及び金額
- 各種委員会の委員の報酬を決定するに当たっての方針並びに報酬の内容及び金額

(5)その他、前各号に関して会長が必要と認めた事項

2 報酬諮問委員会は、その職務執行に必要な事項に関して、理事、使用人及び会計監査人から随時報告を受けることができる。

3 理事会又は理事会の委任を受けた会長は、理事の個人別の報酬の内容及び金額を決定するにあたり、報酬諮問委員会の答申を尊重しなければならない。

(外部専門家の起用)

第8条 報酬諮問委員会は、その職務執行に必要な事項に関して、本協会の費用において、弁護士、公認会計士、税理士、コンサルタントその他の外部専門家を起用し、そのアドバイスを受けることができる。

(理事会への報告)

第9条 委員長は、報酬諮問委員会の職務執行の状況(第7条第1項の規定に基づく決議の内容及びその内容を、その内容に応じて適切と考えられる方法により、理事会に遅滞なく報告しなければならない。

(関係者の出席)

第10条 報酬諮問委員会が必要と認めるときは、委員以外の者(第7条第2項及び第8条に規定する者を含むが、これに限られない。)を報酬諮問委員会に出席させ、その意見又は説明を求めることができる。

(議事録)

第11条 報酬諮問委員会の議事については議事録を作成し、出席した委員が記名押印する。

(事務局)

第12条 報酬諮問委員会に事務局を置く。事務局は、人事部がこれにあたり、委員長の指示により報酬諮問委員会の招集の手続を行い、事務処理及び議事録の作成を担当する。

(改廃)

第13条 本規則は、理事会の決議により、改廃することができる。

附則

1 この規則は、2022年6月23日より実施する。

会議レポート

## アドバイザーボードメンバー選任

アドバイザーボードのメンバーを下記の通り選任する。(※任期2年)

<参考>アドバイザーボードに関する規則

第2条 (組織)

- アドバイザーボードは、広く高い識見を有し、かつ高度な専門的知識と経験を有するメンバーで組織する。
- アドバイザーボードのメンバーは、理事会が選任し、会長が委嘱する。

第3条 (任務)

- アドバイザーボードは、会長の諮問に応じて助言又は提言を行う。
- アドバイザーボードは、必要に応じて会長が会議を招集する。

第4条 (任期)

アドバイザーボードのメンバーの任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

<アドバイザーボードメンバー>

役職	名前	所属役職
1 リーダー	岡田武史	副会長
2 副リーダー	宮本恒靖	理事/会長補佐
3 メンバー	秋葉剛男	国家安全保障局長 兼 内閣特別顧問
4 メンバー	池上三六	原子力損害賠償・廃炉等支援機構 執行役員
5 メンバー	池森俊文	統計数理研究所 統計思考院 特命教授

役職	名前	所属役職
6 メンバー	海野一幸	一般社団法人ヴァンフォーレススポーツクラブ 代表理事
7 メンバー	梅田邦夫	一般財団法人外国人材共生支援全国協会 副会長
8 メンバー	上村司	外務省 日本国政府代表(中東和平担当特使)
9 メンバー	大河正明	びわこ成蹊スポーツ大学 副学長 大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所 所長 株式会社 マイブライト 代表取締役
10 メンバー	奥村幹夫	SOMPOホールディングス株式会社 グループCOO 代表執行役社長
11 メンバー	勝柴二郎	株式会社インターネットイニシアティブ 代表取締役社長
12 メンバー	園分良成	慶應義塾大学 名誉教授
13 メンバー	小林いずみ	みずほフィナンシャルグループ取締役会議長 ANAホールディングス株式会社 取締役 多数国間投資保証機関 元長官
14 メンバー	佐藤攻美	株式会社コスモ・ビーアール 代表取締役社長
15 メンバー	鈴木寛	東京大学公共政策大学院 教授、慶應義塾大学 教授
16 メンバー	竹内弘高	ハーバード大学経営大学院 教授 (Professor of Management Practice)、学校法人国際基督教大学 理事長
17 メンバー	武田信平	特定非営利活動法人日本アンブテッサカー協会 理事長
18 メンバー	梨田和也	外務省 駐タイ王国日本大使
19 メンバー	平野英治	年金積立金管理運用独立行政法人 経営委員長
20 メンバー	保坂伸	経済産業省 資源エネルギー庁 長官
21 メンバー	村井純	慶應義塾大学 教授
22 メンバー	藁科義弘	川崎フロンターレ 前代表取締役社長



## 日本サッカー協会公式応援ソング

JFA公認サッカー日本代表応援ソングとして、ウカスカジーの「勝利の笑みを君と～日本サッカーのために～」を採用する。

ウカスカジーが歌う「勝利の笑みを君と」は2014年に制作され、JFA公認サッカー日本代表応援ソング／「夢を力に2014」公式テーマソング、2018年の応援プロジェクト「夢を力に2018」でも公式テーマソングに採用された。

2021年に新録された本楽曲「勝利の笑みを君と～日本サッカーのために～」についてもJFA公認サッカー日本代表応援ソングとして採用し、試合会場の選手紹介やトレーニング中のBGMとして促進する。

「勝利の笑みを君と～日本サッカーのために～」は、原曲のリリースから8年が経った今なおサポーターの皆さんに歌い親しまれていることから、JFA公認

サッカー日本代表応援ソングとして採用することで各代表カテゴリーの公式ソングとして、ファン・サポーターの絆をより一層強めることに寄与すると考える。

### <JFA公認サッカー日本代表応援ソング>

- (1) 題名：「勝利の笑みを君と～日本サッカーのために～」
- (2) 歌手：ウカスカジー（桜井和寿／GAKU-MC）
- (3) 作詞作曲：ウカスカジー
- (4) 販売元：株式会社トイズファクトリー
- (5) 発売日：2021年12月1日

## 国際委員会委員追加・交代

下記の通り、国際委員の追加・交代する。

### 【追加】

(継続)

滝崎成樹：内閣官房副長官補 兼 国家安全保障局次長

梨田和也：在タイ日本国大使館 特命全権大使

(新規)

大滝麻未：ジェフユナイテッド市原・千葉レディース選手

### 【変更】

(変更前)

古屋昌人：国際交流基金 企画部企画部長

(変更後)

小島寛之：国際交流基金 国際対話部長

## JFAロングバйл人工芝ピッチ公認ガイドブック改正

今回のJFAロングバйл人工芝公認ピッチガイドブック第8版を下記の内容にて改訂する。施設委員会にて承認済み。改訂ポイントは下記の通り。

### (1) JFAロングバйл人工芝ピッチ公認規則の改正

#### 第17条【公式試合の実施】

人工芝グラウンドにおける公式試合の実施規定は、大会主催者側の設定であることを改めて明記し、従来記載していた大会名を削除。

それに伴い、後述の関連条項の文言を修正し、従来記載していた下記大会名を削除。

国民体育大会

全国社会人サッカー大会

全国クラブチームサッカー選手権大会

総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

全日本大学サッカー選手権大会

全国専門学校サッカー選手権大会

全国高等専門学校体育大会 兼 全国高等専門学校サッカー選手権大会

日本クラブユースサッカー選手権 (U-18)大会

全国高等学校総合体育大会サッカー競技

全国中学校体育大会／全国中学校サッカー大会

日本スポーツマスターズ(サッカー競技)

### (2) 申請方法について

問い合わせの多い項目について、わかりやすい項目名および表現に修正。

### (3) その他／申請者への注意喚起

申請者(人工芝メーカー)による人工芝製品検査完了証のホームページおよびパンフレットへの掲載禁止を明記。

## 報告事項

1 第10回AFC理事会(5月7日開催)…………… P39

2 第32回AFC総会(5月18日開催)…………… P39

3 第66回EAFF理事会(5月23日開催)…………… P39

4 47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ(技術担当専任者) …… P39

5 2022/23サッカー競技規則改正…………… P30

6 JFA・Jリーグ特別指定選手制度…………… P39

7 審判員・審判指導者 海外派遣…………… P40

8 JFAロングバйл人工芝ピッチ公認(更新)…………… P40



## 第10回AFC理事会(5月7日開催)

第10回AFC理事会が2022年5月7日にドゥシャンベ(タジキスタン)およびオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) AFCディベロップメント委員会による下記の決定を批准した。  
AFC加盟協会への支援プログラムとして新たに、①AFCアドバンテージプログラム(コーチ、技術専任者等の給与補助)と②AFCエクストラタイムプログラム(臨時支出の補助)を導入することを決定。

- (2) AFCフットサル・ビーチサッカー委員会による下記の決定を批准した。  
AFCフットサルクラブ選手権UAE2022について、UAEのホスト辞退を受けて大会中止を決定。  
(3) AFC競技会委員会委員(2019~2023年任期)について、須原清貴専務理事から宮本恒靖理事/国際委員長/会長補佐に交代することを承認した。  
(4) 第33回AFC総会を2023年2月1日、2日にバーレーンで開催することを決定した。

## 第32回AFC総会(5月18日開催)

第32回AFC総会が2022年5月18日にオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) AFCアジアカップ2023™の中国開催辞退を受け、代替開催地についてAFC理事会が最終決定をすることを承認した。

- (2) 2021年AFC監査済み財務諸表を承認した。  
(3) ガバナンス強化の観点からAFC規約修正案を承認した。  
(4) AFC会長が2023年会長選への立候補を表明した。

## 第66回EAFF理事会(5月23日開催)

第66回EAFF理事会が2022年5月23日にオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) 第64回・第65回EAFF理事会議事録を承認した。  
(2) 書面決議事項、FIFA・AFCとの連絡事項、中国オフィス開設計画案、EAFF20周年事業について報告した。  
(3) 2022~2026年の常任委員会メンバーを承認した。  
※日本から任命されたメンバーは下記の通り。  
①財務委員会 濱口博行(国際委員)  
②競技会委員会 宮本恒靖(理事、国際委員会委員長)

- ③審判委員会 小川佳実(審判委員会副委員長)  
④法務委員会 三好豊(常務理事、法務委員会委員長)  
⑤技術・ディベロップメント委員会 田嶋幸三(会長)\*  
⑥女子およびユース委員会 今井純子(理事、女子委員会副委員長)  
⑦マーケティング委員会 大井義洋(国際委員)  
⑧大会組織委員会 平井徹(競技運営部部長)  
\*: 委員長  
(4) EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会の準備状況について報告した。  
(5) コマーシャルタスクフォースの任命メンバーを承認した。

## 47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ(技術担当専任者)

47都道府県サッカー協会における技術担当者の専任化については、2019年10月理事会において47都道府県サッカー協会(FA)向け補助金交付を決議し、各FAと協議の上、技術委員会が決定することとした。これを受け、FAから申請のあった候補者について技術委員会で審査した結果、下記の通り新たに1FAで決定した。

未定となっているFAについては、今後、申請があり次第、随時審査を行う。

既設置FA : 27FA  
今回決定したFA : 1FA(石川県FA)  
合計 : 28FA

※前回(4月)の報告で28FAとなったが、5月18日付で愛媛県FAのFAコーチが退任となったため既設置は27FA

【技術担当者専任化承認者一覧】 (専任者配置FA数: 28/47FA)

No	FA名	名前	保有ライセンス
1	石川県	竹原靖和	A級ジェネラル

## JFA・Jリーグ特別指定選手制度

- (1) 選手 : 近藤友喜(こんどう ともしき)  
所属チーム: 日本大学サッカー部  
受け入れ先: 横浜FC

所属歴 : 名古屋グランパスU-12  
名古屋グランパスU-15  
群馬育英学園私立前橋育英高校  
日本大学サッカー部  
認定日 : 2022年5月3日

次ページ右上へ続く





(2) 選手 : 榊原杏太(さかきばら きょうた)  
 所属チーム: 立正大学体育会サッカー部  
 受け入れ先: 名古屋グランパスエイト

所属歴 : 静岡中田サッカースポーツ少年団  
 清水エスパルスジュニアユース  
 名古屋グランパスU-18  
 立正大学体育会サッカー部  
 認定日 : 2022年5月10日

**審判員・審判指導員 海外派遣**

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	派遣場所
31st SEA Games 2022 Vietnam - Women's Football	審判員	兼松春奈、緒方実央	5月9日～21日	ベトナム
AFCカップ2022 グループステージ 西地区グループA	審判員	山本雄大、武部陽介	5月18日～24日	マスカット(オマーン)
Maurice Revello Tournament2022	審判員	山下良美、坊園真琴、手代木直美	5月29日～6月12日	フランス
AFC U23アジアカップウズベキスタン2022	審判員	荒木友輔、飯田淳平、山本雄大、巖城巧、西橋勲	6月1日～19日	タシュケント(ウズベキスタン)
国際親善試合 韓国代表 vs ブラジル代表	審判員	佐藤隆治、山内宏志、三原純	6月2日	ソウル(韓国)
国際親善試合 韓国代表 vs チリ代表	審判員	佐藤隆治、山内宏志、三原純	6月6日	テジョン(韓国)
AFCアジアカップ中国2023™ Qualifiers (Final Round) グループA	審判員	武部陽介	6月8日～14日	クウェートシティ(クウェート)
Maurice Revello Tournament2022	インストラクター	山岸佐知子、深野悦子	5月29日～6月12日	フランス
AFC U23アジアカップウズベキスタン2022	アセッサー	上川徹	6月1日～19日	タシュケント(ウズベキスタン)
AFCアジアカップ中国2023™ Qualifiers (Final Round) グループE	アセッサー	石山昇	6月8日～14日	クアラランブール(マレーシア)

**JFAロングバイル人工芝ピッチ公募(更新)**

**【更新】**

申請者(施設所有者): 特定非営利活動法人 新潟スポーツコミュニティ  
 施設名 : 新潟聖籠スポーツセンター アルビレージ Eピッチ(新潟県北蒲原郡聖籠町東港5丁目1923-12)  
 使用製品 : アイリスオーヤマ株式会社 GEO-TURF BS BS350-55  
 公認期間 : 2022年6月23日～2025年6月22日  
 公認番号 : 第006号

申請者(施設所有者): 一般社団法人 大阪府サッカー協会  
 施設名 : OFA万博フットボールセンター Aコート(大阪府吹田市千里万博公園3-5)  
 使用製品 : 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-55T  
 公認期間 : 2022年6月23日～2025年6月22日  
 公認番号 : 第050号

申請者(施設所有者): 堺市  
 施設名 : J-GREEN堺 S8(大阪府堺市堺区築港八幡町145番地)  
 使用製品 : 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2055RS+U-04-CR(Gr)  
 公認期間 : 2022年4月11日～2025年4月10日  
 公認番号 : 第092号

申請者(施設所有者): 堺市

施設名 : J-GREEN堺 S13(大阪府堺市堺区築港八幡町145番地)  
 使用製品 : 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-55T  
 公認期間 : 2022年6月23日～2025年6月22日  
 公認番号 : 第097号

申請者(施設所有者): 公益社団法人 岩手県サッカー協会

施設名 : 岩手県フットボールセンター(岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2丁目1-1)  
 使用製品 : 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2065RS+  
 公認期間 : 2022年7月17日～2023年7月16日  
 公認番号 : 第112号

**<特記事項>**

- ・使用製品は、JFAロングバイル人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
- ・当該施設は、JFAロングバイル人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。

**【お詫びと訂正】**

本誌前号2022年6月号(No.458)27ページの会議レポート内「各種委員会 委員選任」におきまして、下記の誤りがございました。読者および関係者の皆さまに謹んでお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

**P27 各種委員会 委員選任**

**■競技会委員会**

(正)委員 鮑田敏 長野県サッカー協会 FAコーチ/第3種大会部会長

(誤)委員 鮑田敏 長野県サッカー協会 常務理事/第3種大会部会長



# サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組めます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

## 日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

## 日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

## 日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

## 日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

## 日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

## 日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

## 日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー

住友ベークライト

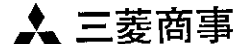


東京海上日動

支援団体



日本サッカー後援会





- ① SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ2022/キリンカップサッカー2022
- ② U-21日本代表 AFC U23アジアカップオブズベキスタン2022
- ③ U-19日本代表 第48回 Maurice Revello Tournament
- ④ U-18日本代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑤ U-16日本代表 U-16インターナショナルドリームカップ2022 JAPAN presented by JFA
- ⑥ なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合
- ⑦ U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑧ U-19フットサル日本代表 Fリーグオアシスカップ2022
- ⑨ サッカーe日本代表 FIFAe Nations Playoffs
- ⑩ JFAエリートプログラムU-14 トレーニングキャンプ
- ⑪ JFAエリートプログラムU-13 トレーニングキャンプ
- ⑫ 全日本大学選抜 DENSO CUP SOCCER 第19回大学日韓(韓国)定期戦
- ⑬ JFA 第16回全日本O-70サッカー大会
- ⑭ JFA 第22回全日本O-60サッカー大会
- ⑮ JFA 第21回全日本O-50サッカー大会

\*NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ、VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

## SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ2022/キリンカップサッカー2022

### <スタッフ>

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 横内昭展、齊藤俊秀、上野優作(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS) ○テクニカルスタッフ: 中下征樹、酒井清考(JFAテクニカルハウス)

※66~71ページに関連記事あり

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	川島永嗣	RCストラスブール(FRA)	MF/FW	遠藤航	VfBシュツットガルト(GER)
	権田修一	清水エスパルス		伊東純也	KRCヘンク(BEL)
	シュミット・ダニエル	シントトロイデンVV(BEL)		浅野拓磨	VfLボーフム(GER)
	大迫敬介	サンフレッチェ広島		南野拓実	リガブリュヘク(ENG)
DF	長友佑都	F.C.東京		古橋亨梧	セルティック(SCO)
	吉田麻也	サンブドリア(ITA)		守田英正※1	GDサンタ・クララ(POR)
	谷口彰悟	川崎フロンターレ		鎌田大地	アイントラハト・フランクフルト(GER)
	山根視来	川崎フロンターレ		三笥薫	ユニオン・サンジロワーズ(BEL)
	板倉滉	シャルケ04(GER)		前田大然	セルティック(SCO)
	中山雄太	PECスワレ(NED)		堂安律	PSVアイントホーフェン(NED)
	冨安健洋	アーセナル(ENG)		上田綺世※1	鹿島アントラーズ
	伊藤洋輝	VfBシュツットガルト(GER)		田中碧	フオルトウナ・デュッセルドルフ(GER)
	菅原由勢※1	AZアルクマール(NED)		久保建英	RCDマジョルカ(ESP)
	MF/FW	原口元氣		1.FCウニオン・ベルリン(GER)	
	柴崎岳	CDレガネス(ESP)			

### <スケジュール>

- 5月30日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
- 31日 成田発、トレーニング(札幌厚別公園競技場)
- 6月1日 公式トレーニング(札幌ドーム)
- 2日 キリンチャレンジカップ2022 vs パラグアイ代表(札幌ドーム)
- 3日 新千歳発、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
- 4日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
- 5日 移動、公式トレーニング(国立競技場)
- 6日 キリンチャレンジカップ2022 vs ブラジル代表(国立競技場)
- 7日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
- 8日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
- 9日 東京発、公式トレーニング(ノエビアスタジアム神戸)
- 10日 キリンカップサッカー2022 vs ガーナ代表(ノエビアスタジアム神戸)
- 11日 移動、トレーニング(ガンバ大阪トレーニンググラウンド)
- 12日 トレーニング(ガンバ大阪トレーニンググラウンド)
- 13日 公式トレーニング(パナソニック スタジアム 吹田)
- 14日 キリンカップサッカー2022 vs チュニジア代表(パナソニック スタジアム 吹田)、解散

### ■パラグアイ代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	
GK	アントニー・シルバ	オブエラ(MEX)	MF	ミゲル・アルミロン	ニューカッスル・ユナイテッド(ENG)	
	ファン・エスピノラ	ゴドイ・クルス(ARG)		アンヘル・カドナルセ	セロ・ポルターニョ	
	サンティアゴ・ロハス	ナシオナル		リチャード・サンチェス	クラブ・アメリカ(MEX)	
DF	アラン・ベニテス	セロ・ポルターニョ		アンドレス・クバ	バンクーバー・ホワイトキャップス(CAN)	
	オマル・アルデレテ	バレンシアCF(ESP)		ホルヘ・モレル	エストゥディアンテス・デ・ラプラタ(ARG)	
	ロドリゴ・マルティネス	カディスCF(ESP)		FW	ガブリエル・アバロス	アルヘンティノス・ジュニアーズ(ARG)
	ダビド・マルティネス	リバープレート(ARG)			アンヘル・ロメロ	クルス・アスル(MEX)
	ブラス・リベロス	ブレンビーIF(DEN)			デルリス・ゴンザレス	オリンピア
MF	ルイス・サラテ	オリンピア		ヘスス・メディナ	CSKAモスクワ(RUS)	
	リチャード・オルティス	オリンピア		ホスエ・コルマン	ガラニ	

監督 ギジェルモ・バロスケロット

### <スケジュール>

- 6月1日 公式トレーニング(札幌ドーム)
- 2日 キリンチャレンジカップ2022 vs SAMURAI BLUE(札幌ドーム)

### ■ブラジル代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	
GK	ウェベルトン	SEパルメイラス	MF	ブルーノ・ギマライス	ニューカッスル・ユナイテッド(ENG)	
	アリソン	リバプールFC(ENG)		ルーカス・バケタ	オリンピック・リヨン(FRA)	
DF	ダニエウ・アウベス	FCパルセロナ(ESP)		ダニロ・サンタス	SEパルメイラス	
	チアゴ・シウバ	チェルシーFC(ENG)		FW	ガブリエウ・ジェズ	マンチェスター・シティ(ENG)
	アレックス・サンドロ	ユベントス(ITA)			ガブリウ・マルチネリ	アーセナル(ENG)
	アレックス・テレス	マンチェスター・ユナイテッド(ENG)			マテウス・クーニャ	アトレティコ・マドリッド(ESP)
	マルキーニョス	パリ・サンジェルマン(FRA)		ネイマール	パリ・サンジェルマン(FRA)	
	レオ・オルチス	レッドブル・ブラガンチーノ		ウィルビー・コウチニョ	アストン・ビラ(ENG)	
	ギリエルメ・アラナ	アトレチコ・ミネイロ		ラフィニャ	リイズ・ユナイテッド(ENG)	
	ガブリエウ・マガリス	アーセナル(ENG)		リシャルリソン	エバートン(ENG)	
	エデル・ミリタン	レアル・マドリッド(ESP)	ロドリゴ	レアル・マドリッド(ESP)		
	MF	カゼミロ	レアル・マドリッド(ESP)	ビンチス・ジュニオール	レアル・マドリッド(ESP)	
フレジ		マンチェスター・ユナイテッド(ENG)				

監督 チッチ

### <スケジュール>

- 6月4日 トレーニング(国立競技場)
- 5日 公式トレーニング(国立競技場)
- 6日 キリンチャレンジカップ2022 vs SAMURAI BLUE(国立競技場)

ENG: イングランド, ESP: スペイン, ITA: イタリア, FRA: フランス



■ガーナ代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	ローレンス・アディ・ジギ	FCザンクト・ガレン (SUI)	MF	アッバド・ファガ・アザウ	スボルディング・リスボン (POR)
	アドゥル・マフ・マフティン	KASオイベン (BEL)		クドウス・モハンメド	アヤックス・アムステルダム (NED)
DF	ムバラク・ワカジ	深圳FC (CHN)		アリク・アム・アム	SCパーダーボルン07 (GER)
	アドゥル・ケイレフ・ム	レディングFC (ENG)	FW	ジョージ・ビエル・アム	クリスタル・パレス (ENG)
	アドゥル・ラフマン・ババ	レディングFC (ENG)		クウェシ・オキエ・リエド	ホルシュタイン・キール (GER)
	ダニエル・アマ・テイ	レスター・シティ (ENG)		ベンジャミン・テッテ	イエニ・マラティアスボル (TUR)
	デニス・ヌクル・マコルサ	ハーツ・オブ・オーク		ダニエル・アム・アム	ハーツ・オブ・オーク
	アリドゥ・セイドゥ	クレルモン・フット63 (FRA)		アッバド・ファガ・アザウ	ASローマ (ITA)
MF	アム・アム・アム	アルサッド (QAT)			
	エドモンド・アッド	FCシェリフ・ティラスポリ (MDA)			

監督 ナナ・オットー・アッド

<スケジュール>  
 6月9日 公式トレーニング (ノエビアスタジアム神戸)  
 10日 キリンカップサッカー2022 vs SAMURAI BLUE (ノエビアスタジアム神戸)  
 12日 公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田)  
 14日 キリンカップサッカー2022 vs チリ代表 (パナソニック スタジアム 吹田)

■チュニジア代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	ベシル・サイド	USモナスティール	MF	ナイム・スリティ	アル・イッティファク (KSA)
	アイメン・ダーメン	CSSファクシアン		ナデル・ガンドリ	クラブ・アフリカーシ
	モハメド・セドキ・デフ	エスペランス・チュニス		モハメド・アム・アム	アジュマーンCSC (UAE)
DF	アリ・マールル	アル・アハリ (EGY)		アイサ・ビラル・ライドニ	フェレンツヴァーロシュTC (HUN)
	ピレル・イファ	アブハー (KSA)		モハメド・アム・アム	エスペランス・チュニス
	アリ・エラブディ	SMカーン (FRA)		ムーゼン・ザッデム	エトワール・サヘル
	モハメド・ドレーガー	FCルツェルン (SUI)		アニス・ベン・スリマン	クリンビーIF (DEN)
	ラミ・カイブ	SCヘーレンフェーン (NED)		ハンニバル・メジブリ	マンチェスター・ユナイテッド (ENG)
	モナセル・オマル・タルビ	FCルビン・カザン (RUS)	FW	イサム・ジェバリ	オーデンセBK (DEN)
	アダム・カラム・ベンラミン	ヨンショーピング・ソドラーIF (SWE)		タハ・ヤシン・ケニシ	クウェートSC (KUW)
	アラウ・グラム	CSSファクシアン		セイフェディン・ジャジリ	ザマーレク (EGY)
MF	ユセフ・ムサクニ	アル・アラビ (QAT)			
	フェルジャニ・サシ	アル・ドゥハイルSC (QAT)			

監督 ジャレル・カドリ

<スケジュール>  
 6月8日 公式トレーニング (ノエビアスタジアム神戸)  
 9日 トレーニング (J-GREEN堺)  
 10日 キリンカップサッカー2022 vs チリ代表 (ノエビアスタジアム神戸)  
 13日 公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田)  
 14日 キリンカップサッカー2022 vs SAMURAI BLUE (パナソニック スタジアム 吹田)

■チリ代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	セバスティアン・ベレス	ウニベルシダード・カトリカ	MF	ガリー・メデル	ボローニャFC (ITA)
	フェルナンド・デバカル	エベルトン		パブロ・ガルダメス	ジェノア (ITA)
	サカリアス・ロベス	デポルティボ・ラ・セレナ		トマス・アラルコン	カディスCF (ESP)
DF	エウヘニオ・メナ	ラシン・クルブ (ARG)		フェリペ・メンデス	ウニオン・エスパニョーラ
	オスカル・オバソ	コロコロ	FW	ロニー・フェルナンデス	ウニベルシダード・デ・チリ
	パウロ・ディアス	リバープレート (ARG)		ペリ・フレイトン・ディアス	ブラックバーン・ローバーズ (ENG)
	バハマ・クスベッチ	パルメイラス (BRA)		ジャン・メネセス	レオン (MEX)
	フランシスコ・シエラ	ワトフォードFC (ENG)		ホアキン・モンテソス	ティアフアナ (MEX)
	アレックス・イバカチェ	エベルトン		ディエゴ・バレンシア	ウニベルシダード・カトリカ
	ナイエル・メッサトウ	KVコルトレイク (BEL)		ダリオ・オソリオ	ウニベルシダード・デ・チリ
	ヘイソン・ロハス	コロコロ			

監督 エドゥアルド・ベリッソ

<スケジュール>  
 6月8日 公式トレーニング (ノエビアスタジアム神戸)  
 9日 トレーニング (J-GREEN堺)  
 10日 キリンカップサッカー2022 vs チュニジア代表 (ノエビアスタジアム神戸)  
 12日 公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田)  
 14日 キリンカップサッカー2022 vs ガーナ代表 (パナソニック スタジアム 吹田)

■キリンチャレンジカップ 2022

**SAMURAI BLUE 4** (前半2-0 後半2-1) **1** **パラグアイ代表**

●2022年6月2日 19:01 ●札幌ドーム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]クリストファー・ピース(AUS) [副審]アシュリー・ピーチャム(AUS)/アントン・シェティニン(AUS) [第4の審判員]谷本涼 [VAR] アリレザ・ファガニ (IRN) [AVAR]木村博之 ●マッチコミッションナー:平井徹 ●観衆:24,511人

日本(監督:森保一):[GK](23)シュミット・ダニエル [DF](2)山根視来(3)谷口彰悟(22)吉田麻也<->HT(20)中山雄太(26)伊藤洋輝 [MF/FW](6)遠藤航<->HT(4)板倉滉(8)原口元気<->61'(17)田中碧<(18)浅野拓磨<->HT(24)前田大然>(9)鎌田大地(15)三笥薫<->82'(19)古橋亨梧>(21)堂安律<->71'(11)久保建英>

控え:(1)川島永嗣(12)権田修一(28)大迫敬介(5)長友佑都(14)伊東純也(25)上田綺世

パラグアイ(監督:ギジェルモ・バロスケロット):[GK](22)サンティアゴ・ロハス [DF](2)アラン・ベニテス(3)オマル・アルデレテ(5)ルイス・サラテ(15)プラス・リペロス [MF](10)ミゲル・アルミロン(18)アンドレス・クバス(20)リチャルド・サンチェス<->65'(16)アンヘル・カルドソ・ルセナ>(21)オスカル・ロメロ<->65'(19)ヘスス・メディナ> [FW](7)デルリス・ゴンサレス(9)ガブリエル・アバロス<->65'(11)アンヘル・ロメロ>

控え:(1)アントニー・シルバ(12)フアン・エスピノラ(4)サンティアゴ・アルサメンディア(8)リチャルド・オルティス(14)ダビド・マルティネス(17)ホルヘ・モレル(23)ホセ・E・コルマン

得点 [日本]36'浅野拓磨(1-0)、42'鎌田大地(2-0)、60'三笥薫(3-1)、85'田中碧(4-1) [パラグアイ]59'デルリス・ゴンサレス(2-1)

警告 [パラグアイ]43'オマル・アルデレテ、55'デルリス・ゴンサレス

■キリンチャレンジカップ 2022

**SAMURAI BLUE 0** (前半0-0 後半0-1) **1** **ブラジル代表**

●2022年6月6日 19:23 ●国立競技場 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]アリレザ・ファガニ(IRN) [副審]アシュリー・ピーチャム(AUS)/アントン・シェティニン(AUS) [第4の審判員]木村博之 [VAR]カート・アムズ (AUS) [AVAR]笠原寛貴 ●マッチコミッションナー:平井徹 ●観衆:63,638人

日本(監督:森保一):[GK](12)権田修一 [DF](4)板倉滉(5)長友佑都<->81'(2)山根視来>(20)中山雄太(22)吉田麻也 [MF/FW](6)遠藤航(8)原口元気<->HT(9)鎌田大地>(10)南野拓実<->72'(21)堂安律>(14)伊東純也<->72'(15)三笥薫>(17)田中碧<->81'(7)柴崎岳>(19)古橋亨梧<->67'(24)前田大然>

控え:(1)川島永嗣(23)シュミット・ダニエル(3)谷口彰悟(11)久保建英(25)上田綺世(26)伊藤洋輝

ブラジル(監督:チッチ):[GK](1)アリソン [DF](2)エデル・ミリタン(4)マルキーニョス(6)ギリエルメ・アラウナ(13)ダニエウ・アウベス<->71'(3)チアゴ・シウバ> [MF](5)カゼミロ<->85'(15)ファビーニョ>(7)ルーカス・バゲタ<->85'(17)ブルーノ・ギマライス>(8)フレジ<->71'(9)リシャルリソン> [FW](10)ネイマール(19)ラフィーニャ<->63'(18)ガブリエウ・ジェズ>(20)ビニシウス・ジュニオール<->63'(22)ガブリエウ・マルチネッリ>

控え:(12)ウエベルトン(11)フィリッピ・コウチニョ(14)ダニーロ・サントス(16)アレックス・テレス(21)マテウス・クーニャ

得点 [ブラジル]77'ネイマール(0-1)

警告 [日本]41'遠藤航、54'鎌田大地 [ブラジル]35'ラフィーニャ、80'ネイマール



キリンカップサッカー 2022

SAMURAI BLUE 4 (前半2-1 後半2-0) 1 ガーナ代表

●2022年6月10日 18:56 ●ノエビアスタジアム神戸 ●試合時間:90分 ●審判員:  
[主審] カート・アムズ(AUS) [副審] ジェームズ・リンゼー(AUS)/ジャセム・アブドゥ  
ラ・ユセフ・アブドゥラ・アルアリ(UAE) [第4の審判員] 佐藤隆治 [VAR]アハメド・エイ  
サ・モハメド・ダルウィッシュ(UAE) [AVAR]山内宏志 ●マッチコミッショナー:平井徹  
●観衆:25,100人

日本(監督:森保一):[GK](1)川島永嗣 [DF](2)山根視来<-85'(20)中山雄太>(3)谷  
口彰悟(22)吉田麻也<-HT(4)板倉滉>(26)伊藤洋輝 [MF/FW](6)遠藤航<-69'(17)  
田中碧>(7)柴崎岳(11)久保建英(15)三笥薫<-80'(10)南野拓実>(21)堂安律<-69'  
(14)伊東純也>(25)上田綺世<-80'(24)前田大然>

控え:(12)権田修一(23)シュミット・ダニエル(5)長友佑都(8)原口元氣(9)鎌田大地(19)  
古橋亨梧

ガーナ(監督:ナナ・オットー・アッド):[GK](12)ローレンス・アティ・ジギ [DF](2)アンド  
リュウ・キエレイ・アダム<-81'(14)ダニエル・アフリエ・バルニエ>(3)アリドゥ・セイドウ  
(5)デニス・ヌクル・マコルサ<-68'(7)アブドゥル・ファタウ・アイザーク>(11)ムバラク  
ワカソ(18)ダニエル・アマテイ [MF](6)エドモンド・アッド(10)アンドレ・モーガン・ラ  
ミ・アユ(15)クリストファー・アントウィアジェイ(20)クドゥス・モハメド<-68'(13)  
フェリックス・オヘネ・アフェナジャン> [FW](9)ジョーダン・ピエール・アユ<-81'(19)  
ベンジャミン・テッテ>

控え:(1)アブドゥル・マナフ・ヌルディーン

得点 [日本]29'山根視来(1-0)、46'三笥薫(2-1)、73'久保建英(3-1)、82'前田大然(4-1)  
[ガーナ]43'ジョーダン・ピエール・アユ(1-1)

警告 [日本]40'伊藤洋輝 [ガーナ]84'アブドゥル・ファタウ・アイザーク、90'ダニエル  
アフリエ・バルニエ

キリンカップサッカー 2022

SAMURAI BLUE 0 (前半0-0 後半0-3) 3 チュニジア代表

●2022年6月14日 18:55 ●パナソニック スタジアム 吹田 ●試合時間:90分 ●審  
判員:[主審]アハメド・エイサ・モハメド・ダルウィッシュ(UAE) [副審] ジャセム・アブドゥ  
ラ・ユセフ・アブドゥラ・アルアリ(UAE)/ジェームズ・リンゼー(AUS) [第4の審判員]木  
村博之 [VAR]カート・アムズ(AUS) [AVAR]山内宏志 ●マッチコミッショナー:平井  
徹 ●観衆:31,292人

日本(監督:森保一):[GK](23)シュミット・ダニエル [DF](4)板倉滉(5)長友佑都<-82'  
(2)山根視来>(22)吉田麻也(26)伊藤洋輝 [MF/FW](6)遠藤航(8)原口元氣<-HT(17)  
田中碧>(9)鎌田大地<-60'(15)三笥薫>(10)南野拓実<-71'(11)久保建英>(14)伊  
東純也<-71'(21)堂安律>(18)浅野拓磨<-60'(19)古橋亨梧>

控え:(1)川島永嗣(12)権田修一(3)谷口彰悟(7)柴崎岳(16)冨安健洋(24)前田大然

チュニジア(監督:ジャレル・カドリ):[GK](16)アイメン・ダーメン [DF](2)ビレル・イフ  
ァ(3)モンタサル・オマル・タルビ(4)アリ・エラブディ(20)モハメド・ドレーガー<-94'(5)  
アダム・カリム・ベンラミン> [MF](7)ユセフ・ムサクニ<-84'(21)ラミ・ドゥリディ>  
(13)フェルジャン・サシ(14)アイサ・ビラル・ライドゥニ(15)モハメド・アリ・ベン・ロムダン  
<-77'(10)ハンニバル・メジブリ>(25)アニス・ベン・スリマン<-94'(18)モハメド・フィ  
ラス・ベン・アルビ> [FW](11)タハ・ヤシン・ケニシ<-77'(17)イサム・ジェバリ>

控え:(22)ベシル・サイド(6)ナデル・ガンドリ(8)ム・テズ・ザッデム(12)アリ・マルル(19)  
セイフェディン・ジャジリ(23)ナイル・スリティ(24)アラ・グラム

得点 [チュニジア]55'モハメド・アリ・ベン・ロムダン(1-0)、76'フェルジャン・サシ(2-0)、  
93'イサム・ジェバリ(3-0)

警告 [日本]52'長友佑都 [チュニジア]33'アリ・エラブディ、78'ビレル・イフ

U-21日本代表 AFC U23アジアカップウズベキスタン2022

<スタッフ> ※72~73ページに関連記事あり  
○団長:内山篤(JFA技術委員会委員) ○監督:大岩剛(NCS) ○コーチ:羽田憲司(NCS) ○GKコーチ:浜野征哉(NCS) ○フィジカルコーチ:矢野由治(NCS) ○テクニカルスタッフ:  
越智滋之(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	小久保瑞央	SLベンフィカ (POR)	MF	小田裕太郎	ウエーゼル神戸
	佐々木雅士	柏レイソル		山本理仁	東京ヴェルディ
	鈴木彩艶	浦和レッズ		藤田譲瑞	横浜FC
DF	内野貴史	フォルトゥナ・デュッセルドルフ (GER)		三戸舜介	アルビレックス新潟
	西尾隆矢	セレッソ大阪		松木政生	FC東京
	加藤聖	V・ファーレン長崎		佐藤恵允	明治大学
	馬場晴也	東京ヴェルディ		山田楓喜	京都サンガF.C.
	半田陸	モンテディオ山形	FW	藤尾翔太	徳島ヴォルティス
	畑大雅	湘南ベルマーレ		細谷真大	柏レイソル
	鈴木海音	栃木SC		鈴木唯人	清水エスパルス
	チェイス アンリ	VIBシュトゥットガルト (GER)		中島大嘉	北海道コンサドーレ札幌
	木村誠二	モンテディオ山形			
MF	松岡大起	清水エスパルス			
	青藤光毅	ロンメルSK (BEL)			

<スケジュール>

5月29日	集合、トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
	羽田発
30日	タシケント着
31日~6月1日	トレーニング (Bunyodkor 1)
2日	トレーニング (Qibray)
3日	AFC U23アジアカップウズベキスタン2022 グループステージ第1戦 vs UAE (Pakhtakor Stadium)
4日~5日	トレーニング
6日	グループステージ第2戦 vs サウジアラビア (Pakhtakor Stadium)
7日~8日	トレーニング
9日	グループステージ第3戦 vs タジキスタン (Bunyodkor Stadium)
10日~11日	トレーニング
12日	準々決勝 vs 韓国 (Pakhtakor Stadium/Lokomotiv Stadium)
13日~14日	トレーニング
15日	準決勝 vs ウズベキスタン (Pakhtakor Stadium/Bunyodkor Stadium)
16日~17日	トレーニング
18日	3位決定戦 vs オーストラリア (Pakhtakor Stadium)
19日	タシケント発
20日	羽田着、解散

■グループステージ

順位	グループA	ウズベキスタン	トルクメニスタン	イラン	カタール	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	ウズベキスタン	100	1△1	600	7	2	1	0	8	1	7	
2	トルクメニスタン	0●1	201	2△2	4	1	1	1	4	4	0	
3	イラン	1△1	1●2	1△1	2	0	2	1	3	4	-1	
4	カタール	0●6	2△2	1△1	2	0	2	1	3	9	-6	

順位	グループB	オーストラリア	イラク	ヨルダン	クウェート	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	オーストラリア	1△1	100	200	7	2	1	0	4	1	3	
2	イラク	1△1	1△1	301	5	1	2	0	5	3	2	
3	ヨルダン	0●1	1△1	100	4	1	1	1	2	2	0	
4	クウェート	0●2	1●3	0●1	0	0	0	3	1	6	-5	

順位	グループC	韓国	ベトナム	タイ	マレーシア	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	韓国	1△1	100	401	7	2	1	0	6	2	4	
2	ベトナム	1△1	2△2	200	5	1	2	0	5	3	2	
3	タイ	0●1	2△2	300	4	1	1	1	5	3	2	
4	マレーシア	1●4	0●2	0●3	0	0	0	3	1	9	-8	

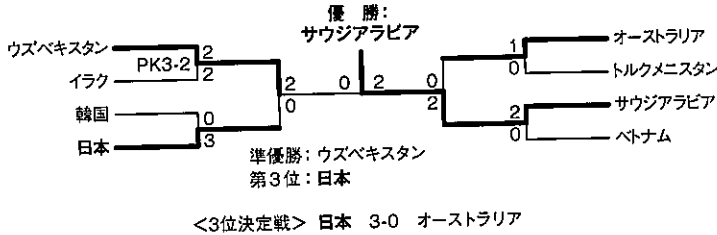
順位	グループD	サウジアラビア	日本	UAE	タジキスタン	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	サウジアラビア	0△0	200	500	7	2	1	0	7	0	7	
2	日本	0△0	201	300	7	2	1	0	5	1	4	
3	アラブ首長国連邦 (UAE)	0●2	1●2	200	3	1	0	2	3	4	-1	
4	タジキスタン	0●5	0●3	0●2	0	0	0	3	0	10	-10	

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

DATA BOX



■ノックアウトステージ



グループステージ第1戦

U-21日本代表 2 (前半0-0 後半2-1) 1 アラブ首長国連邦

●2022年6月3日 18:00 ●Pakhtakor Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]H C DILAN PERERA(SRI) [副審]D G P PARAKKRAMA HEMATHUNGA(SRI) / WATHEG MDALLAL AL-SWAIED(IRQ) [第4の審判員]MOHANAD QASIM EESSEE SARRAY(IRQ) [VAR]SIVAKORN PU-UDOM(THA) [AVAR]HANNA HATTAB(SYR) ●マッチコミッショナー:ASIF ANSAR(SRI) ●観衆:270人

日本(監督:大岩剛):[GK](12)鈴木彩艶 [DF](4)鈴木海音(16)内野貴史(17)加藤聖<→88'(15)畑大雅>(22)チェイス・アンリ [MF](6)松岡大起<→82'(7)山本理仁>(8)藤田譲瑠チマ(10)斎藤光毅<→46'(20)三戸舜介>(14)山田楓喜<→69'(9)藤尾翔太> [FW](11)細谷真大<→82'(21)中島大嘉>(18)鈴木唯人

控え:(1)小久保玲央(23)佐々木雅士(2)半田陸(3)馬場晴也(13)佐藤恵允(19)松木玖生

アラブ首長国連邦(監督:DENIS PUIG):[GK](17)SUHAIL ABDULLA ALMUTAWA [DF](2)ABDULLA IDREES ALHAMMADI (5)SAEED SULAIMAN MUBARAK(6)EID KHAMIS ALNUJAIMI(12)AHMAD ABDULLA SUROOR [MF](4)AHMED MAHMOUD ALHAMMADI (16)HUSSAIN MAHDI SADEQ(21)ABDALLAH SULTAN ALBLOOSHI<→46'(14)FAHAD BADER BAROUT> [FW](7)RASHED SALEM MUBARAK<→57'(11)YASER HASSAN ALBLOOSHI>(9)ABDALLA ABDELRAHMAN ALNAQBI<→69'(15)MANSOOR SAEED ALMENHALI>(10)SAEED ALKAAB<→84'(19)EISA KHALFAN AL HARASI>

控え:(1)EISA AHMED HOUTI (22)RAKAAN WALEED ALMENHALI(3)YOUSIF ALI ALMHEIRI (8)ABDELAZIZ ALBLOOSHI(13)FARIS KHALIL ALMARZOOQI (18)ZAYED SULTAN ALZAABI(20)MOHAMED ABDELRAHMAN

得点 [日本]61' 鈴木唯人(1-0)、76' 細谷真大(2-1) [アラブ首長国連邦]63'YASER HASSAN ALBLOOSHI(1-1)

警告 [日本]29' 斎藤光毅

グループステージ第2戦

U-21日本代表 0 (前半0-0 後半0-0) 0 サウジアラビア

●2022年6月6日 18:00 ●Pakhtakor Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]ALI SABAH AL-QAYSI(IRQ) [副審]HAYDER ABDULHASAN ALI UBAYDEE(IRQ) / GEORGE LAKRINDIS(AUS) [第4の審判員]MOHANAD QASIM EESSEE SARRAY(IRQ) [VAR]SHAUN EVANS(AUS) [AVAR]ALEXANDER GEORGE KING(AUS) ●マッチコミッショナー:ALI HOMOUD ALNAIMI(QAT) ●観衆:300人

日本(監督:大岩剛):[GK](12)鈴木彩艶 [DF](2)半田陸(4)鈴木海音(17)加藤聖(22)チェイス・アンリ [MF](7)山本理仁<→83'(6)松岡大起>(8)藤田譲瑠チマ(9)藤尾翔太(10)斎藤光毅<→61'(20)三戸舜介> [FW](11)細谷真大<→83'(21)中島大嘉>(18)鈴木唯人<→87'(14)山田楓喜>

控え:(1)小久保玲央(23)佐々木雅士(3)馬場晴也(5)木村誠二(13)佐藤恵允(15)畑大雅(16)内野貴史(19)松木玖生

サウジアラビア(監督:SAAD ALI ALSHEHRI):[GK](1)NAWAF DHAHI ALAQIDI [DF](12)MOTEB ALHARBI(13)HAMAD AL YAMI<→84'(15)HUSSAIN ALEISA>(18)MESHAL SIBYANI<→76'(4)KHALIFAH ALDAWSARI>(23)SAUD ABDULHAMID [MF](6)IBRAHIM MAHNASHI<→68'(14)AWAD ALNASHRI>(7)AIMAN YAHYA<→68'(16)ZIYAD ALJOHANI>(8)HAMED ALGHAMDI(10)TURKI ALAMMAR(17)HAITHAM ASIRI [FW](20)MOHAMMED MARRAN<→84'(19)ABDULLAH HADI RADIF>

控え:(21)ABDULRAHMAN ALSANBI (22)ABDULRAHMAN ANWAR ALSHAMMARI(2)SAAD YASLAM BALOBAID(3)WALEED ALAHMAD(11)AHMED MAZEN ALGHAMDI

警告 [サウジアラビア]27'SAUD ABDULHAMID、54'IBRAHIM MAHNASHI

退場 [日本]79' 藤尾翔太

DATA BOX

グループステージ第3戦

U-21日本代表 3 (前半1-0 後半2-0) 0 タジキスタン

●2022年6月9日 18:00 ●Bunyodkor Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]ALI SHABAN(KUW) [副審]ABBAS H A M A GHOLOUM(KUW) / ABDULHADI ALANEZI(KUW) [第4の審判員]AHMAD ALALI(KUW) [VAR]ABDULLA ALI ALMARRI(QAT) [AVAR]AMMAR ASHKANANI(KUW) ●マッチコミッショナー:ASIF ANSAR(SRI) ●観衆:375人

日本(監督:大岩剛):[GK](1)小久保玲央(23)佐々木雅士(5)木村誠二(15)畑大雅(16)内野貴史 [MF](6)松岡大起(7)山本理仁<→75'(8)藤田譲瑠チマ>(13)佐藤恵允<→58'(21)中島大嘉>(14)山田楓喜<→58'(10)斎藤光毅>(19)松木玖生<→75'(2)半田陸>(20)三戸舜介

控え:(12)鈴木彩艶(23)佐々木雅士(4)鈴木海音(11)細谷真大(17)加藤聖(18)鈴木唯人(22)チェイス・アンリ

タジキスタン(監督:ASLIDIN KHABIBULOEV):[GK](23)HABIBULOEV AHLIDDIN [DF](5)SANGOV SHOHRUKH(12)ALINAZAROV FIRDAVS(19)NURMATOV KHUSEYN [MF](4)EMOMALI AHMADKHON(8)ZABIROV ABDULMUMIN<→46'(10)ISLOM ZAIROV>(13)KAMOLOV AMADONI<→59'(18)YODGOROV DALER>(14)SHARIFBEK RAHMATOV<→46'(17)AZIZBOEV MUHAMMADALI>(20)SHARIPOV USMARJOV<→86'(7)SAIDOV KAROMTULLO>(21)AVGONOV SORBON [FW](22)ISMOILOV SUNATULLO<→59'(9)SOLEHOV SHARAFJON>

控え:(1)AZIZOV DALER(16)QIRGHIZBOEV SHOHRUKH(2)SAFAROV OYATULLO(3)NASKOV MUHAMMADJON(6)IBROGIMZODA NAIMDZHON(15)BAROTOV ALISHER

得点 [日本]11' 松木玖生(1-0)、57' 佐藤恵允(2-0)、90+4' 中島大嘉(3-0)

警告 [タジキスタン]35'ALINAZAROV FIRDAVS

退場 [日本]65' 三戸舜介

準々決勝

U-21日本代表 3 (前半1-0 後半2-0) 0 韓国

●2022年6月12日 18:00 ●Pakhtakor Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]HANNA HATTAB(SYR) [副審]RASHID HAMED ALI AL GHAITHI(OMA) / D G P PARAKKRAMA HEMATHUNGA(SRI) [第4の審判員]H C DILAN PERERA(SRI) [第5の審判員]ZAHY SNAID ALSHAMMARI(QAT) [VAR]OMAR MOHAMED ALALI(UAE) [AVAR]AHMAD ALALI(KUW) ●マッチコミッショナー:ALI HOMOUD ALNAIMI(QAT) ●観衆:529人

日本(監督:大岩剛):[GK](12)鈴木彩艶 [DF](2)半田陸(3)馬場晴也(17)加藤聖(22)チェイス・アンリ [MF](7)山本理仁<→86'(6)松岡大起>(8)藤田譲瑠チマ(10)斎藤光毅<→46'(13)佐藤恵允> [FW](9)藤尾翔太<→74'(16)内野貴史>(11)細谷真大<→86'(19)松木玖生>(18)鈴木唯人<→88'(21)中島大嘉>

控え:(1)小久保玲央(23)佐々木雅士(5)木村誠二(15)畑大雅

韓国(監督:HWANG SUN HONG):[GK](21)MIN SEONGJUN [DF](2)CHOI JUN(3)LEE KYUHYUK(5)KIM JUSUNG(20)KIM HYUNWOO<→86'(17)LEE JINYONG>(22)KIM TAEHWAN<→46'(7)CHO YOUNGWOOK> [MF](6)GO JAEHYEON<→72'(9)OH SEHUN>(8)HONG HYUNSEOK(13)LEE KANGIN [FW](10)PARK JEONGIN<→46'(16)KWON HYEOKKYU>(11)YANG HYUNJUN<→81'(19)GOH YOUNGJUN>

控え:(23)PARK JI-MIN(12)CHO HYUN-TAEK(14)EOM JI-SUNG(15)PARK JAE-HWAN

得点 [日本]23'、85' 鈴木唯人(1-0)(3-0)、65' 細谷真大(2-0)

警告 [日本]13' チェイス・アンリ [韓国]21' Go Jae-Hyeon、56' Choi Jun

準決勝

U-21日本代表 0 前半0-0 後半0-2 2 ウズベキスタン

●2022年6月15日 21:00 ●Bunyodkor Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] AHMED ABU BAKAR AL KAF(OMA) [副審] ABU BAKAR AL-AMRI(OMA) / RASHID HAMED ALI AL GHAITHI(OMA) [第4の審判員] ALI SHABAN(KUW) [第5の審判員] YOUSUF AREF M A AL-SHAMARI(QAT) [VAR] OMAR MOHAMED AL-ALI(UAE) [AVAR] YAHYA ALMULLA(UAE) / SAOUD ALI AL-ADBA(QAT) ●マッチコミッショナー: ALI HOMOUD ALNAIMI(QAT) ●観衆: 50人

日本(監督:大岩剛): [GK] (12) 鈴木彩艶 [DF] (3) 馬場晴也(16) 内野貴史<-78'(2) 半田陸>(17) 加藤聖(22) チェイス・アンリ [MF] (6) 松岡大起<-58'(7) 山本理仁>(8) 藤田譲瑠チマ(10) 斉藤光毅<-58'(13) 佐藤恵允> [FW] (9) 藤尾翔太<-78'(21) 中島大嘉>(11) 細谷真大<-89'(19) 松木玖生>(18) 鈴木唯人

控え: (1) 小久保玲央(5) 木村誠二

ウズベキスタン(監督:TIMUR KAPADZE): [GK] (12) VLADIMIR NAZAROV [DF] (2) SAIDAZAMAT MIRSAIDOV (3) DOSTONBEK TURSUNOV <-71'(6) SODIKOV JALOLIDDIN >(5) MUHAMMADKODIR HAMRALIEV (15) ODILBEK ABDUMAJIDOV [MF] (7) HOJIMAT ERKINOV <-71'(20) RUSLANBEK JIYANOV >(9) ULUGBEK KHOSHIMOV <-75'(22) ALISHER ODILOV >(10) JASURBEK JALOLIDDINOV <-76'(14) ABBOSBEK FAYZULLAEV >(17) DIYOR KHOLMATOV <-93'(4) ABUBAKR RIZO TURDIALIEV >(23) ABDURAUUF BURIEV [FW] (19) KHUSAIN NORCHAEV

控え: (21) KHAMIDULLO ABDUNABIEV(11) OTABEK JURAKUZIYEV(13) ELDORBEK BEGIMOV(16) TAIROV SHAKHZOD

得点: [ウズベキスタン] 60' JASURBEK JALOLIDDINOV(0-1), 89' KHUSAIN NORCHAEV(0-2)

警告: [日本] 10' 鈴木唯人, 32' 斉藤光毅, 38' 藤尾翔太 [ウズベキスタン] 63' ABDURAUUF BURIEV

3位決定戦

U-21日本代表 3 前半2-0 後半1-0 0 オーストラリア

●2022年6月18日 18:00 ●Pakhtakor Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] KIM HEEGON(KOR) [副審] JANG JONGPIL(KOR) / SONG BONGKEUN(KOR) [第4の審判員] TANTASHEV ILGIZ(UZB) [第5の審判員] ANDREY TSAPENKO(UZB) [VAR] SIVAKORN PU-UDOM(THA) [AVAR] KIM WOOSUNG(KOR) / YAHYA ALMULLA(UAE) ●マッチコミッショナー: ALI HOMOUD ALNAIMI(QAT) ●観衆: 230人

日本(監督:大岩剛): [GK] (12) 鈴木彩艶 [DF] (2) 半田陸(3) 馬場晴也(5) 木村誠二(16) 内野貴史<-85'(17) 加藤聖> [MF] (6) 松岡大起(7) 山本理仁<-69'(8) 藤田譲瑠チマ>(13) 佐藤恵允<-85'(11) 細谷真大>(19) 松木玖生<-69'(18) 鈴木唯人>(20) 三戸舜介 [FW] (21) 中島大嘉<-57'(9) 藤尾翔太>

控え: (1) 小久保玲央(22) チェイス・アンリ

オーストラリア(監督:TREVOR MORGAN): [GK] (18) NICHOLAS BILOKAPIC [DF] (4) JORDAN COURTNEY-PERKINS (5) JORDAN BOS (13) KAI TREWIN <-46'(2) LEWIS MILLER >(20) JOSHUA BROWNS [MF] (6) TYRESE FRANCOIS (10) RAMY NAJJARINE <-62'(7) LACHLAN BROOK >(16) LOUIS D'ARRIGO <-74'(8) PATRICK YAZBEK > [FW] (11) KUSINI YENGI <-62'(9) ALOU KUOL >(21) BERNARDO OLIVEIRA <-46'(17) CAMERON PEUPION >(22) TRISTAN HAMMOND

控え: (1) JOE GAUCI (12) JACOB CHAPMAN(14) JOSHUA NISBET(15) HOSINE BILTY(19) PATRICK WOOD(23) JACOB FARRELL

得点: [日本] 7' 佐藤恵允(1-0), 39' オウンゴール(2-0), 64' 藤尾翔太(3-0)

警告: [日本] 54' 半田陸, 74' 鈴木唯人, 80' 内野貴史 [オーストラリア] 81' TRISTAN HAMMOND

U-19日本代表 第48回 Maurice Revello Tournament

<スタッフ>

○団長: 山本昌邦(JFA技術委員会委員) ○監督: 富樫剛一(NCS) ○コーチ: 船越優規(NCS) ○ロールモデルコーチ: 内田篤人(JFA) ○OGKコーチ: 川口能活(NCS) ○フィジカルコーチ: 菅野淳(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト) ○テクニカルスタッフ: 佐藤孝大(JFAテクニカルハウス)

※74ページに関連記事あり

<選手>

Table with player names, positions, and clubs. Columns include GK, DF, MF, FW and player names like 木村凌也, 波多野崇史, etc.

<スケジュール>

5月26日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)、羽田発
27日 ニース着、トレーニング(Stade Us Puyricard)
28日~30日 トレーニング(Stade Us Puyricard)
31日 第48回Maurice Revello Tournament
グループステージ第1戦 vs U-19アルジェリア(Stade Parsemain)
6月1日~2日 トレーニング(Stade Us Puyricard)
3日 グループステージ第2戦 vs U-19コモロ(Stade Parsemain)
4日~5日 トレーニング(Stade Us Puyricard)
6日 グループステージ第3戦 vs U-19コロンビア(Stade Parsemain)
7日~9日 トレーニング(Stade Us Puyricard)
10日 5・6位決定戦 vs U-19アルゼンチン代表(Stade D'Honneur)
11日 ニース発
12日 羽田着、解散

Table with tournament results for U-19 and U-21 teams. Columns include team name, goals scored, goals conceded, and other stats.

○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

グループステージ第1戦

U-19日本代表 1 前半0-0 後半1-0 0 U-21アルジェリア代表

●2022年5月31日 14:00 ●Fos-Sur-Mer / Stade Parsemain ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] ABEBE(ETH) [副審] RAKOTZAFINORO(MAD) / ATEZAMBONG(CMR) [第4の審判員] KOROLEVA(USA)

日本(監督:船越優規): [GK] (23) 木村凌也 [DF] (2) 菊地脩太(3) 田中隼人(4) 中野伸哉(19) 松田隼風 [MF] (5) 宇野輝斗(6) 山根陸(7) 山崎太新<-77'(17) 佐野航大>(9) 北野颯太<-89'(22) 坂本一彰>(15) 升掛友護<-54'(18) 屋敷優成> [FW] (10) 横山歩夢<-54'(11) 二田理央>

控え: (1) 佐藤瑠星(8) 中村仁郎(13) 前田ハドー・慈英(14) 高橋センダゴルタ仁胡(16) 工藤孝太(20) 福井太智(21) 高井幸大

アルジェリア(監督:Nouredinne OULD ALI): [GK] (1) Redouane MAACHOU [DF] (2) Reda BENCHAA (3) Chemseddine BEKKOUICHE (4) Mohammed AZZI (19) Naim LAIDOUNI [MF] (5) Mohammed Islem BELKHIR <-46'(10) Camiel NEGHLI >(6) Akram BOURAS <-46'(8) Yassine TITRAOUI >(18) Cyril KHETIR <-88'(11) Massinissa NAIT SALEM > [FW] (7) Anis HADJ MOUSSA <-74'(21) Yuliwes BELLACHE >(9) Yanis GUERMOUCHE <-48'(20) Mounsef BAKRAR >(22) Adli BOULBINA

控え: (16) Teddy BOULHENDI(12) Joakim KADA(13) Nassim BENAÏSSA(14) Abdelhamid DRIS(15) Abdellah BENDOUMA(17) Fares NECHAT DJABRI

得点: [日本] 55' 北野颯太(1-0)

警告: [日本] 82' 屋敷優成 [アルジェリア] 84' Yuliwes BELLACHE

グループステージ第2戦

U-19日本代表 0 前半0-0 後半0-0 0 U-21コモロ代表 PK0-3

●2022年6月3日 14:00 ●Fos-Sur-Mer / Stade Parsemain ●試合時間:90分、PK ●審判員: [主審] AMEDOME(TOG) [副審] ATEZAMBONG(CMR) / KONE(MLI) [第4の審判員] MAKALIMA(RSA)

日本(監督:船越優規): [GK] (23) 木村凌也 [DF] (2) 菊地脩太(4) 中野伸哉<-57'(13) 前田ハドー・慈英>(14) 高橋センダゴルタ仁胡<-57'(15) 升掛友護>(16) 工藤孝太(19) 松田隼風 [MF] (6) 山根陸<-70'(9) 北野颯太>(8) 中村仁郎<-HT(5) 宇野輝斗>(18) 屋敷優成(20) 福井太智 [FW] (10) 横山歩夢<-81'(11) 二田理央>

控え: (1) 佐藤瑠星(3) 田中隼人(7) 山崎太新(17) 佐野航大(21) 高井幸大(22) 坂本一彰

コモロ(監督:Hamada JAMBAY): [GK] (1) Yannick PANDOR [DF] (2) Assad MAOULIDA (4) Karim ATTOUMANI (7) Aaron KAMARDIN (19) Raimane DAOU [MF] (6) Antane AHAMADA MZE <-79'(16) Naim CHADHULI >(8) Aymeric AHMED (14) Azihar MHOUADI <-62'(11) Nawfal Enji ALI SAID BACO >(20) Ibtouhi HADARI(21) Azihard M'CHANGAMA <-62'(13) Ben Chayeeel HAMADA > [FW] (17) Zaid AMIR <-86'(10) Yacine FAHAD >

控え: (22) Kary GUARINO (3) Karim MOHAMED (5) Nussuf AHAMADA (9) Adel MAHAMAD (12) Yakine SAID (15) Joseph FRITZ (18) Rayan M'FOIHAYA

警告: [日本] 90+1' 工藤孝太



グループステージ第3戦

U-19日本代表 1 (前半0-0 後半1-2) 2 U-19コロンビア代表

●2022年6月6日 14:00 ●Fos-Sur-Mer / Stade Parsemain ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]FORTUNATO(ARG) [副審]DE ALMEIDA(ARG)/MILONE(ARG) [第4の審判員]PENSO(USA)

日本(監督:船越優寛):[GK](23)木村凌也 [DF](3)田中隼人(4)中野伸哉<-46'(19)松田隼風>(21)高井幸大 [MF](5)宇野禪斗(6)山根陸<-60'(8)中村仁郎>(7)山崎太新<-60'(15)升掛友謙>(9)北野颯太(17)佐野航大<-72'(20)福井太智>(18)屋敷優成 [FW](22)坂本一彰<-72'(11)二田理央>

控え:(12)波多野崇史(2)菊地侑太(10)横山歩夢(13)前田ハド-慈英(14)高橋センダゴルタ仁胡(16)工藤孝太

コロンビア(監督:Héctor CÁRDENAS):[GK](1)Juan CASTILLO [DF](4)Daniel PEDROZO(5)Elber OLAYA(17)Andrés SALAZAR(19)Juan MINA [MF](6)Jhon VÉLEZ(7)Jorge CABEZAS<-69'(9)Tomas ANGEL>(8)Gustavo PUERTA<-84'(13)Gian CABEZAS>(10)Alexis CASTILLO<-69'(11)Luis ANGULO>(21)Daniel LUNA<-69'(14)Luis QUINTERO> [FW](16)Isaac ZULETA<-55'(15)Ober ALMANZA>

控え:(12)Luis MARQUINEZ(22)Alexei FEDORUSCHENKO ROJAS(3)Edier OCAMPO(18)Oswaldo VALENCIA(20)Carlos CANTILLO(23)Jose ARAGON

得点 [日本]90'中村仁郎(1-2) [コロンビア]47'Gustavo PUERTA(0-1)、61'Jorge CABEZAS(0-2)

警告 [日本]10'山根陸、63'松田隼風 [コロンビア]50'Alexis CASTILLO、77'Jhon VÉLEZ、88'Elber OLAYA

5・6位決定戦

U-19日本代表 2 (前半0-2 後半2-1) 3 U-20アルゼンチン代表

●2022年6月10日 18:00 ●Malemort / Stade D'Honneur ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]ABEBE(ETH) [副審]RAKOZAFINORO(MAD)/TOLLOZA(CHI) [第4の審判員]AMEDOME(CHI)

日本(監督:船越優寛):[GK](12)波多野崇史 [DF](2)菊地侑太(13)前田ハド-慈英<-46'(4)中野伸哉>(16)工藤孝太(19)松田隼風<-58'(14)高橋センダゴルタ仁胡> [MF](6)山根陸(15)升掛友謙<-46'(9)北野颯太>(17)佐野航大<-58'(8)中村仁郎>(18)屋敷優成<-75'(10)横山歩夢>(20)福井太智 [FW](22)坂本一彰

控え:(1)佐藤瑠星(23)木村凌也(3)田中隼人(5)宇野禪斗(7)山崎太新(21)高井幸大

アルゼンチン(監督:Javier Mascherano):[GK](12)Valentino Quintero [DF](2)Lautaro Di Lollo(4)Brian Aguilar(6)Franco Carboni(22)Agustin Glay [MF](5)David Gonzalez<-65'(8)Gino Infantino>(15)Nicolas Paz Martinez<-54'(10)Tiago Geralnik>(20)Facundo Buonanotte<-76'(16)Jeremias Palavecino> [FW](11)Alejandro Garnacho<-76'(17)Valentin Carboni>(19)Brian Aguirre<-54'(7)Mateo Sanabria>(21)Santiago Castro

控え:(1)Francisco Gomez(9)Matias Soule(13)Nahuel Genéz(14)Francisco Marco

得点 [日本]61'坂本一彰(1-2)、90'横山歩夢(2-3) [アルゼンチン]37'Alejandro Garnacho(0-1)、43'Nicolas Paz Martinez(0-2)、64'Santiago Castro(1-3)

警告 [日本]76'中野伸哉 [アルゼンチン]57'Santiago Castro、60'Brian Aguilar、70'Mateo Sanabria、89'Franco Carboni

U-18日本代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

<スタッフ>

○監督:宮城剛一(NCS) ○コーチ:西川誠太(JC) ○GKコーチ:川口能活(NCS) ○フィジカルコーチ:菅野淳(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト) ○テクニカルスタッフ:佐藤孝大(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	峯名竜聖	セレッソ大阪U-18	MF	飯田澤哉	東山高校
	栗林颯	サガン鳥栖U-18		荒井悠汰	昌平高校
	中村圭佑	静岡学園高校		徳永涼	前橋育英高校
DF	小澤晴樹	大宮アルディージャU18	寺裏剣	静岡学園高校	
	西野謙太	北海道コンサドーレ札幌U-18	都築駿太	流通経済大学付属柏高校	
	東廉太	FC東京U-18	土肥幹太	FC東京U-18	
	行徳瑛	静岡学園高校	石渡ネルソン	セレッソ大阪U-18	
	石川晴大	清水エスパルスユース	木下慎之輔	セレッソ大阪U-18	
	兼原陸人	ガンバ大阪ユース	内藤大和	ヴァンフォーレ甲府U-18	
MF	楢原慶輝	サガン鳥栖U-18	熊田直紀	FC東京U-18	
	松村晃助	横浜F・マリノスユース			

<スケジュール>

6月18日~21日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド) 練習試合 vs 韓国大学選抜(高円宮記念JFA夢フィールド)、解散

U-16日本代表 U-16インターナショナルドリームカップ2022 JAPAN presented by JFA

※75ページに関連記事あり

<スタッフ>

○監督:森山佳郎(NCS) ○コーチ:廣山望(NCS/JFAアカデミー福島) ○GKコーチ:高橋範夫(NCS) ○フィジカルコーチ:村岡誠(NCS) ○テクニカルスタッフ:片桐央視(JFAテクニカルハウス/FCバイエルン・ミュンヘン) ○ロールモデルコーチ:中村憲剛(JFA)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	上林大誠	モンテディオ山形ユース	MF	山本将太	ジュビロ磐田U-18
	後藤巨	FC東京U-18		杉浦駿吾	名古屋グランパスU-18
DF	小杉啓太	湘南ベルマーレU-18	山本文偉	東京ヴェルディユース	
	永野修都	FC東京U-18	矢田龍之介	清水エスパルスユース	
	柴田翔太郎	川崎フロンターレU-18	佐藤龍之介	FC東京U-18	
	本多康太郎	湘南ベルマーレU-18	森田皇樹	ヴィッセル神戸U-18	
	山田佳	前橋育英高校	道脇豊	ロアッソ熊本ユース	
	松本遥翔	鹿島アントラーズユース	渡崎麻玖	大宮アルディージャU18	
MF	西川宙希	セレッソ大阪U-18	名和田我空	神村学園高等部	
	中島洋太郎	サンフレッチェ広島ユース	徳田蒼	鹿島アントラーズユース	

<スケジュール>

6月6日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
7日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
8日 U-16インターナショナルドリームカップ2022 JAPAN presented by JFA  
第1戦 vs U-16韓国代表(ユアテックススタジアム仙台) トレーニング  
9日 第2戦 vs U-16ウルグアイ代表(ユアテックススタジアム仙台) トレーニング  
10日 第3戦 vs U-16メキシコ代表(ユアテックススタジアム仙台)、解散

順位	日本	メキシコ	韓国	ウルグアイ	試合	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	U-16日本代表	2 0 0	3 0 0	4 0 0	9	3	0	0	0	9	0	9
2	U-16メキシコ代表	0 0 2	3 3 3	2 0 0	5	1	1	0	1	5	5	0
3	U-16韓国代表	0 0 3	3 3 1	0 0 0	2	0	0	2	1	3	6	-3
4	U-16ウルグアイ代表	0 0 4	0 0 2	0 0 0	2	0	1	0	2	0	6	-6

○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1節

U-16日本代表 3 前半2-0 後半1-0 0 U-16韓国代表

●2022年6月8日 18:00 ●ユアテックスタジアム仙台 ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]高崎航地 [副審] 皇山大介/柳田翔 [第4の審判員] 荒上修人 ●マッチコミッショナー:大谷憲也 ●観衆:2,328人

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](2)永野修都(6)小杉啓太(13)柴田翔太郎<-81'(4)松本遼翔>(20)山田佳 [MF](7)杉浦駿吾<-70'(10)名和田我空>(16)中島洋太郎<-81'(3)本多康太郎>(17)山本将太<-70'(19)森田皇翔>(18)矢田龍之介<-59'(5)山本文博> [FW](11)徳田蒼<-70'(9)道脇豊>(15)磯崎麻玖<-HT(8)佐藤龍之介>

控え:(12)上林大誠(14)西川宙希

韓国(監督:ピョン・ソンファン):[GK](26)ユン・キウク [DF](4)カク・ソンファン(5)カン・ミヌ(12)ファン・チソン [MF](7)キム・ソンジュ<-70'(8)キム・スンヒョン>(16)チャ・ジェフン<-89'(20)ムン・ジウオン>(17)イ・チャンウ<-89'(2)イ・ソジュン>(18)キム・ミョンジュン<-61'(10)ジン・テホ>(22)ベク・スンウオン<-61'(23)チェ・オニユ>(24)ヤン・ミンヒョク<-70'(19)ユン・ドヨン> [FW](9)キム・ミンスン<-70'(14)パク・ジヨヌ>

控え:(1)イ・ギョンジュン(6)ユ・ミンジュン

得点 [日本]7'矢田龍之介(1-0)、40'磯崎麻玖(2-0)、51'杉浦駿吾(3-0)

警告 [日本]83'佐藤龍之介 [韓国]61'キム・ミョンジュン

第2節

U-16日本代表 4 前半3-0 後半1-0 0 U-16ウルグアイ代表

●2022年6月10日 18:00 ●ユアテックスタジアム仙台 ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]田邊裕樹 [副審] 佐藤裕一/原崇 [第4の審判員] 伊勢裕介 ●マッチコミッショナー:大谷憲也 ●観衆:2,508人

日本(監督:森山佳郎):[GK](12)上林大誠 [DF](2)永野修都(3)本多康太郎<-65'(20)山田佳>(4)松本遼翔(14)西川宙希 [MF](5)山本文博<-76'(16)中島洋太郎>(8)佐藤龍之介<-76'(17)山本将太>(18)矢田龍之介(19)森田皇翔<-65'(13)柴田翔太郎> [FW](9)道脇豊<-76'(11)徳田蒼>(10)名和田我空<-87'(7)杉浦駿吾>

控え:(1)後藤亘

ウルグアイ(監督:ディエゴ・アンドレス・デマルコ・ヌニェス):[GK](12)ラウタロ・キンタナ・カッフレ [DF](2)パオロ・ファブリシオ・カリオネ・フェンテス<-HT(13)イグナシオ・ロベス・アクカロネ>(3)イケル・アンソ・ガルシア(4)イグナシオ・アレグレ・フェルナンデス(16)ファン・ペドロ・エチベリア・アスナレス [MF](5)ファン・イグナシオ・ガルシア・ランテアン<-78'(18)フェリペ・セレス・ファブラ>(8)ティアゴ・エマヌエル・エルゲラ・メレジョ<-HT(15)マテオ・ウレタ・フェレイラ>(10)マテオ・ガブリエル・ペラルタ・ピリス<-HT(6)パトリシオ・パシフィコ・ドミンゲス> [FW](9)ゴンサロ・ベティト・アバド<-HT(7)ファクンド・トマス・テチエラ・メナ>(11)デイビッド・スティベン・ムレタレル・メンデス(14)エステバン・ナウエル・クルッシュ・ピカルド<-63'(17)イオハン・ファビアン・ペレス・クアドロ>

控え:(1)マルティン・ガブリエル・アルメイダ・クルティ

得点 [日本]7'39'名和田我空(1-0)(3-0)、34'道脇豊(2-0)、90'中島洋太郎(4-0)

警告 [ウルグアイ]60'ファン・イグナシオ・ガルシア・ランテアン

第3節

U-16日本代表 2 前半0-0 後半2-0 0 U-16メキシコ代表

●2022年6月12日 14:30 ●ユアテックスタジアム仙台 ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]松本康之 [副審] 梅田智起/伊勢裕介 [第4の審判員] 手塚優 ●マッチコミッショナー:大谷憲也 ●観衆:4,056人

日本(監督:森山佳郎):[GK](12)上林大誠 [DF](3)本多康太郎(6)小杉啓太(13)柴田翔太郎<-75'(4)松本遼翔>(20)山田佳<-67'(2)永野修都> [MF](5)山本文博<-84'(18)矢田龍之介>(7)杉浦駿吾<-84'(19)森田皇翔>(16)中島洋太郎(17)山本将太<-45'(8)佐藤龍之介> [FW](9)道脇豊<-67'(15)磯崎麻玖>(11)徳田蒼<-HT(10)名和田我空>

控え:(1)後藤亘(14)西川宙希

メキシコ(監督:アナ・ラウラ・ガリンド):[GK](12)デルガド・フェルナンド・ラファエル<-88'(1)モレノ・パエス・ロベルト・カルロス> [DF](2)スアレス・ベリサリオ・ホセ・ハビエル(4)ナバレテ・トレス・ルイス・ガブリエル(5)フロレス・アルバレス・ホナタン・ウリエル<-88'(3)ガルシア・カストロ・エミリオ・ガエル>(14)ガルシア・ヒメネス・ケビン・ジャイル<-88'(16)ウリベ・ガラン・ファン・パブロ> [MF](7)ガルベス・ビダレス・オマル・アレハンドロ<-59'(17)バレンシア・メスタ・アレックス・ダニエル>(8)ウリアス・フェリックス・ホセ・アレハンドロ(10)アルバレス・モンティエル・ガエル・アルトゥロ<-88'(6)アスカラテ・トレダノ・ジェラル・ダミアン> [FW](9)カリジョ・カルデロン・ステファノ・エマヌエル(11)カマチョ・サラサル・クサンドル・ガブリエル<-77'(18)ウィリアム・シナディネ・アレンド・ボラニョス>(19)バラハス・フアレス・フィデル・フニオル<-77'(20)アルメンタ・コタ・ケビン・マヌエル>

控え:(13)カルドソ・キロス・アグスティン(15)ダビラ・オルティス・エミリオ・マウリシオ

得点 [日本]54'佐藤龍之介(1-0)、69'磯崎麻玖(2-0)

なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合

<スタッフ>

※76~77ページに関連記事あり

○団長: 佐々木則夫(JFA女子委員会委員長) ○監督: 池田太(NCS) ○コーチ: 宮本ともみ(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 大塚慶輔(NCS) ○テクニカルスタッフ: 寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Table with 2 columns: Pos, 名前, 所属. Lists players for GK, DF, MF positions.

<スケジュール>

Table with 2 columns: Date, Event. Lists match dates and opponents.

※1: ケガのため離脱 GER: ドイツ, SWE: スウェーデン, ENG: イングランド, USA: アメリカ



国際親善試合

なでしこジャパン 5 (前半1-0 後半4-0) 0 セルビア女子代表

●2022年6月24日 19:45 ●Sport Center FAS ●試合時間:90分 ●審判員:[主審] Ivana Martinčić (CRO) [副審] Sanja Rodak Karšić (CRO) / Gordana Katušić (CRO) [第4の審判員] Milica Milovanović (SRB)

日本(監督:池田太):[GK](18)山下杏也加 [DF](2)清水梨紗(3)南萌華(4)熊谷紗希(6)宮川麻都<-78'(22)宝田沙織> [MF](10)長野風花<-85'(12)高橋はな>(14)長谷川唯(15)杉田妃和<-85'(17)成宮唯>(16)林穂之香<-60'(8)猶本光> [FW](11)田中美南<-78'(23)千葉玲海菜>(19)植木理子<-60'(7)宮澤ひなた>

控え:(21)田中桃子(5)三宅史織(9)宮澤優衣香(13)遠藤純(20)三浦成美

セルビア(監督:GROZDANOVIC PREDRAG):[GK](1)ミリツァ・コスティッチ [DF](5)ビオレタ・スロビッチ(16)サラ・パロビッチ<-90'(4)マリヤ・イリッチ>(18)エマ・ベトロビッチ(22)デヤナ・ステファンビッチ [MF](8)ディナ・ブラゴイエビッチ<-66'(15)ジバナ・ストゥバル>(10)イェレナ・チャンコビッチ(20)ティヤナ・フィリポビッチ<-66'(14)ベスナ・ミリポイエビッチ> [FW](7)ミリツァ・ミヤトビッチ<-46'(11)ミリヤナ・イバノビッチ>(9)ニナ・マテイツ<-75'(3)ミラナ・クネジェビッチ>(17)アレグラ・ボリャク<-75'(2)バイダ・オルシヨヤ>

控え:(12)サラ・ツェテリヤ(23)ヨバナ・ベトロビッチ(6)ミリツァ・デンダ(13)アンジェラ・クルステイツ(19)クリスティナ・パンテリッチ(21)アレクサンドラ・ジョルジェビッチ

得点 [日本]28' 植木理子(1-0)、62' 猶本光(2-0)、75' 宮澤ひなた(3-0)、81' 千葉玲海菜(4-0)、88' 成宮唯(5-0)

警告 [日本]44' 植木理子、73' 田中美南 [セルビア]14' ビオレタ・スロビッチ、36' デヤナ・ステファンビッチ

国際親善試合

なでしこジャパン 5 (前半1-1 後半4-0) 1 フィンランド女子代表

●2022年6月27日 18:15 ●Veritas Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審] Sara Persson(SWE) [副審]Jilan Taher(SWE)/Ida Keilström(SWE) [第4の審判員] Reelika Turi(EST)

日本(監督:池田太):[GK](18)山下杏也加<-78'(21)田中桃子> [DF](2)清水梨紗(4)熊谷紗希(5)三宅史織<-64'(22)宝田沙織>(12)高橋はな [MF](7)宮澤ひなた<-90'(17)成宮唯>(10)長野風花(13)遠藤純(20)三浦成美<-46'(8)猶本光> [FW](9)宮澤優衣香<-46'(19)植木理子>(11)田中美南<-46'(14)長谷川唯>

控え:(3)南萌華(6)宮川麻都(15)杉田妃和(16)林穂之香(23)千葉玲海菜

フィンランド(監督:Anna Signeul):[GK](23)Korpela Tinja-Riikka [DF](5)Koivisto Emma(11)Heroum Nora<-87'(22)Rantala Jutta>(15)Kuikka Natalia(16)Westerlund Anna [MF](4)Öling Ria<-75'(14)Kollanen Heidi>(7)Engman Adelina<-59'(19)Sainio Essi>(10)Alanen Emmil(20)Summanen Evelina<-59'(8)Ahtinen Olga> [FW](17)Franssi Sanni<-75'(13)Danielsson Jenny>(18)Sällström Linda<-59'(9)Kemppi Juliette>

控え:(1)Talaslahti Katrina(12)Tamminen Anna(25)Myllyoja Paula(6)Auvinen Anna(24)Collin Kaisa

得点 [日本]13' オウンゴール(1-0)、47' 遠藤純(2-1)、58' 高橋はな(3-1)、74' 植木理子(4-1)、89' 長谷川唯(5-1) [フィンランド]18' Engman Adelina(1-1)

U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)

<スタッフ>

○監督:池田太(NCS) ○コーチ:宮本ともみ(NCS) ○GKコーチ:西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ:大塚慶輔(NCS) ○テクニカルスタッフ:寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	石田心菜	早稲田大学	MF	中尾萌々	メンフィス大学
	福田史織	三菱重工浦和レッズレディース		渡部麗	日体大SMG横浜
	大塚朱羽	イーストネシー州立大学		吉田莉胡	ちふれASエルフェン埼玉
	野田にな	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		岩崎心南	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
DF	西野朱音	マイナビ仙台レディース	天野紗	INAC神戸レオネッサ	
	長江伊吹	INAC神戸レオネッサ	大山愛笑	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	
	岩井蘭	フロリダ州立大学	島田芽依	三菱重工浦和レッズレディース	
	田畑晴菜	セレッソ大阪堺レディース	柳瀬楓菜	サンフレッチェ広島レジーナ	
	杉澤海星	大宮アルディージャ VENTUS	山本袖月	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	竹重杏歌理	INAC神戸レオネッサ	西尾菜音	三菱重工浦和レッズレディース	
	石川璃音	三菱重工浦和レッズレディース	藤野あおば	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	佐々木里緒	JFAアカデミー福島	土方麻椰	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	
	小山史乃観	セレッソ大阪堺レディース	浜野まいか	INAC神戸レオネッサ	
	MF	森田美紗希	日体大SMG横浜	松窪真心	JFAアカデミー福島

<スケジュール>

6月6日 集合、トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ3)  
7日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)  
トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ3)  
8日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)  
9日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)  
練習試合 vs 聖光学院高校(Jヴィレッジスタジアム)  
10日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)  
練習試合 vs ふたば未来学園高校(Jヴィレッジスタジアム)  
11日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)  
トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ3)  
12日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)  
13日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)  
練習試合 vs 聖光学院高校(Jヴィレッジスタジアム)  
14日 トレーニング(Jヴィレッジ・ピッチ4)、解散

U-19フットサル日本代表 フリーグオーシャンカップ2022

※18ページに関連記事あり

<スタッフ>

○団長:小森隆弘(JFAフットサルナショナルチームダイレクター) ○監督:木暮賢一郎(NCS) ○コーチ:高橋健介(NCS)、豊島明(JFAフットサルインストラクター/アグレミナー浜松)  
○GKコーチ:内山慶太郎(NCS) ○フィジカルコーチ:佐藤亮(JFAフットサルフィジカルプロジェクト/大阪成蹊大学)、内田亮(JFAフットサルフィジカルプロジェクト/アールズベイ)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	井戸孔晟	Y.S.C.C.横浜	FP	PIVO 田口大雅	フウガドールすみだ
	川上翼	名古屋オーシャンズ サテライト		FIXO 成田美光	府中アスレティックFC
FP	ALA 宮下豪也※1	フウガドールすみだバッファローズ	FIXO 伊集龍二	名古屋オーシャンズ U-18	
	ALA 尾形颯志	バルドラール浦安セグンド	ALA 江本賢也※1	リガレヴィア葛飾 U-18	
	PIVO 中島圭太	エスタポウU-18	PIVO 柴山圭吾	バルドラール浦安テルセーロ	
	ALA 伊東陽希	バルドラール浦安セグンド	ALA 外林隼吾※2	バルドラール浦安セグンド	
	FIXO 中村心之佑	ベスカドーラ町田	ALA 島山晋太郎※2	湘南ベルマーレLONDRINA	
	FIXO 陣川凌	バサジィ大分サテライト			
	ALA/FIXO 宇野伊織	バルドラール浦安			

<スケジュール>

5月23日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
24日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
25日 フリーグオーシャンカップ2022  
vs ベスカドーラ町田(エスフォルタアリーナ八王子)、解散

サッカーe日本代表 FIFAE Nations Playoffs

<選手>

ポジション	名前	所属
	黒豆	森本貴仁 CYCLOPS athlete gaming
	youxme	武笠秀星 無所属
	Agu	中島奨 Blue United eFC
	Jay	田野入潤 川崎フロンターレ
	Web Nasri	青木太一 鹿島アントラーズ

**[FIFAE Nations Playoffs (日本の結果のみ)]**

試合日	ステージ	対戦チーム	対戦選手	選手	試合結果	
6月11日	Winner Bracket Round 1	eインドネシア代表	Bagoes_dwiga / HUSSAIN	Nasri / Agu	△	1-1
			Bagoes_dwiga / HUSSAIN	Nasri / Agu	○	2-1
	Winner Bracket Round 2	eインド代表	Charanjot 12 / Saranshjain7	Nasri / Agu	△	0-0
			Charanjot 12 / Saranshjain7	Nasri / Agu	○	1-0
6月12日	Winner Bracket Round 3	eシンガポール代表	Amraan / Kun	Nasri / Agu	△	0-0
	Loser Bracket Round 4	eインド代表	Charanjot 12 / Saranshjain7	Nasri / Agu	○	2-0
			Charanjot 12 / Saranshjain7	Nasri / Agu	○	4-0
	Final	eシンガポール代表	Amraan / Kun	Nasri / Agu	●	0-1
			Amraan / Kun	Nasri / Agu	△	1-1

※Playoffsの選手登録は3選手まで  
Jay, youxmeは予選のレギュレーションにのっとりコーチング・アドバイスをサポートメンバーとして参加

**JFA エリートプログラムU-14 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)**

<スタッフ>

○監督: 大畑開(JC) ○コーチ: 手倉森浩(JC)、高田崇二(川崎フロンターレ) ○GKコーチ: 川俣則幸(JC)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	堀川昇栄	ガターレ富士U-15	FP	安井司	ガンバ大阪ジュニアユース
	麻生太郎	京都サンガF.C. U-15		エドワード真秀	大宮アルディージャU15
FP	阿出川誠吾※1	柏レイソルU-15	石田翔琉	名古屋グランパスU-15	
	加藤孝一朗	松本山雅FC U-15	朝日奈英心	徳島ヴォルティスジュニアユース	
	大場剛雅	ジュビロ磐田U-15	加集啓太	ブルミエール徳島	
	塩尻哲平	セレッソ大阪西U-15	加藤遙真	Desenvolver FUT	
	野口蓮斗	ソレック熊本	児玉一成	京都サンガF.C. U-15	
	カワシキ・セーカ	FC LAVIDA	佐々木瑛汰	北海道コンサドーレ札幌U-15	
	神谷輝一	名古屋グランパスU-15	小川直澄	浦和レッドダイヤモンズジュニアユース	
	川崎敦史	サンフレッチェ広島F.C.ジュニアユース	坂口佑樹	神戸FCジュニアユース	
	信重亮二郎	サンフレッチェ広島F.C.ジュニアユース	奥田敦斗	神村学園中等部	

<スケジュール>

6月15日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
16日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
練習試合(高円宮記念JFA夢フィールド)  
17日 ミーティング  
トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
18日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
19日 練習試合(高円宮記念JFA夢フィールド)、解散

※1: ケガのため途中離脱

**JFA エリートプログラムU-13 トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)**

<スタッフ>

○監督: 星原隆昭(JC) ○コーチ: 鈴木貴浩(JC)、那須川将大(鹿島アントラーズつくばジュニア) ○GKコーチ: 田口哲雄(JC)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	佐々木翔大	ブラウブリッツ秋田ジュニアユース	FP	原口悠生	北海道コンサドーレ室蘭U-15
	長井京志郎	ロアッソ熊本ジュニアユース		山根輝久※1	サガン鳥栖U-15
FP	エモキ・チマダ海	セレッソ大阪西U-15	糸野樹	ファジアーノ岡山U-15	
	長南開史	柏レイソルU-15	小枝翔太郎	ジュビロ磐田U-15	
	川村求	横河武蔵野フットボールクラブU-15	古川蒼空	北海道コンサドーレ札幌U-15	
	滝川隼馬	京都サンガF.C. U-15	伍賀悠真	ファジアーノ岡山U-15	
	和久侑矢	ベガルタ仙台ジュニアユース	高久達成	ベガルタ仙台ジュニアユース	
	前江田響輝	ツエーゲン金沢U-15	落合哉太	JFAアカデミー福島U-15EAST	
	出口勇斗	ソシエタ伊勢サッカークラブ	長谷川蒼羽	アルビレックス新潟U-15	
	小笠原央	鹿島アントラーズジュニアユース	里見汰福	ヴィッセル神戸U-15	
	萩原健斗	サガン鳥栖U-15	吉原希音※2	JFAアカデミー福島U-15EAST	
	高橋成海	徳島ヴォルティスジュニアユース			

<スケジュール>

6月15日 集合、トレーニング(Jヴィレッジ)  
16日 トレーニング(Jヴィレッジ)  
練習試合(Jヴィレッジ)  
17日 トレーニング(リカバリー)  
トレーニング(Jヴィレッジ)  
18日 練習試合(Jヴィレッジ)  
トレーニング(Jヴィレッジ)  
19日 トレーニング(Jヴィレッジ)、解散

※1: ケガのため途中離脱  
※2: 追加招集

**全日本大学選抜 DENSO CUP SOCCER 第19回大学日韓(韓日)定期戦**

<スタッフ>

○団長: 福井民雄(一般財団法人全日本サッカー連盟専務理事) ○監督: 李宇暎(専修大学) ○コーチ: 西川周吾(北陸大学)、福士徳文(慶應義塾大学) ○GKコーチ: 児玉進二(福岡大学)  
○トレーナー: 北園海(鹿屋体育大学)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	飯田雅浩	国士舘大学	MF	齊藤聖七	流通経済大学
	近藤春成	法政大学		熊澤和希	流通経済大学
DF	奥田勇斗	桃山学院大学	倍井謙	関西学院大学	
	岡哲平	明治大学	植村洋斗	早稲田大学	
	相澤佑哉	駒澤大学	井堀二昭※1	東海学園大学	
	中野就斗	桐蔭横浜大学	藤井海和	流通経済大学	
	三浦颯太	日本体育大学	小酒井新大	中京大学	
	速水修平	常葉大学	FW	山田新	桐蔭横浜大学
	高木隼	阪南大学		木村勇大	関西学院大学
	関根大輝	拓殖大学		落合陸	東京国際大学
	MF	オナイウ情滋		新潟医療福祉大学	小森飛純※2
		泉柊輝	びわこ成蹊スポーツ大学		

※1: ケガのため離脱  
※2: 追加招集



**DENSO CUP SOCCER 第19回大学日韓(韓国)定期戦**

**全日本大学選抜 5 前半1-0 後半4-0 0 全韓国大学選抜**

●2022年6月25日 17:00 ●レモンスタジアム平塚 ●試合時間:90分 ●審判員:  
[主審]中村光輝 [副審]鍋田篤志/佐々木佑吏 [第4の審判員]大清水来洲 ●マッチ  
コミッショナー:玉井朗 ●観衆:3,148人

日本(監督:李宇暎):[GK](1)飯田雅浩 [DF](2)奥田勇斗(3)岡哲平(5)中野就斗(13)三浦颯太 [MF](7)泉将輝<→58'(15)倍井謙>(11)齊藤聖七<→73'(6)オナイウ情滋>(14)熊澤和希<→82'(22)藤井海和>(17)植村洋斗<→62'(23)小酒井新大> [FW](9)木村勇大(10)落合陸<→58'(8)山田新>

控え:(12)近藤啓成(4)相澤佑哉(16)速水修平(18)高木謙(19)関根大輝(24)小森飛純

韓国(監督:イ・スンウォン):[GK](1)キム・ソンドン [DF](2)チェ・ガンヒク<→54'(17)ファン・イルファン>(3)キム・フンミン<→68'(15)ソン・ジュミン>(4)チョン・ヒョンビョン<→59'(20)イ・ドンジン>(6)チョン・ツングン(22)パク・ジウ [MF](9)オ・ジュニョプ(12)パク・ジュンベ(14)チャン・ジュニョン<→59'(7)コ・ミンソク> [FW](10)キム・ゴノ<→66'(23)チョン・スンベ>(16)パク・ファンヒ

控え:(21)キム・テジュン(5)キム・カンヨン(8)イ・ジョンユン(11)ノ・テソン(13)キム・ドン  
グォン(18)ユ・ドンヒョン(19)パク・ハンイル(24)イ・ギョビ

得点:[日本]10'齊藤聖七(1-0)、55'、59'、72'木村勇大(2-0)(3-0)(4-0)、82'山田新(5-0)

警告:[日本]32'落合陸、57'植村洋斗、71'熊澤和希 [韓国]9'パク・ファンヒ、13'チョン・ヒョンビョン、40'パク・ジウ

**【表彰一覧】**

■優勝  
全日本大学選抜

■準優勝  
全韓国大学選抜

■優秀選手賞  
中野就斗(全日本大学選抜・4年)  
齊藤聖七(全日本大学選抜・4年)  
パク・ジュンベ(全韓国大学選抜・4年)  
キム・ゴノ(全韓国大学選抜・3年)

■松本健一賞(MVP)  
木村勇大(全日本大学選抜・4年)

**JFA 第16回全日本O-70サッカー大会**

JFA 第16回全日本O-70サッカー大会は1953(昭和28)年4月1日以前生まれの2022年度JFA登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられ、JFAの主催で6月18日~20日に愛媛県松山市で開催された。

※16ページに関連記事あり

■1次ラウンド

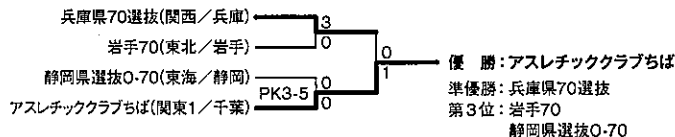
順位	グループA	兵庫	ちば	広島	えひめ	勝	分	負	得点	失点	差	
1	兵庫県70選抜(関西/兵庫)		1 0 0	1 0 0	4 0 0	9	3	0	0	6	0	6
2	アスレチッククラブちば(関東1/千葉)	0 0 1		3 0 0	5 0 0	6	2	0	1	8	1	7
3	広島県シニア70合同チーム(中国/広島)	0 0 1	0 0 3		2 0 1	3	1	0	2	2	5	-3
4	えひめ四十雀フットボールクラブ(四国/愛媛)	0 0 4	0 0 5	1 0 2		0	0	0	3	1	11	-10

順位	グループB	岩手	高知	富山	函館	勝	分	負	得点	失点	差	
1	岩手70(東北/岩手)		2 0 0	3 0 1	7 0 0	9	3	0	0	12	1	11
2	高知昭和OB会サッカークラブ(四国/高知)	0 0 2		0 0 0	2 0 1	4	1	1	1	2	3	-1
3	富山県70選抜(北信越2/富山)	1 0 3	0 0 0		0 0 0	2	0	2	1	1	3	-2
4	函館四十雀70(北海道1)	0 0 7	1 0 2	0 0 0		1	0	1	2	1	9	-8

順位	グループC	静岡	山梨	長野	熊本	勝	分	負	得点	失点	差	
1	静岡県選抜O-70(東海/静岡)		1 0 1	2 0 0	4 0 0	7	2	1	0	7	1	6
2	山梨県シニア70(関東2/山梨)	1 0 1		1 0 1	1 0 0	5	1	2	0	3	2	1
3	信州感々サッカークラブ(北信越1/長野)	0 0 2	1 0 1		2 0 1	4	1	1	1	3	4	-1
4	熊本オールドキッカーズ(九州/熊本)	0 0 4	0 0 1	1 0 2		0	0	0	3	1	7	-6

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝ラウンド



<参加選手>

<函館四十雀70> 監督:棚田正治

藤村武司・岩間唱二・佐藤利彦・棚田正治・高沢孝義・対馬伸之・東海林友尚・和田一明・伊藤隆・森尻和夫・松葉章司・能戸誠一・五十嵐敏敏・砂原壮吉・河合満夫・龍輪和夫・中石勝男・野納邦昭・田中和久

<岩手70> 監督:似内宥治

小渡繁雄・尾美裕功・小嶋章之・河内修・鈴木正幸・大平弘峻・杉原千春・照井健介・江釣子卓也・小野裕・齋藤則雄・工藤英洋・菊池卓郎・似内邦雄・佐々木清徳・小野寺純志・瀬川仁文・金子文雄・似内宥治・河野貴治・高橋孝志・川村喜一・湯澤源一郎・川下昭夫

<アスレチッククラブちば> 監督:秋田信也

和田四郎・増田雅博・岡田伸一・岩木信義・生野隆・菊池和嘉・経澤要・高田守男・菊池均・井田龍夫・秋田信也・牧野敏和・武藤敏直・大野修・水沼考二・犬童伸平・川野眞治・今橋一・神谷信久・増田仁

<山梨県シニア70> 監督:萩原要

新谷武士・松下利彦・秋山直道・野田芳弘・幡野進・田辺泰明・小沢吉広・内藤久歳・中島三紀男・平賀和久・角田二郎・川崎正次・若狭信吉・畑賢吾・風間芳治・田中裕幸・松野互・須藤直行・西川強・三井哲夫

<信州感々サッカークラブ> 監督:白澤省吾

手塚郁夫・小宮山信雄・青柳道雄・石田義雄・金物寿久・内藤盛雄・宮川俊晴・白澤省吾・西村武博・降幡清治・中和昌成・平林正光・齊木実・小出求・鳥羽孝和・内藤亮司・松田正巳・塩田禎一・唐澤陽司・内川尊文・三井隆夫・西原光男・木島幸人

<富山県70選抜> 監督:根塚新太郎

土肥知彦・大西利武・脇田正四郎・朝倉秀芳・橋本貞樹・久保秀明・鳥久男・加藤潔・尾島正彦・金森義嗣・高瀬清一・飯田謙・石井隆信・伊藤伸博・河上廣雄・北野秀道・前田一朗・野村潤・根塚新太郎・吉川昌人・古野孝志

<静岡県選抜O-70> 監督:金高隆司

松下博・大内俊行・笹木良則・山田眞典・佐藤三郎・鈴木啓・赤堀富康・黒井正春・鷺平清治・米村高栄・中田文彦・萩原喜久・高野茂・杉村誠・藤田秀計・高井博一・藤谷禎則・仁藤悦史・山川信・岡村高邦・伊藤博敏・永井亨治・中村築之

<兵庫県70選抜> 監督:清澤崇

福井茂樹・増見照夫・中西徹・岩附保夫・谷口雄二・西原広治・中村実・吉本一仁・岡中正安・奥石恵良・細谷一郎・松永正利・笠谷直人・中山知明・田中正朗・角富幸博・塚元重範・丹羽昇

<広島県シニア70合同チーム> 監督:利重忍

末広章・横手靖吾・高下一夫・和田忠正・鈴木正道・横山隆志・猫島崇治・久保利幸・小滝強・西澤孝夫・呂正弘・升田昇・榎本義信・松田昭憲・佐久間利一・古田篤良・永井和夫・鷹林新二・村上博・能勢茂・桜木幹男・木村一成

<高知昭和OB会サッカークラブ> 監督:寺尾隆

吉永洋一・川嶋之廣・藤本速三・田村俊介・桜井良一・中村俊一・岩崎奎介・川村一成・宮成武人・濱田勲・小嶋求・福川元多賀・遠藤哲郎・國見志郎・大原賢三・竹崎謙・寺尾隆・倉橋楠雄・吉川正明・川村哲夫・山本憲夫・渡部徹・中島敏彦

<熊本オールドキッカーズ> 監督:横山順一

高浪英俊・渡辺仁・松本昇・森本貞男・平井智憲・島崎隆信・岡本芳雄・横山順一・小野龍男・河田信之・田尻行正・大矢野種彦・長尾孝・山下純朗・堀川和幸・木野浩・中村美城雄・福永正美・鶴川久男・北本一男・原洋一

<えひめ四十雀フットボールクラブ> 監督:小野山敢三

山本正志・大野祐治郎・松木映・久岡昇・門屋周二・皆尾洋二・山下孝徳・曾我部良史・尾崎隆司・富田徳一・川野保俊・松井滋樹・加藤章・大西廣明・沖石満之助・高橋一郎・木山満繁・相原博・金村隆・大塚猪佐雄・小野山敢三・加藤健次・岡崎肇雄・柴田聖治・三上慎司

# JFA 第22回全日本U-60サッカー大会

JFA 第22回全日本U-60サッカー大会は、1963（昭和38）年4月11日以前生まれの2022年度山形A登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられ、JFAの主催で6月18日～20日に愛媛県松山市で開催された。

※15～16ページに関連記事あり

## ■1次ラウンド

順位	グループA	京都	岐阜	愛媛	山梨	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	京都O-60 (関西/京都)	●●●	100	100	300	9	3	0	0	5	0	5
2	岐阜県シニア60 (東海1/岐阜)	0●1	●●●	300	200	6	2	0	1	5	1	4
3	39ersFC愛媛 (開催地/愛媛)	0●1	0●3	●●●	100	3	1	0	2	1	4	-3
4	山梨シニア (関東3/山梨)	0●3	0●2	0●1	●●●	0	0	0	3	0	6	-6

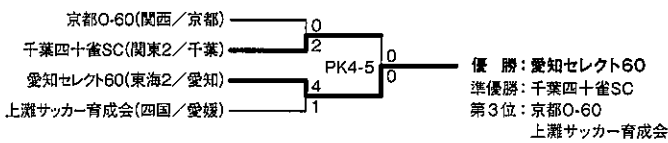
順位	グループB	千葉	石川	室蘭	宮城	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	千葉四十雀SC (関東2/千葉)	●●●	400	400	500	9	3	0	0	13	0	13
2	ゼフィーロ石川 (北信越1/石川)	0●4	●●●	0●1	200	3	1	0	2	2	5	-3
3	室蘭シニア60サッカークラブ (北海道1)	0●4	100	●●●	1●2	3	1	0	2	2	6	-4
4	宮城フェニックスサッカークラブ (東北2/宮城)	0●5	0●2	201	●●●	3	1	0	2	2	8	-6

順位	グループC	愛知	鳥取	福岡	岩手	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	愛知セレクト60 (東海2/愛知)	●●●	0△0	201	300	7	2	1	0	5	1	4
2	鳥取県シニア60 (中国/鳥取)	0△0	●●●	100	0●1	4	1	1	1	1	1	0
3	福岡飛び梅60SC (九州/福岡)	1●2	0●1	●●●	300	3	1	0	2	4	3	1
4	岩手選抜60 (東北1/岩手)	0●3	100	0●3	●●●	3	1	0	2	1	6	-5

順位	グループD	上野	渋谷	長野	札幌	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	上野サッカー育成会 (四国/愛媛)	●●●	0●4	201	300	6	2	0	1	5	5	0
2	渋谷区FCミドル60 (関東1/東京)	400	●●●	1△1	0△0	4	1	1	0	5	1	4
3	セレソ長野60 (北信越2/長野)	1●2	1△1	●●●	100	4	1	1	1	3	3	0
4	札幌60CERI鳥 (北海道2)	0●3	0△0	0●1	●●●	0	0	1	2	0	4	-4

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

## ■決勝ラウンド



### <参加選手>

#### <室蘭シニア60サッカークラブ> 監督:岸奥裕二

今野裕・小西浩一・平野光広・近藤勝治・上口健児・斎藤訓・打矢徹雄・伊藤公・結城幹也・岸奥裕二・本堂明彦・土橋史人・平石達也・山口亮・青柳宏・嶋原洋二・横山秀人・佐藤光一・北敬一・加賀谷信男・橋秋生・松本教夫・岩崎和紀

#### <札幌60CERI鳥> 監督:小田中清高

鈴木浩久・桃内晋助・田中正樹・佐藤一彦・笹森勝・水尾俊幸・東康祐・佐竹政治・谷川誠・中路和也・中嶋修・木村俊幸・坂本鉄男・堀見哲・今野久志・伊東篤志・遠藤謙二・佐藤幸志・三浦謙・小川弘純・佐藤武志・橋本美春・青木弘信・奥村英俊

#### <岩手選抜60> 監督:成ヶ澤徳孝

松浦徹・高橋晃・田高辰己・米澤民夫・三好健志・高木誠・遠藤昭人・千葉光直・中平弘・朝倉健・照井均・菊池純一・藤原孝二・成ヶ澤徳孝・柴田充・佐々木仁・坂本玄・沖館和男・村上文丈・関友見・熊谷裕幸・伊藤良広・菅原孝・澤村一行・山口修

#### <宮城フェニックスサッカークラブ> 監督:岩崎洋治

若宥信・佐藤和弘・初山直樹・佐久田敬弥・佐々木茂・野沢久人・宮野正春・針生徹・三橋秀悦・千葉茂樹・渡辺由一・菅野嘉昭・平間亨・上野晃弘・島貫仁・若生清隆・伊藤崇喜・足利克寛・鈴木俊博・鈴木武一・白澤隆史・黒田孝次・小野寺正徳・高橋裕助・船橋富壽

#### <渋谷区FCミドル60> 監督:小林晃

森川昭雄・小林晃・本橋智明・磯部豊・小林和彦・三浦浩一・高橋浩二・増田俊策・貞包正隆・諸岡岳・時田勝司・細沼孝一郎・中村誠・高橋孝志・開将人・宮崎哲也・持田洋一・坂本雄三・吉武秀彦・桑原宏・後藤千春・ローゼン・ルーベン・野本偉司

#### <千葉四十雀SC> 監督:井上龍彦

渡辺隆之・辻脇隆史・小林正喜・佐々木功・今村浩文・小宮山義雄・福田和正・桜井健之・稲村好聖・横山賢太郎・杉浦亨・井上龍彦・大塚芳一・高尾英樹・石塚昭彦・川島正一・遠藤文浩・廣崎正人・飯塚智久・石橋哲彦・三橋和生・湯田一弘・高田敏・佐々木輝明・嵐琢也

#### <山梨シニア> 監督:田辺泰明

仲沢克己・篠原敬明・宮川清・込山芳行・深見久・小池真彦・天野静忠・浅光一・清水一人・遠藤清一・角田一・古屋仁・角田二郎・石原健司・植松淳二・今村登・篠田裕巳・平賀明彦・塩野正春・佐野勝一・KANESHIRO SHOICHI・数野篤人・上野道彦・秋山武仁・上野昭彦

#### <ゼフィーロ石川> 監督:安井英輔

藤村明雄・山田真澄・田賀正純・早崎賢蔵・八尾克己・嶋崎博之・田原清・西川善和・松野信和・松尾隆哉・二俣進・安井英輔・高田安博・藤代雄二・山田利光・馬場隆英・石川誠・西川透・中嶋幸志・小林幸男・森下豊

#### <セレソ長野60> 監督:小澤廣志

藤木満・原敬樹・柳澤尚臣・平出静夫・有賀公雄・新井暢・内田信一・宮沢文敏・中山俊郎・内田博章・丸山哲也・北原一富・中山幸男・中村尚文・赤羽亨・滝澤克美・北原則昭・花村寿彦・磯谷正人・田中久登・大竹永明・西澤澄雄・柴田謙二・小澤廣志・松浦文哉

#### <岐阜県シニア60> 監督:高橋淳久

佐々木直哉・永山慶一・松本秀昭・萩原孝一・松岡広之・原雅浩・出見剛良・藤原宏晃・丹羽文彦・幸脇真一・高橋淳久・武井靖・福富茂美・杉村慶二・北川充弘・田中和弘・山田勝広・依田滋行・田中明男・柏木輝廣・堀江慎示・森永健裕・小林勝

#### <愛知セレクト60> 監督:恒川正雄

斎木修・中村謙二・河原康夫・仕藤敏彦・村下徹・上田実・由谷貴浩・宮崎稔巳・原誠・福留康幸・阿部文雄・中門勝也・中村安秀・田畑公宏・石濱晴康・池田和福・谷幸孝・神原敏広・平野隆・木下博嗣・長與譲治・青木茂・沢岳・朴在勲

#### <京都O-60> 監督:栗栖孝治

嶋津芳喜・工藤祐生・水口幸夫・足立学・中久保謙彦・岩場利知・新一公・洲崎章弘・亀田忠幸・高屋裕・中村敏晃・堀田弘幸・堀井正司・立花一夫・漢秀樹・清水美彦・小谷昌弘・村上修・豊島順也・浅田好市・水倉泰治・山崎和彦・山元智・久保隆司

#### <鳥取県シニア60> 監督:香川登

三輪賢治・稲村雅彦・瀧野勝正・森下幸彦・渋谷浩一・岩崎淳司・財原裕司・美田豊・高塚博之・山口尚貴・山本久太・森郁夫・井上約・本田政行・三ツ高高司・天野崇史・竹茂君男・萩田篤美・遠藤善美啓・香川登・北川公規

#### <上野サッカー育成会> 監督:高村光郎

米井永登・弓崎卓也・朝山和孝・濱田佐利・藤岡大輔・宮尾英明・浜岡孝弘・木曾信之・高村光郎・山崎孝志・福井宏好・上岡透・西岡徹・小畑満宏・井上行弘・西川明良・福樹浩一・井上始・久保田真児・垣内尚・竹田剛・松下高幸・中村寛道・西上夏樹

#### <福岡飛び梅60SC> 監督:大塚哲雄

山口裕三・金井忠夫・高尾修一・大塚哲雄・吉田郁夫・柴田和正・井手橋和義・永翁秀一・井上秀信・岡崎雄一・高木司美・佐村良夫・山田裕治・本庄徹哉・佐湯久志・岩本英文・能野知学・野崎浩之・大井成元・藤川正登・小林幸一・鶴原一徳・上野正彦・神吉彰・山下英一

#### <39ersFC愛媛> 監督:上田清人

久保昭・井手一隆・矢野太郎・佐々木良・上田清人・中村剛・農中実・酒井英仁・青野俊幸・阿部史宣・西岡和則・堀内憲一・中野直樹・柴田淳・佐々木英司・吉本康記・岡田一広・有吉修三・松田勇治・佐伯博志・栗田真治・岡上良敬・浜田浩史・西野彦



# JFA 第21回全日本U-50サッカー大会

JFA 第21回全日本U-50サッカー大会は1973(昭和48)年4月1日以前生まれの2022年度JFA登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられ、JFAの主催で6月25日~27日に千葉県市原市で開催された。

※15ページに関連記事あり

## ■1次ラウンド

順位	グループA	船橋	盛岡	SIERRA	鹿兒島	鳥取	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC船橋50 (開催地/千葉)	●●●	2●0	4●0	4●0	9	3	0	0	10	0	10
2	盛岡FCマスターズ (東北/岩手)	0●●	●●●	3●0	3●0	6	2	0	1	6	2	4
3	SIERRA SAJO 50 (四国2/愛媛)	0●●	0●●	●●●	2●1	3	1	0	2	2	8	-6
4	鹿兒島四十雀フットボールクラブ (九州2/鹿兒島)	0●●	0●●	1●2	●●●	0	0	0	3	1	9	-8

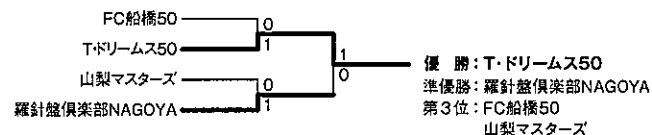
順位	グループB	T・ドリームス	香川	シリアル	BLAZE	鳥取	勝	分	負	得点	失点	差
1	T・ドリームス50 (関東3/東京)	●●●	4●0	1△1	3●2	7	2	1	0	8	3	5
2	香川FC50 (四国1/香川)	0●●	●●●	1●0	3●2	6	2	0	1	4	6	-2
3	シリアル (関西/大阪)	1△1	0●1	●●●	5●1	4	1	1	1	6	3	3
4	BLAZE (中国2/岡山)	2●3	2●3	1●5	●●●	0	0	0	3	5	11	-6

順位	グループC	山梨	アルファット	沖縄	札幌	鳥取	勝	分	負	得点	失点	差
1	山梨マスターズ (関東1/山梨)	●●●	1●0	3●0	3●1	9	3	0	0	7	1	6
2	アルファット安曇野シニア (北信越/長野)	0●1	●●●	2●1	4●0	6	2	0	1	6	2	4
3	沖縄海邦クラブ (九州3/沖縄)	0●●	1●2	●●●	0△0	1	0	1	2	1	5	-4
4	札幌50CERI鳥 (北海道)	1●3	0●4	0△0	●●●	1	0	1	2	1	7	-6

順位	グループD	NAGOYA	福岡	浦和	松江	鳥取	勝	分	負	得点	失点	差
1	羅針盤倶楽部NAGOYA (東海/愛知)	●●●	1●0	4●0	0△0	7	2	1	0	5	0	5
2	福岡とびうめシニアサッカー クラブ(九州1/福岡)	0●1	●●●	3●0	1●0	6	2	0	1	4	1	3
3	FC浦和シニア (関東2/埼玉)	0●4	0●3	●●●	4●0	3	1	0	2	4	7	-3
4	松江FCだんだん (中国1/鳥根)	0△0	0●1	0●4	●●●	1	0	1	2	0	5	-5

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

## ■2次ラウンド



### <参加選手>

<札幌50CERI鳥> 監督:谷川誠  
飯嶋博・井谷秀男・木津田博文・五十嵐金吾・今川誠・森田一男・石川準・佐々木拓志・五十嵐幹人・佐々木純・松山智望・東勝幸・平地一典・浅井謙作・天野政寿・松本真樹・菅野英生・山口アントニオ浩・河野智・櫻庭慎二・伊藤拓・小田中清高・工藤孝二・佐々木準・長尾成好

<盛岡FCマスターズ> 監督:宮田和彦  
佐藤聡・鎌田優・工藤秀男・斉藤秀一・村上確・長沢祐規・工藤晋民・藤井正博・本田正人・三戸一史・黒丸智也・大沼亨・下河原真浩・菅野貴洋・宮田和彦・坂本譲・渡辺智洋・岸根邦博・菅原公明・高浜繁克・松下源也・澤口憲二・伊藤慶明・金子修治・根子達也

<山梨マスターズ> 監督:藤田充  
網野均・竹中浩一・丸山孝・高橋克哉・清水俊彦・雨宮和幸・平岡昇・清水成仁・渡辺俊之・奥石和央・中村竜治・石原宏一・戸澤義春・渋谷仁志・篠田英之・古星成生・猪又友英・長田義仁・平野政樹・高田修・石原大助・中込正行・清水祐至・相澤崇治・若菜隆

<FC浦和シニア> 監督:横山正史  
橋本将司・山田次郎・小早川彰・鈴木幸夫・南陽政道・大西如・飯島稔彦・村本耕一・磯貝剛・織茂徹也・守野正剛・窪田慎二・山川桂司・平川大・星野昌弘・田中賢二・内田高広・村山賢二・千葉哲也・左賀正・遠藤友起・中原勇樹・佐々木裕・中沢剛・佐藤敦

<T・ドリームス50> 監督:本田泰人  
小林康紀・鶴岡洋介・山崎義幸・NEUREITER KIRK・落合祐二・山本佳正・中川茂・小西俊市郎・石村朝・百瀬成彦・大谷勝仁・本田泰人・岡本嘉章・BAILEY JASON・和田展史・黒岩文幸・米原隆幸・木島教・伊藤隆史・前田治・福益大・野本英男・増田真一・山口寛樹・大曾根努

<アルファット安曇野シニア> 監督:赤羽岳彦  
上野一弘・坂口善文・村山聡・浅野隆・原幸一・小平晋・飯田勇二・佐賀裕二・長瀬靖志・矢ヶ崎広志・榎本拓・波平龍廣・徳竹秀彦・桜井勇二・赤穂好児・西村修一・塩澤秋廣・竹内敏高・堀入孝一・花岡洋一・中田明秀・松澤孝明・曾根原由次・金山博文・白井聡

<羅針盤倶楽部NAGOYA> 監督:水野雅史  
小藤昭人・山本益生・橋下雅史・杉野正尚・稲垣一幸・原茂利・揚場吉勝・坪田憲佳・内藤紀之・羽田雅昭・高柳英成・千田和弘・岩城寛之・五十住和平・掛橋正宏・青原直輝・杉山孝・小林靖典・小泉秀夫・折井則之・井上慎一・外村雅宏・木子明道・竹内祐史・鶴賀伸之

<シリアル関西> 監督:高橋千尋  
加藤清行・玉利公伸・草本大悟・坂本隆司・山本泰貴・館康太・宮本佳典・川畑政和・佐藤崇・谷居道太・上田彰彦・青木孝之・冨田豊志・森田真司・緑佳孝・山根崇宏・宮本孝治・高橋千尋・石井直紀・萩堂博行・興山和茂・高田秀幸・上村拓哉・田島大・坂出太郎

<松江FCだんだん> 監督:角田雅勇  
角田雅勇・江角周治・石川大介・野津民夫・中村康・古山博明・目附恵己・石原誠・錦織克俊・安達義浩・藤山和英・森山博和・梶村一郎・佐藤慶一・廣瀬康彦・福島正文・三浦祐明・渡部充・多久和弘・近藤正樹・村山弘・西田功・山本功治・桑原孝・田中裕一

<BLAZE> 監督:池上直樹  
小椋誠・藤井基晴・佐藤宏治・矢山憲史・森下克也・菅谷泰彦・根木健作・藤井哲・中野修一・平松尚・山下誠・新原和和・齋藤敬志・丸本倫久・久保勝・石原朗雄・新原学・野口安朗・和氣正泰

<香川FC50> 監督:寺西昭人  
石田宏治・丸山勉・喜田晃生・加藤貴路・岡本智樹・西川剛史・神岡賢一・泥川浩士・谷本堅一・吉田忠弘・木村靖士・汐崎勝・寺西昭人・松本竜太郎・高橋秀二・加藤健英・柴村正巳・八木明・安野誠二・土居幹夫・吉村隆司・多田千稔・福井大介・清水宏三・植田宏司

<SIERRA SAJO 50> 監督:工藤栄二  
竹内強・瀧本武・藤本龍美・榎垣裕平・松尾光晃・伊藤雅也・工藤哲也・近藤淳司・岡政昭・藤本賢二・伊藤忠・源代真良・玉置智睦・山内政樹・藤田和人・小野宏記・工藤栄二・政岡秀樹・工藤浩典

<福岡とびうめシニアサッカークラブ> 監督:大塚充敏  
衛藤勇治・津吉明・平田英雄・坂本剛頼・梅木久夫・大塚充敏・木村勝利・井手口隆・渡邊昭史・榎谷修之・長島直樹・南正大・堤十基郎・大塚弘幸・泉圭一郎・野元雄二・池辺英明・井上孝紀・松本裕・前田成裕・石橋直正・岩本英文・矢本昭彦・本園博忠・山口浩二

<鹿兒島四十雀フットボールクラブ> 監督:井上正貴  
田原正浩・中森健二・布袋浩志・酒匂博文・小林俊一郎・打越誠・岩本邦治・柳川勝吾・窪田基吉・栗元和明・竹永一成・武盛一幸・荒木秀之・有馬岳洋・中村陽一・山下秀人・大瀧洋一・徳永充朗・外園淳一・新坂尚孝・小西正敏・西村隆太郎・尾辻博昭・西野公一・井上正貴

<沖縄海邦クラブ> 監督:津波古昌勝  
宮里秀一・仲本譲・外間亮・山下俊郎・上地政樹・宮城辰彦・比嘉陸・神谷厚仁・溝井洋輔・前田晋・真境名学・大城陸・田村弘人・奥浜蒼・平良安則・宮城淳・大城晋・城間修・喜久村優・照屋安之・遠山正次・ALCIDAS PIERRE・白銀忠・城間直幸

<FC船橋50> 監督:吉本雅一  
飯島高明・土井健司・阿部和己・林賢太郎・稲垣成寿・小山田貴・野中清一・森隆之・河野雅彦・飯島聡・小川弘・田中正浩・椎名功真・斉藤弘昭・本田満裕・石田雅雅・滝口康生・掛谷弘太郎・長島卓・安孫子勉・曾我豊明・大柳直哉・杉浦政行・前川克史・奥山直樹

DATA BOX



## JFL便り

JFL事務局  
<http://www.jfl.or.jp/>



## 第24回JFL 前半戦を振り返って

日本フットボールリーグ 事務局長 上保 毅彦

3月13日に開幕した第24回日本フットボールリーグ(JFL)も7月14日で第15節が終了しました(一部未消化試合あり)。今年も新型コロナウイルスの影響からこれまで7試合が中止となり代替試合を行いました。入場者の制限も一部緩和されるなど、リモートマッチ(無観客試合)になることは一度もありませんでした。観戦に関する注意事項は引き続きありますが、ファン・サポーターの皆さまのご理解・協力もあり、少しずつでもコロナ禍前までの状況に戻れるよう、チームと協力しながら計画・運営を進めています。

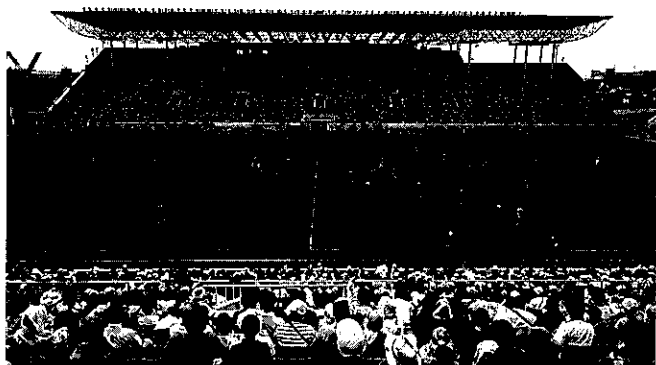
今年のJFL最大の話は、サッカー界のレジェンド、三浦知良選手の鈴鹿ポイントゲッターズ加入でしょう。3月13日のホーム開幕戦で4,620人(昨年の鈴鹿のホーム平均440人)が来場し、その後のアウェイ試合でも開門前に200~300人以上の列ができるなど大きな反響を呼んでいます。6月19日の第12節・FC大阪対鈴鹿では、FC大阪にとって初の東大阪市花園ラグビー場第1グラウンド開催であることやEXPO2025との相乗効果もあり、JFL史上4番目に多い12,152人の入場者数を記録しました(1万人以上の入場者は2013年第15回第23節FC琉球対栃木ウーヴァFC以来)。

鈴鹿戦の報道陣はホーム開幕戦で77人、東京都武蔵野市で開催された第4節のアウェイ戦では60人、それ以外でも約30人は訪れ、J1やJ2に近い数字となっています。

成績はHonda FCのほか、昨年は下位だったFCマルヤス岡崎、東京武蔵野ユナイテッドFC、ホンダロックSC、J3入会を目指すJリーグ百年構想クラブが上位争いをし、第14節終了時点で首位のHondaから7位の武蔵野までの勝ち点差がわずか2の大混戦となっています。

新入会チームのクリアソン新宿は6月4日、ソニー仙台FCとのアウェイ戦で初勝利を飾ると、そこからは3勝2分け1敗と調子を上げています。10月9日には、JFLとして第10回大会以来2度目、改修後は初となる国立競技場でのホーム開催(vs鈴鹿ポイントゲッターズ)も決まっており、今後も注目です。

後半戦も引き続きの感染対策や、台風の影響によって試合運営も困難が続くことになるとは思いますが、チーム関係者と連携し乗り越えていきたいと思っております。後半戦もご注目ください。



第12節のFC大阪対鈴鹿では12,152人が来場(東大阪市花園ラグビー場第1グラウンド)

## JFL便り

MIOびわこ滋賀  
<https://www.mio-biwako.com/>



## 滋賀県初のJリーグ参入を目指して

MIOびわこ滋賀 広報 小林 航

MIOびわこ滋賀は、2006年に設立された滋賀県初のJリーグ参入を目指すサッカーチームです。現在はトップチームのほか、MIOびわこ滋賀レディース、アカデミー(育成組織)、スタッフを含めると総勢約600人が所属し、滋賀県下のサッカーチームにおいて最大規模のMIOファミリーとなりました。

トップチームは草津市、東近江市をホームタウンとし、東近江市布引運動公園陸上競技場(布引グリーンスタジアム)と甲賀市陸上競技場(水口スポーツの森)をホームスタジアムとしています。

クラブは2006年にFC Mi-OびわこKusatsu(当時のチーム名)として誕生。同年に関西サッカーリーグ1部で2位となり、全国地域サッカーリーグ決勝大会に滋賀県勢として初出場しました。翌2007年に全国地域リーグ決勝大会で3位という成績を収め、日本フットボールリーグ(JFL)への昇格が決定。2008年からJFLに在籍しています。

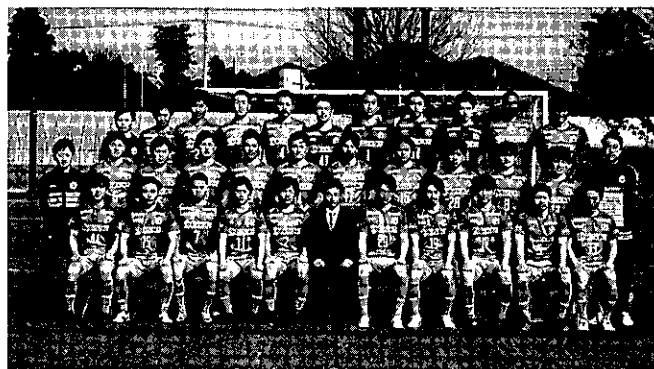
アカデミーについて、ジュニアユースは、草津市を拠点に活動するMIOびわこ滋賀U-15とMIOびわこ滋賀レディースU-15、東近江市を拠点とするMIO東近江の3チームが活動しており、サッカースクールはMIOサッカースクール(小学校1年~6年生対象)、MIOキッズスクール(年少~年長対象)、なでしこスクールで構成されています。

クラブは下記の活動理念(PHILOSOPHY)を大切に活動しています。

1. サッカーを通じてすべての人々と共に夢を創造する
2. 琵琶湖の自然を大切に、「びわこ」から世界へ発信
3. スポーツを通じて、地域社会の活性化を図り「地域に密着したクラブ運営」を創造する

チームエンブレムは、チームの創設年、チーム名、そして、琵琶湖の固有種である「オオナマズ」をイメージしたイラストを表しています。ロゴマークには琵琶湖のイラストを取り入れて、どちらも滋賀県、琵琶湖を強くイメージしたものとなっています。

これからもMIOびわこ滋賀は地域に根差し、滋賀県民、自治体、企業の皆さまに愛されるクラブになることを目指し、活動していきます。



Jリーグを目指しながら、これからも地域に根差し活動していく



## なでしこリーグ便り

ノルディニア北海道

<https://www.nordeea.jp/>



## 地域社会におけるなでしこリーグの存在意義

ノルディニア北海道 代表理事 鉢 直人

日本女子サッカーの存在意義は、なでしこジャパン(日本女子代表)に象徴される、国際水準のフィジカル、技術、なでしこらしい戦術、そしてセンセーショナルな戦績を常に求め続けられるメンタリティー、これらの強化に注力し、世界ランキングの上位を求められながら、それらに結果を出し、広く国民に愛されることにあると思っています。

これに続き、昨秋にはWEリーグ(日本女子プロサッカーリーグ)が開幕しました。プロ化により選手がサッカーに集中できる環境が整備され、今後の日本女子サッカーのさらなる発展が期待されています。クラブ運営も安定した収益構造の構築に日々尽力しています。

代表選手を輩出することをクラブ運営の一つの柱としてリーグに参戦することは、クラブを支える地域社会、スポンサー、サポーターに対してクラブ運営のための支援を求める上で、大変わかりやすい目標の一つであると言えると思います。

日本女子サッカーのアマチュアリーグ最高峰として継続存在することとなった、なでしこリーグ。その社会における存在意義とは、どんなことなのでしょう。

選手は一部のチームと学生を除き、ほぼ社会人であり、地域社会の中で就業し、自活し、社会生活を送っています。そのような選手たちが仕事との両立の中、日々のトレーニングに参集し、大好きなサッカーに打ち込んでいます。サッカーがやりたいから働く、ではなく、地域社会に労力として貢献しているからこそ、大好きなサッカーができるのです。全国のサッカー協会で普及に努める多くのサッカー関係者のご尽力、さらに選手個々の家庭環境、つまり、わが子にサッカーに興味を持ってもらう努力も、明日のなでしこジャパン輩出のために欠かすことができない大切な要素です。選手がサッカーを好きになるチャンスを与えてくれる「家庭」そのものが社会組織の最小単位であり、サッカーと巡り合えた選手はすでに地域社会の中で育まれた、と言えるのではないのでしょうか。

幼いころからサッカーが大好きで、やがて代表選手になることを目標に、社会人になってもサッカーに夢中になれる環境を地域社会と共に整備していく様(さま)が、なでしこリーグの地域社会における最大で最強の存在意義であると思っています。



2022プレナスなでしこリーグ2部 第5節・ノルディニア北海道 vs 福岡J・アンクラスより

## なでしこリーグ便り

オルカ鴨川FC

<http://www.orcakamogawafc.com/>



## How to do it～地域と共に～

オルカ鴨川FC 運営責任者 大西 洋

「地域と共に」オルカ鴨川FCのクラブスローガンであり、私の好きな言葉です。

鴨川の地にオルカが誕生して今年で9年目、このスローガンのように、どのようにしたら成し遂げられるかを考え、歩んできた道のりです。

チーム結成当時、市内の社会人サッカーチームの監督であった私ですら、人口3万人強の鴨川になでしこリーグを目指す女子サッカーチームができるとは、信じられませんでした。

しかし、そんな疑念をよそにクラブは歩み始め、今では「女子サッカーチーム」から「オルカ鴨川FC」と多くの方に認知されるようになりました。

発足当初は、地域で開催されるイベントや学校行事などに監督・選手が参加し、市民の皆さんや子どもたちと触れ合う時間を多く作り、クラブの存在や選手一人一人に愛着を持っていただけるように活動しました。試合では、時間が許す限り、キックオフ前やハーフタイム、競技場外でさまざまな地域クラブや部活動に活動の一環としてパフォーマンスを披露していただき、試合観戦のためだけに来場するのではなく、地域の皆さんも主役として参加できるホームゲームを目指しました。

ただ、ここ数年は、地域クラブが軒並み活動を自粛、ホームゲームでもイベントを控えていたことで、今までオルカが大切にしてきた地域との関わりが思うようにいきませんでした。今シーズンは少しずつ状況が緩和してきたことを受け、以前のような雰囲気や関わりを取り戻したいと考え、感染拡大対策を講じながら多くの団体に参加いただくことができています。運営責任者として滞りなく試合を遂行することは当然ですが、地域の皆さんの活躍を応援したい、たくさんの人たちと笑顔を分かち合いたいという思いが私の根底にはあります。

「私たちのまちにはオルカがある」と、地域の皆さんがそれを誇りに思ってくれる、そして、子どもたちが成長し振り返ったとき、楽しかった思い出とともにオルカが刻まれている。そんなことを常に思い描きながら、一市民からクラブに携わるようになった者として、How to do itの気持ちで前進し、微力ながらも一つのロールモデルとして発信し続けていきたいと考えています。



試合前のサッカースクールで選手と子どもたちが触れ合う様子



## 日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟  
<https://jbsf.or.jp/>



## ビーチサッカー×脳腫瘍

アヴェルダージ熊本BS 中原 勇貴

私はビーチサッカーを始めて10年目になります。この10年でたくさん経験することができました。関東の東京ヴェルディBSでプレーしたこと、同チームのキャプテンとして日本を取ったこと、ビーチサッカー日本代表に選出されたこと、FIFAビーチサッカーワールドカップのアジア予選で戦ったこと。たくさんを経験し、今は地元熊本のプロビーチサッカーチームで日本一を目標にプレーしています。2019年に熊本に戻り、3年になりますが、苦しい経験をしました。

それは「脳腫瘍」です。2021年2月に見つかり、余命5年～10年と言われました。神経膠腫グリオーマという、脳内神経を覆う癌で、腫瘍を取ることで何かしらの神経を失うことになります。私は、言語障害、記憶障害、右半身不随の神経でした。すぐ手術をすることになったのですが、方法が2つありました。

## ①全身麻酔で全ての腫瘍を取り切る

神経も取るので何かしらの障害が残る。しかし全身麻酔のため、目が覚めた時は終了している。

## ②腫瘍を取る時は意識を戻し、喋れているか、記憶があるか確認しながら摂取すること

脳に麻酔はかけるが目は開いており、話しながらの手術になる。大事な神経を覆う腫瘍は残すが、再発リスクは高い。

私は②を選択しました。

この手術は生まれ変わっても二度としたいくない激痛でした。取り乱したり意識が飛んだり12時間の手術を経験し、腫瘍を95%取りました。しかし、5%は残っているので、抗がん剤治療や放射線治療、月1回のMRI再発検査はこれからずっと続きます。

それでも、家族やたくさんのサポート、ビーチサッカー仲間のおかげで、プレーできる体に戻ることができました。そして、仲間の大切さを知ることができました。

今年はコロナ禍を乗り越え、九州リーグや全国大会も再開予定です。日本トップリーグもプレ大会(第1回Beach Soccer トップカテゴリー強化リーグ2022/JBSF後援)として始まり、日本のビーチサッカー界も再出発する年になりました。

しかし、私はいつまでビーチサッカーを続けられるのか分かりません。

だからこそ一日一日を大切に、後悔することなく、日本一を取るために人生を懸けて努力します。熊本で優勝し、まずは九州でビーチサッカーをもっと有名にしていくことを目標とし、努力していく一心です。私の経験が少しでも広がりますように。



地元・熊本の仲間たちとビーチサッカーで夢をかなえるために

## 日本フットサル連盟便り

日本フットサル連盟  
<http://www.jff-futsal.or.jp/>



## 東北地域のアンダーカテゴリー大会開催について

福島県フットサル連盟 理事長 池田 義人

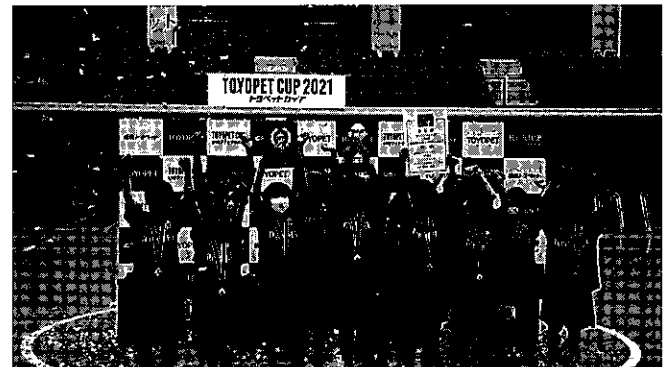
以前、宮城県で「ドコモカップ」という、東北各県の小学生4チーム(男女各2チーム)が招待されて出場する、フットサルの大会が開催されていました。東日本大震災の影響で開催が見送られていましたが、2014年の年末、福島トヨペット株式会社より、震災後、思うようにボールを蹴られない子どもたちや小学5・6年生の選手の陰に隠れてしまってなかなかピッチで活躍ができない低年齢の子どもたちのために何か大会はできないか?とのありがたいお話をいただきました。

そこで「ドコモカップ」に代わる大会として、小学4年生以下の子どもたちが主役となる「TOYOPET CUP U10フットサル大会」をスタートしました。福島県を皮切りに、いずれは東北6県に広げ、それぞれ県大会を実施した後に東北大会につながるような大会として開催したいと考え、事業計画書を提出したところ、福島トヨペット株式会社に社会貢献事業の一環として協力したい、と賛同をいただきました。

翌2015年の夏から大勢の社員の方々にも運営にも携わっていただいで開催することとなり、福島県5地区で地区予選(60を超えるチームがエントリー)を実施し、その後、地区予選上位8チームによる福島県大会を開催しました。決勝の模様は地元のテレビ局で録画放送され、反響もとても大きく、開催して本当によかったと思う素晴らしい大会となりました。

現在、「TOYOPET CUP」といえばU-10フットサル大会と、福島県では認知されるまでになりました。今年3月には、コロナ禍で初の東北大会を福島県の小野町町民体育館にて開催しました。残念ながら、青森県と秋田県が新型コロナウイルス感染症の影響により不参加となりましたが、東北4県の代表チームにより熱戦が繰り広げられ、事業計画書の通り着々と進めることができています。

今後も、少子化によるフットサル選手減少の歯止めや技術的な指導者の育成、審判員の育成などの課題に対して地道に活動を続けてまいります。



TOYOPET CUP 第6回福島県U10フットサル大会2021 優勝(富田西サッカー少年団)



## なでしこひろば便り

なでしこひろば  
<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>



### つながり

AzuLente KAZO ジュニア監督 北村 悠貴

2021年にWEリーグが開幕しました。われわれが所属している埼玉県からは、初年度から3チームが参加することになり、埼玉県的女子サッカーのパワーが感じられる流れになってきています。当クラブとしても女子サッカーの発展に何か貢献できないかと考え、この度、「JFAなでしこひろば」に申請させていただきました。

私自身、女子の指導は浅いこともあり、不安と期待が入り交じりながら、2021年10月にスタートさせることになりました。日によっては参加者が少ない日もありますが、スタートして約半年以上たった現在、継続して10人前後は参加してくれるようになりました。まだまだ人数は少ない状況ではありますが、今後も継続していくことで地域に周知、理解していただき、今後さらなる普及につながっていかないと考えています。

現在、SFAフットボールセンターという人工芝のグラウンドで開催することができています。参加者たちは、最初は不安な顔で集まることもありますが、時間がたてばすぐに溶け込み、笑顔いっぱいサッカーに取り組んでくれています。転んでもそれほど痛くないといった環境は、サッカーが初めての子や経験が少ない子に恐怖感を与えることがないため、非常に良い環境でできています。

今後については、地域チームの指導者等に案内をして、さらなる「つながり」を生み出していきたいと考えています。また、WEリーグの選手らにも参加していただきたいと考えており、参加している子どもたちに夢を与えることも責務だと感じています。参加することのメリットを多く発信していき、なでしこひろばの発展につなげていきたいと考えています。

なでしこひろばは、年齢などは問いません。現在の参加者は小学生が中心ですが、中学生以上、大人の方ももちろん参加可能ですので、ぜひともお待ちしております。

私自身も今後、女子サッカーの現場にも積極的に参加し、理解度を深めて、埼玉県的女子サッカーの普及、発展、強化に少しでも貢献できればと思います。



笑顔の輪を広げ、なでしこひろばの発展につなげていく

## 日本障がい者サッカー連盟便り

一般社団法人日本CPサッカー協会  
<http://jcpfa.jp/>



### 「IFCPF Women's World Cup」で銅メダルを獲得!

一般社団法人日本CPサッカー協会 理事 神 一世子

CPサッカー初の女子の国際大会となる「IFCPF Women's World Cup」が5月11日から17日、スペイン・サラウで開催されました。

この大会は、1984年からパラリンピック種目だったCPサッカーが、東京2020パラリンピック競技大会の種目から除外された際に課題として挙げられた、女子の競技者を増やすために早期の国際大会を開催することを目指して創設されたものです。本来は7人制のCPサッカーですが、世界的にも女子選手は少ないことから、参加を促進するために、今大会においては5人制で行われました。

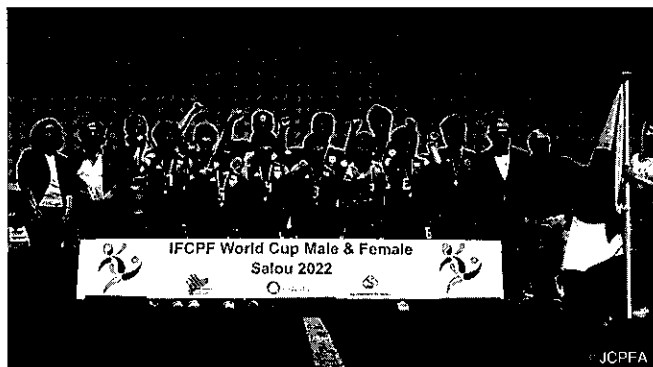
日本では、これまで男子と一緒に活動する女子選手は数名いましたが、女子チームはなく、男子に交じって練習も試合も行われていました。大会には、公募で集まった6名の女子選手で選抜チームを編成し、初の女子CPサッカーワールドカップへ臨むこととなりました。

参加国は、日本、スペイン、オーストラリア、オランダ、アメリカの5カ国。大会方式は、1stラウンドを総当たり戦で行い、勝ち点、得失点差、ゴール数による順位から、上位2カ国による決勝と、3-4位決定戦を行いました。

日本は初戦、オープニングゲームとして地元スペインと対戦しました。記念すべき大会初ゴールは開始4分の日本の先制点でした。試合は終始日本のペースで、初戦を6-1で勝利した日本は、2戦目のオランダ戦を6-0で勝利したものの、3戦目のオーストラリア戦は0-4で敗戦、4戦目のアメリカ戦は1-1の引き分けとなり、1stラウンドを3位という結果で終わりました。

今大会の出場チームは、いずれもこの大会を目標に初めて結成された女子チームでした。世界で今まさにスタートしたばかりの女子CPサッカーは、アメリカが初代王者に。日本はオランダとの3-4位決定戦を4-1で勝利し、銅メダルを獲得しました。

これを機に世界の女子CPサッカーが発展していくことを期待しつつ、日本がこの歴史の第一歩となる舞台に立てたこと、そこで銅メダルを獲得できたことを大いに喜びたいと思います。



「IFCPF Women's World Cup」閉会式・メダルセレモニーの様子



# 講座を受け、 物事の考え方が整理された

受講者インタビュー

第1回：大石隆夫さん（ジュビロ磐田アカデミー統括部育成部部長）インタビュー



日本サッカー協会（JFA）は、2004年に「JFAスポーツマネジャーズカレッジ」（SMC）を開講した。SMCは、04年から06年の3年間は2002FIFAワールドカップの記念事業のサッカーを中心としたスポーツ環境整備事業の一環として行われ、07年からはキャプテンズミッション「M11・スポーツマネジメントの強化」に組み込まれた。現在は各地域における「サテライト講座」を中心に開催している。今号では、サテライト講座の受講生の一人、大石隆夫さんに話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年6月22日

文章化にビジュアル化  
新鮮だったプレゼンづくり

——まずは、大石さんのジュビロ磐田での業務内容についてお聞きします。

大石 U-18、U-15年代で構成される育成組織の統括が主な仕事です。育成部の部長は育成組織を統率するアカデミーダイレクターやヘッド・オブ・コーチングを含めてマネジメントする役割を担っています。クラブが進むべき方向を定めることも役割の一つ。普段は社内にいることが多く、他部署との会議やミーティングを重ねて、クラブとしての考えを育成部に落とし込んでいきます。

——現在、力を入れて取り組まれてることを教えてください。

大石 目まぐるしく変わる時代に対応することです。令和の時代を生きる育成年代の選手たちは、昭和世代の私たちと比べると、価値観が全く異なります。デジタル社会で育ち、「Z世代」と呼ばれたりもしますよね。まずは彼らのことを理解した上でアプローチの方法を考えることが、互いを知る上で不可欠だと思っています。

——育成部門のトップに立つ大石さんが、SMCサテライト講座を受講しようと思われたきっかけは何ですか。

大石 SMC本講座を受講した静岡県サッカー協会の方から勧められました。本講座を受けたかったのですが、スケジュールとの兼ね合いで、短期間（計18時間）で学べる静岡開催のサテライト講座を受講することにしました。私自身過去の経験から多方面に関心を持ち、新しいものを取り入れたいと

思っていたんです。アカデミー統括部育成部部長に至るまでには、ジュビロ磐田で育成部門、強化部門、普及部門、さらにはトップチームの現場と、多くの仕事に関わってきました。

——新しいものを取り入れる必要性を感じられたのはいつ頃ですか。

大石 強く感じるようになったのは1年ほど前です。昨年、ホームタウン活動の仕事をしているときに、クラブは地域の人たちに支えてもらっている点から改めて実感したんです。多くの事業は、チームの勝ち負けだけでは話が進みません。クラブとして、地域の方々に何を求められているかをしっかり考えないといけない。どれだけ成績を残しても、そこをないがしろにすると周りに取り残されていきます。それこそ、井の中の蛙になってしまふ。Jリーグの理念にも、われわれの役割の一つとして「豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与」とありますからね。

——サテライト講座を受講し、新たな気づきがありましたか。

大石 数多くありました。例えばセッション1で自らのビジョンを文章化し、ビジュアル（絵）としても見せる作業をしたのですが、そうしたプレゼンテーションをあまりやったことがなかったので、とても身になりました。私はホームタウン活動をする過程で地域の行政機関と話をする機会があります。そのときに必要になるのが自分たちの考えを整理して文章化し、提案することなんです。企業のビジネスマンであれば、企画書を作成してプレゼンテーションすることは当たり前かもしれませんが、長年、サッカー畑にいる私にとっては新鮮でした。

——文章化し、絵に描いたビジョンとはどのようなものだったのですか。

大石 私はかねてからサッカーを通して、地域に貢献できることがもつとあるのではないかと考えていました。スポーツには人を集める力がありますし、コミュニティを活性化させるツールになると思っています。現在、教育行政で課題の一つになっている中学校の部活動の外部委託については、まさにクラブとして関わることができる案件



です。そうしたことを発表させていただきます。とはいえ、サッカーが持ち得るパワーや価値が多くなると理解されているとは限りませんし、私が絵に描いたことが全てトントン拍子に進むわけではありません。そういう意味で、講座で坂口淳SMCダイレクターに言われた言葉は印象に残っています。

—どのような言葉をかけられたのですか。

大石 「サッカーの試合がある日、スタジアムに足を運んでくれるコアなサッカーファンは、国民の割合からすれば、ほんのわずか。1%に満たないかもしれない。だからこそ、われわれはサッカーにそこま

で関心がない99%の人たちにも目を向ける必要がある。実際、私たちがサポートして下さっているのは、そうした99%の方たちです。坂口さんの言葉を聞いてからは、ファン・サポーターはもちろんのこと、その周辺の人たちのことも意識するようになりました。

## 何歳からでも チャレンジはできる

—サテライト講座を修了後、仕事の取り組み方に変化は生じましたか。

大石 意識は間違いなく変わりました。

した。U18年代とU15年代のコーチングスタッフには、広い視野を持って指導に当たるように言っています。Jクラブのアカデミーとして、日本を代表するような選手を育てることも大事だけど、そこだけにフォーカスしないように、と。スタッフには、選手たちのピッチでの振る舞いだけでなく、彼らのバックグラウンドにも目を向けてほしいのです。選手たちが自宅に帰れば家族がいますし、学校に行けば先生や友人との時間があります。彼らも地域と関わりながら生活しているのだから、われわれは選手にピッチで充実した時間を過ごしてもらいつつ、それ以外にも目を配りながら指導することで安心してサッカーに集中してもらいたいです。

—明確なビジョンを掲げ、行動計画を立てても、いざ実行に移すのは簡単ではないと思います。

大石 時には度胸や勢いも必要でしょうね。私の場合は、みんなの前で発表したことで、やらざるを得なくなりしました(苦笑)。サテライト講座で発表する機会をもらえたのは良かったです。成功するか、失敗するかは別にして、まずアクションを起こすことが大事。何歳からでもチャレンジはできます。私自身、58歳になりましたが、まだまだいろいろなることを知りたいですし、新し

いことを学びたい。この年齢で駄目出しをされるのも、それはそれでいいのかなって。何もやらないまま終わってしまう人生はつまらないですよ。

—現在、チャレンジしていることはありますか。

大石 これは日本全体の問題ですが、磐田市でも少子高齢化が進んでいます。今後は小中学校の統廃合がさらに増えていくでしょう。そうした際、廃校などに伴って使われなくなった学校施設を有効活用できたならと考えています。理想は、そのような施設を利用して、スポーツを通して新しいコミュニティを設けることですが、実行に移すまでのハードルはとても高いと感じています。計画を立て、資金を集めても、公共施設である学校をすぐに利用することはできません。まずは行政と密にコミュニケーションをとり、オープンに話ができる環境をつくるのが重要だと思っています。近いうちに熊本県フットボールセンターの視察に行くので、資金の集め方、運営方法などを勉強させてもらいたいと思っています。Jリーグの誕生からこれまで、サッカーは人気スポーツとして大勢の少年少女から親しまれてきましたが、今のままではいけません。それはジュビロ磐田と同じ

です。クラブとして進化し、魅力的な存在でい続けたいと興味を持ってもらえなくなります。危機感を抱きながら今後の活動に取り組むつもりです。

—ジュビロ磐田は、2023年にJリーグ参入30周年を迎えます。

大石 新たなことに踏み出すタイミングです。育成部として、ただ単にプロ選手を輩出するだけではなく、新たな価値を生み出さなければなりません。クラブとしても自分たちの存在意義を見直す時期に差し掛かっています。次の世代に何かをつなげていきたいと考えています。

—最後に、SMC講座の受講を検討している人たちに伝えたいことはありますか。

大石 良い経験になるので、ぜひ受講をお勧めします。私は物事の考え方が整理されました。コロ

### SMC紹介文

## JFAスポーツマネジャーズカレッジ (SMC) とは

豊かなスポーツ文化の創造。  
それを具現するのは、私たち一人ひとりの力。

地域に根ざし、誰もが気軽に楽しめるスポーツは、人々をきっと幸せにします。そんなスポーツ組織に、今、求められているものの一つ。それは、魅力溢れるスポーツ組織づくりを進めている優れたマネジャーの存在。スポーツマネジメントを学び、自立した魅力溢れるスポーツ組織づくりを進めていくことで、スポーツの楽しさを、より多くの人々と分かち合いたい。

JFAスポーツマネジャーズカレッジ (SMC) で学ぶスポーツマネジメントは、地域に根ざし、人々に愛される、魅力溢れるスポーツ組織づくりの必要不可欠なツールとなります。

JFAスポーツマネジャーズカレッジは、自立した魅力溢れるスポーツ組織づくりを推進することにより、豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献できる優秀な人材を養成することを目的とした人材育成事業です。

JFAスポーツマネジャーズカレッジ事務局  
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFAハウス  
TEL: 050-2018-1990. MAIL: jfa\_smc@jfa.or.jp

ナ禍の影響で面と向かって議論を交わす機会が少なくなっている今、グループで話し合いながら、自らのビジョンを具体化し、行動計画を立てていくのは楽しいものです。前回はジュビロ磐田から4人参加しましたが、できることならスタッフ全員に受講してもらいたいくらいです。マネジメントする立場ではない人々たちも、勉強になることは多いはず。マネジャーの考え方を知れば、組織の中の働き方が変わるかもしれません。

「今ここで神様に祈っているのは、僕らの勝利のためにはない。今日この試合で、僕らも相手選手たちも、誰もけがをしないために祈ろう」

この連載に限らず、私はこの言葉をさまざまな記事で引用してきました。このコラムでも、ちょうど4年前、2018年の6月号で紹介したと思います。

取材という立場でサッカーに関わるようになってからほぼ半世紀になりましたが、これほど美しく、サッカーにとって大事な言葉に出合ったことはありません。だから、忘れられないように何回でも紹介します。

この言葉を聞いたのは1983年9月のことでした。その年のトヨタカップ（欧州と南米のチャンピオンクラブ同士の「事実上世界一決定戦」。当時、毎年12月に東京で開催されていました）で来日するブラジルのグレミオの取材で、ポルトアレグレに行ったときです。

当時のブラジルでは、プロのトップチーム同士の試合の「前座」として、「ジュニオール」と呼ばれる20歳以下のチーム同士の試合が行われていました。プロ一歩手前の選手たちの試合です。

ブラジルの育成システムには「非情」と言ってもいいほどの厳し

## いつも心に

連載 Vol.111

大住良之

(サッカージャーナリスト)

# リスペクト

RESPECT  
大切に思うこと

## 最も大事なこと

さがあります。グレミオにも、15〜16歳の選手が50人、17歳の選手が30人、18〜20歳の選手が30人もいて、全員が合宿生活をしており、毎週の試合で見込みがないと判断されるとすぐに合宿所を追い出されて家に帰されてしまいます。当然、プロに負けないほど、あるいはプロ以上に必死です。

冒頭の言葉はそうした「ジュニオール」の試合前、ロッカールームから出る直前にキャプテンから発せられた言葉でした。プロが使うピカピカのロッカールームではありません。同じスタジアムながら、「物置」のような薄暗いサブのロッカールーム。試合に関する監督の指示が終わると、キャプテンは全員に陣を組ませ、目をつむらせて静かな口調で最後の「お祈り」の言葉を聞かせるのです。

「神様、私たちに力を与えてください」というような言葉を予想していた私は、キャプテンの口から出た意外な言葉に驚きました。それが冒頭に紹介したものです。

「自分たちだけでなく、相手チームの選手もけがをしないように……」。確かに、試合前の神様へのお願いとして、これほどふさわしいことはありません。

さて、ここ数年の日本のサッ

カーの最も顕著な変化は、「インテンシティ」でしょう。プレーの強度を意味する言葉で、試合中の一対一の争い、ボールをめぐる戦いは、以前とは比較できないほど激しくなっています。さらに、「たくましい選手を育てたい」という指導上の観点から、レフェリーも多少のファウルでは笛を吹くことをせず、プレー続行を促します。

もちろん全て正しい方向性です。おかげで、Jリーグでは多くの選手がファウル気味のタックルを受けても倒れずに踏ん張り、プレーを続けようとするようになりました。すぐに倒れてレフェリーにアピールする選手ばかりが目立った5年ほど前の映像と比較すると、試合がよりスピーディーになり、迫力あるシーンが増えたように思います。

しかしその一方で、残念ながら、相手に大けがを負わせかねない過激なファウルも増えています。勢いをつけたタックルがボールをとらえられず、相手の足や体を直撃するファウルです。特に相手の足を踏みつけたり、シューズの裏が相手の足などに入るファウル、相手に大けがを負わせる危険な反則が

増えているように思えます。

意図的に相手を傷つけようとしているわけではないはずですが、必死にプレーする中で、誤ってファウルになってしまうケースがほとんどでしょう。しかし、激しくプレーし合うからこそ、危険ないと感じたときには最後



互いに本気であればこそ球際の争いも激しくなるが、戦いの後には笑顔で顔を見合わせるようなプレーと思いやりを心掛けたい

に力を抜くなどの配慮が必要です。

試合前の選手たちにグレミオの若者たちのような「祈り」をほんの少しでも思い出させることができれば、激しくても安心してプレーできるサッカーになっ

ていくのではないのでしょうか。



# サッカーファミリー広場



## One Shot

今月のワンショット

U-16 インターナショナルドリームカップが3年ぶりに開催され、日本、韓国、ウルグアイ、メキシコのU-16代表チームが6月8日から12日の5日間にわたり、ユアテックスタジアム仙台（宮城県）で若い力を競い合った。

大会期間中の同11日には、文化交流プログラムと東日本大震災の被災地見学が行われた。例年は参加国の全チームが参加するのだが、今大会は、コロナ禍に鑑みてチーム間の交流を制限した中での実施となった。

文化交流プログラムでは、地元の聖和学園高校の生徒たちによる琴や茶道、演舞、弓道、空手道、剣道が披露されたほか、縁日が体験できる場も設置された。選手らは、言葉が通じない中でも互いにコミュニケーションを図りながら、日本の文化や伝統を楽しんだ。



## ウォーキングフットボール 「ルール説明会」「ウォーキングひろば」を開催

### (1)ウォーキングフットボール ルール説明会

歩いて行うサッカー「ウォーキングフットボール」のJFA推奨ルール説明会をオンラインで開催する。日程および概要は下記の通り。

- オンライン方式：Web会議ツール「Zoom」を使用して実施
- 時間：1時間
- 参加料：無料
- 開催日時：8月1日（月）、22日（月）、9月12日（月）  
各回18:30-19:30
- 申し込みフォーム：申し込みの締め切りは各回前日まで  
<https://forms.gle/fQCBnt6Dao37fxkE9>



ばを下記の日程で開催する。サッカー未経験者や運動が苦手な方も、どなたでも参加可能。

- 開催場所：高円宮記念JFA夢フィールド  
（千葉県千葉市美浜区美浜11）
- 開催日時：7月29日（金）18:00から20:00  
Cピッチ（屋外・人工芝・照明あり）
- 参加料：無料
- 申し込みフォーム：締め切りは前日まで  
<https://forms.gle/YC3xy36G1uem6qCXA>



※今後の開催予定

- ・8月26日（金）18:00-20:00 / Cピッチ（屋外・人工芝・照明あり）
- ・9月30日（金）15:00-17:00 / Cピッチ（屋外・人工芝）
- ・10月28日（金）15:00-17:00 / フットサルアリーナ（屋内・板張りフロア）
- ・11月25日（金）15:00-17:00 / フットサルアリーナ（屋内・板張りフロア）
- ・12月16日（金）15:00-17:00 / フットサルアリーナ（屋内・板張りフロア）

### (2)ウォーキングひろば@JFA夢フィールド

ウォーキングフットボールが体験できるウォーキングひろ



### サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005）渋谷支店（135）  
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会  
サッカーファミリー復興支援金口  
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

### 「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：

【電話】03-5276-8838

【FAX】廃止

【フォーム】[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TvrV0-Leh64Nomkz4YOCQAVouVnhmWtVs3EGjW\\_ZdkU5w/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TvrV0-Leh64Nomkz4YOCQAVouVnhmWtVs3EGjW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link)

利用時間：平日12:00～18:00（土日祝、年末年始等除く）





# 南米勢を相手に 1勝1敗



アジア予選を勝ち抜き、FIFAワールドカップカタール2022出場を決めたサムライブルー（日本代表）。6月の活動から本大会を見据えた本格的なチームづくりが始まった。まずはキリンチャレンジカップ2022の2試合、6月2日に札幌ドームで行われたパラグアイ代表戦と6日に国立競技場で行われたブラジル代表戦を振り返る。

※サムライブルーメンバー、公式記録は42、43ページに掲載 ※選手の所属は試合時

## 4得点で快勝 新戦力も躍動

サムライブルー（日本代表）は、FIFAワールドカップカタール2022に向けて新たな一歩を踏み出した。チームを率いる森保一監督は「アジア最終予選（Road to Qatar）で見た成果と課題を整理しながら、チームと選手個々の力を上げていく」と、6月の活動に向けた意気込みを語った。チームは5月20日、キリンチャレンジカップ2022とキリンカップサツ



2022年5月1日  
元サッカー日本代表監督  
元サツカー-日本代表監督  
イビチャ・オシム氏が逝去されました  
ごころよりご冥福をお祈りいたします

今回のキリンチャレンジカップ2試合では、キックオフ前に、5月1日に逝去した元日本代表監督のイビチャ・オシム氏に黙とうが捧げられた

カ12022を戦うメンバー28人を発表。ドイツのVfBシュツットガルトでプレーする伊藤洋輝が初選出となった。

パラグアイとの一戦、日本は3月のアジア最終予選とは異なるチーム編成で臨んだ。初選出の伊藤を左サイドバックで起用。中盤は遠藤航（シュツットガルト）をアンカーに、インサイドハーフには原口元気（ウニオン・ベルリン）、鎌田大地（フランクフルト）という攻撃的な選手を配し、前線には突破力のある選手を並べた。

日本は、ボール支配率56.6%の数字が示す通り、序盤からボールを保持して積極的に仕掛けていく。

5分、伊藤のクロスから堂安律（PSV）がボレーシュート。11分には三笥薫（サンジロワーズ）の折り返しを鎌田がワンタッチで狙うが、それぞれGKとゴールポストに阻まれ得点とはならない。

それでも、日本はテンポの良いパスワークで相手のプレスをかわしながらチャンスをつくり出していくと、36分、原口のスルーパスに抜け出した浅野拓磨（ボーフム）がGKとの1対1を制して先制点を挙げた。42分には、堂

安のクロスを鎌田がヘディングで合わせて追加点を奪った。

日本は後半開始から板倉滉（シャルケ）、中山雄太（ズヴォレ）、前田大然（セルティック）をピッチに送り、伊藤のポジジョンを変えてセンターバックに置く。59分に自陣でボールを奪われ、ミドルシュートを決められるが、直後の60分、原口のパスを受けた三笥が技ありのループシュートを決めてリードを再び2点に広げた。68分にはペナルティーエリア内で鎌田がGKに倒されてPKを獲得。しかし、堂安のキックはGKに防がれてしまう。

攻撃の手を緩めない日本は85分、前田が奪ったボールを鎌田がつなぎ、田中碧（デュッセルドル



パラグアイ戦で国際Aマッチデビューを果たした伊藤。前半は左サイドバック、後半はセンターバックとしてプレーした





## ■キリンチャレンジカップ2022

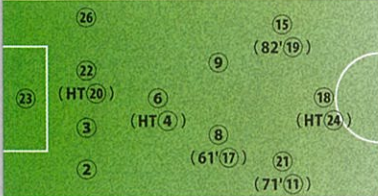
2022年6月2日 19:01  
北海道 / 札幌ドーム

日本 **4-1** パラグアイ

36' 浅野 拓磨  
42' 鎌田 大地  
60' 三笥 薫  
85' 田中 碧

2-0  
2-1

59' デルリス・ゴンサレス



GK ⑫ シュミット・ダニエル	MF/FW ⑮ 浅野 拓磨
DF ⑭ 吉田 麻也	→ HT ⑳ 前田 大然
→ HT ㉑ 中山 雄太	⑨ 鎌田 大地
③ 谷口 彰悟	⑮ 三笥 薫
② 山根 視来	→ 82' ㉑ 古橋 亨梧
㉒ 伊藤 洋輝	㉒ 堂安 律
MF/FW ⑥ 原口 元気	→ 71' ㉒ 久保 建英
→ 61' ㉒ 田中 碧	
⑥ 遠藤 航	→ HT ④ 板倉 滉

### 森保一監督コメント(要約)

#### パラグアイ戦後

選手は高い目標を持って戦ってくれた。パラグアイは今年のワールドカップには出場できないが、強豪であることは間違いない。そのチームを相手に、選手が個々にアピールしながらも連係・連動して組織で戦い、ワールドカップに向けて成長しようという姿勢を見せてくれたことを評価したい。2018年には北海道胆振東部地震の影響によりキリンチャレンジカップのチリ戦が中止となった。われわれも被災したが、その際の北海道の皆さんのサポートを忘れることができない。今日は、われわれのプレーで皆さんに元気や勇気を届けたいと思っていた。選手やチームの気持ち伝わりたい。

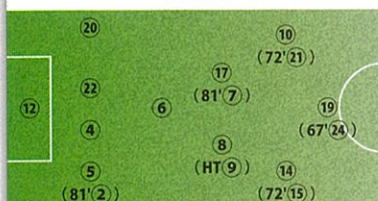
## ■キリンチャレンジカップ2022

2022年6月6日 19:23  
東京都 / 国立競技場

日本 **0-1** ブラジル

0-0  
0-1

77' ネイマール



GK ⑫ 権田 修一	MF/FW ⑮ 伊東 純也
DF ⑭ 長友 佑都	→ 72' ⑮ 三笥 薫
→ 81' ⑮ 山根 視来	⑩ 南野 拓実
⑫ 吉田 麻也	→ 72' ⑮ 堂安 律
④ 板倉 滉	→ 67' ㉑ 前田 大然
㉒ 中山 雄太	⑰ 田中 碧
MF/FW ⑥ 原口 元気	→ HT ⑨ 鎌田 大地
→ HT ④ 鎌田 大地	→ 81' ㉒ 柴崎 岳
⑥ 遠藤 航	

### 森保一監督コメント(要約)

#### ブラジル戦後

我慢強く戦う時間が多くなることは分かっていた。選手たちは粘り強く戦いながら、ゴールを目指す姿勢を見せてくれた。結果が伴わず残念に思う。「惜しい」では駄目なのは承知しているが、選手たちがベストを尽くし、未来の勝利に向けて積み上げられたものがある。このような経験を多く積んでいければ、さらにレベルアップできると思うが、強豪から勝ち点を得るためには攻撃力を上げる必要がある。ボールを奪ってから前に運ぶ、相手のプレッシャーを回避する、ボールを保持して相手の守備ブロックを崩す、そういったところを向上させていかなければならない。

## 守備は健闘も 得点できず黒星

2002 FIFAワールドカップ日本／韓国を制してか

フ)がミドルシュートを突き刺して勝負あり。4-1で勝利した。



鎌田(写真)と原口はインサイドハーフとして先発出場したパラグアイ戦で、それぞれ複数の得点に絡む活躍を見せた

れた。

一方のブラジルは、ネイマール(パリ・サンジェルマン)、カゼミロ、ピニウス・ジュニオール(共にレアル・マドリッド)ら名手をそろえ、試合開始直後から日本ゴールに迫る。2分、ネイマールのヒールパスからルーカス・パケタ(オリンピック・リヨン)にシュートを打たれるが、これはゴールポストに当たって難を逃



これまで左サイドバックを務めてきた長友だが、ブラジル戦では右サイドバックとしてプレー。「オプションが増えた」と森保監督もたたえた

決められた。

り、状況の打開を図るが、得点できずにいると77分に失点してしまう。遠藤がペナルティーエリア内で相手選手を倒してPKを献上すると、これをネイマールに

ら20年ぶりの来日となるブラジルとの一戦。新しくなった国立競技場での初の国際アママッチとあって、雨にもかかわらず6万3638人の観衆が詰めかけた。

なおもブラジルは激しいプレスでボールを奪い、素早い攻撃から得点を狙う。日本も冷静に対応するが、時間の経過とともに押し込まれる場面が増えていった。それでも、GK権田修一(清水)が好セーブを見せるなど全員が集中して相手の攻撃を跳ね

返し、「王国」に得点を許さない。日本は攻守両面で全員がハードワークし、前半をスコアレスで終えた。

追い付きたい日本は、81分に柴崎岳(レガネス)と山根視来(川崎F)を投入。鎌田をインサイドハーフからトップ下に移し、布陣を4-3-3から4-2-3-1へと変更する。83分、CKから遠藤がヘディングシュート。終盤には三笥が左サイドからドリブルで仕掛けるが得点には結びつかず、0-1で試合を終えた。



ネイマール(右)ら強力な攻撃陣をPKによる1点に抑えたが、攻撃面で課題を残した





## チュニジアに敗れ、優勝を逃す

11月に開幕するFIFAワールドカップカタール2022に向けて、SAMURAI BLUE(日本代表)は着々と準備を進めている。キリンチャレンジカップ2022に続いて国内で開催したキリンカップサッカー2022を振り返る。

### 久保と前田に 代表初ゴール

2016年以來の開催となったキリンカップサッカー2022には、サムライブルー(日本代表)のほか、チリ代表、ガーナ代表、チュニジア代表が参加。4カ国によるノックアウト方式で順位を決した。

6月10日、日本は初戦でガーナと対戦した。4日前に行われたキリンチャレンジカップ2022のブラジル戦から9人を入れ替え、序盤から久保健英(マジョルカ)、堂安律(P.S.V.)、三笥薫(サンジロワーズ)ら突破力に長けた



ガーナ戦で先制点を挙げた山根。守備に課題を残したが、持ち前の攻撃力を生かし、堂安や久保とスムーズなコンビネーションを披露



ガーナとの一戦で待望の国際Aマッチ初得点を挙げた久保。インサイドハーフとして好機をつくるだけでなく、フィニッシュも担った

選手を軸に攻め込んでいく。29分には久保と堂安がテンポよくパスをつなぎ、最後はゴール前に進入した山根視来(川崎F)が日本に先制点をもたらした。

この後も優勢に試合を進めていたが、43分に自陣でのパスミスを手を拾われ、強烈なミドルシュートで追いつかれてしまう。それでも日本はすぐに反撃に出る。アデイシヨナルタイム、左サイドでパスを受けた三笥がゴール前にインスイングのクロスボールを送ると、そのままゴールに吸い込まれ、再びリードを奪った。

日本は69分、堂安と遠藤航(シュツトガルト)に代えて伊東純也(ヘンク)と田中碧(デュッ



三笥はガーナ戦に先発出場し、2得点に絡む。左サイドで果敢に仕掛け、後半は久保の得点を演出するなど存在感を示した

セルドルフ)を投入。フレッシュなメンバーが入ったことで攻撃に厚みが増した。73分には左サイドを突破した三笥がゴール前にパスを送ると、フリーで走り込んだ久保が合わせ、代表初得点を記録。82分には伊東のクロスボールに途中出場の前田大然(セリエティック)が合わせてこちらも代表初得点をマークするなど、一気にリードを3点に広げる。この後、日本は85分に山根に代わって中山雄太(ズヴォレ)がピッチへ。板倉滉(シャルケ)、谷口彰悟(川崎F)、伊藤洋輝(シュツトガルト)が3バックを形成し、ワールドカップでオプシオンとなり得る布陣を試した。試合はこ





# SAMURAI BLUE



チュニジア戦も中盤の底に入った遠藤。相手の鋭い寄せに遭い、フリーの状態ではハスを供給する場面は限られていた

## 前半は好機を逃し 後半に失点重ねる

のまま4-1で終了。日本は、チリを退けたチュニジアと決勝で戦うことになった。

6月14日のチュニジア戦は、ガーナ戦に先発したメンバーから吉田麻也(サンブドリア)、伊藤、遠藤以外の8人を変更して臨んだ。

序盤、両チームが一進一退の攻防を繰り返す中、日本は後方で丁寧なボールをつなぎ、サイドに展開してからチャンスをつながうかがう。対するチュニジアは、前線と最終ラインの距離をコンパクトに保ち、日本を自由にさせない。中盤の底でプレーする遠藤には複数の選手が激しく

寄せ、パスの出どころを封じにかかった。

最初の決定機は35分に訪れる。長友佑都(FC東京)が相手に競り勝つと、こぼれ球を拾った伊東が右サイドを突破。最後はゴール前の鎌田大地(フランクフルト)が狙ったが、シュートはミートせず、好機を逸した。このプレーで勢いに乗った日本は立て続けにチャンスを迎える。39分、原口元気(ウニオン・ベルリン)とのワンツーパスで抜け出した伊東がクロスボールを送るが、浅野琢磨(ポーフム)の頭にはわずかに合わない。その3分後には板倉が持ち上がり、最終ラインの裏に抜け出した南野拓実(リバプール)に浮き球のパス。南野が左足のシュートを枠に収めたが、オフサイドの判定でゴールはならなかった。

スコアレスで折り返した後半、日本はミスからチュニジアに先制点を許す。55分、伊藤が左サイドで相手に突破を許し、ペナルティエリアにパスを送られる。このパスに反応したタハ・ヤシン・ケニシを吉田が倒してしまいPKに。これをモハメド・アリ・ベン・ロムダンに決められた。劣勢に立たされた日本は60分に三笥と古橋亨梧(セルティック)、71分には久保、堂安と次々に攻撃のカー



チュニジア戦の後半に3失点を喫した日本守備陣。2失点目(写真)を含めてミスから失点するなど、課題が見えた

ドを切る。しかし76分、再びミスから失点を招く。相手GKのロングフィードを処理しようとしたGKシュミット・ダニエル(シントトロイデン)と吉田が譲り合う形となったところをユセフ・ムサクニにかっさわられ、最後はフェルジャニ・サシに押し込まれてしまう。

2点のビハインドを負った日本はこの後、三笥や古橋が果敢に仕掛けてゴールをこじ開けようとするも、得点には至らなかった。逆に試合終了間際、ハーフウェーライン付近からイサム・ジェバリにドリブル突破を許し、強烈なミドルシュートを浴びる。試合はこのままチュニジアの3-0で終わり、日本は2位で大会を終えた。

### 森保一監督コメント(要約)

#### ガーナ戦後

(6月6日の)ブラジル戦の敗戦を受け、選手たちが今日は絶対に勝つという気持ちで良い準備をした。メンバーを変えながら戦っているが、誰が出ても勝つ、誰と組んでもチームとして機能させようという選手たちが意識している。それが結果につながった。攻撃面でも守備面でもオプションを一つ増やすことができる状況と判断し、85分以降は3バックを試した。選手たちの頑張りによって新たなトライができた。無失点に抑えつつ、両ウイングバックが高い位置を取る、カウンターに移るといところでチームの戦い方の幅が広がったと思う。

### ■キリンカップサッカー2022

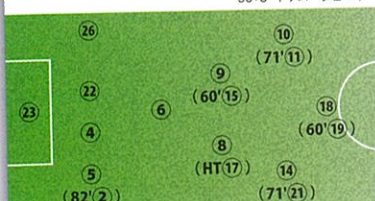
2022年6月14日 18:55

大阪府/ハナソノスタジアム吹田

日本 0-3 チュニジア

0-0  
0-3

55モハメド・アリ・ベン・ロムダン  
76フェルジャニ・サシ  
90+3イサム・ジェバリ



GK 23 シュミット・ダニエル	MF/FW 14 伊東純也 → 71' 11 堂安律
DF 5 長友佑都 → 82' 2 山根 視来	18 浅野 拓磨 → 60' 19 古橋 亨梧
22 吉田 麻也	10 南野 拓実 → 71' 11 久保 建英
4 板倉 滉	9 鎌田 大地 → 60' 15 三笥 薫
26 伊藤 洋輝	
MF/FW 20 原口 元気 → HT 17 田中 碧	
6 遠藤 航	

### 森保一監督コメント(要約)

#### チュニジア戦後

残念な結果になったが、選手たちはよくやってくれた。(6月の4試合は)毎回選手を入れ替えて戦うという難しい設定の中、我慢強く戦ったことを評価したい。今日の試合は、最初の決定機をものにすることができず、相手に流れを持っていかれた。ビルドアップも含めてシュートに持ち込むまでのクオリティを上げていかなければならない。そのビルドアップの際はミスもあったが、選手たちには「よくチャレンジした」と伝えたい。積極的にチャレンジしたからこそ、今後ワールドカップに向けて修正することができている。

### ■キリンカップサッカー2022

2022年6月10日 18:56

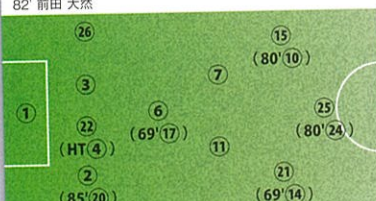
兵庫県/ノエビアスタジアム神戸

日本 4-1 ガーナ

2-1  
2-0

29' 山根 視来  
45+1' 三笥 薫  
73' 久保 建英  
82' 前田 大然

43' ジョージ・ビエール・アユ



GK 1 川島 永嗣	MF/FW 15 三笥 薫 → 80' 10 南野 拓実
DF 21 吉田 麻也 → HT 4 板倉 滉	11 堂安 律 → 69' 14 伊東 純也
3 谷口 彰悟	25 上田 絢世 → 80' 24 前田 大然
2 山根 視来 → 85' 20 中山 雄太	11 久保 建英
26 伊藤 洋輝	
MF/FW 7 柴崎 岳 → 69' 17 田中 碧	

※SAMURAI BLUEメンバー、公式記録は42~44ページに掲載 ※選手の所属は試合時



特別企画 FIFAワールドカップカタール2022に向けて

# 絶対に勝つという 強い意志を持って

FIFAワールドカップカタール2022開幕まで5カ月を切った。世界での戦いを見据えて準備を進める森保一監督に現在の心境や6月の活動の振り返り、これからの課題などについて聞いた。

○オンライン取材日：2022年6月30日



**森保一**  
SAMURAI BLUE (日本代表) 監督

選手は最後まで諦めず  
アピールし続けてほしい

——監督に就任されてから3年11カ月がたちます。振り返ると、どのような時間でしたか。

**森保** コロナ禍や自然災害によって活動ができなくなったり、制限されたりと、難しい状況が多かったと思います。しかし、日本サッカー協会（JFA）を中心に関係者やサッカーファミリアの皆さんが環境を整えてくださり、今日まで活動することができています。本当にありがたく思っています。難しい状況にありますが、順調に進んでいるということではないでしょうか。国際親善試合や、アジア、南米での大会、東京オリンピック世代の試合も含めて、全てがカタール大会につながる活動だと思っておりますので、ここからは本番に向けて準備を進めていくだけです。

——今年3月にFIFAワールドカップの出場権を獲得しましたが、当時の心境はいかがでしたか。

**森保** ワールドカップ出場は最低限の目標だと考えていました。厳しい戦いもありましたが、最低限のハードルをクリアできた、日本サッカーの歴史をつなげられたという意味では、ほっとしたところもあります。予選を通じてあらためて日本の選

手層はアジアトップだと実感しました。諦めさえしなければ必ずワールドカップの出場権をつかみ取ることができると、選手たちの戦いぶりを見て確信しましたし、自信を持たせてもらうことができました。

——6月の国際親善試合4試合は、ワールドカップに向けて新たな一歩となりました。どのような狙いを持って戦い、どのような成果を得ましたか。

**森保** ワールドカップを想定した上での選手個々のパフォーマンスの確認と、選手が入れ替わる可能性を考慮し、誰が出場しても勝利を目指して戦うこと、誰と組んでもチームの機性能を落とさずに戦うこと、この3点をテーマとしながら、これまでやってきたチームのコンセプトをさらに浸透させていくという狙いを持って臨みました。選手は試合中、対戦相手の様子を探りながら自分たちの感覚を合わせていくという難しいトライをしてきました。ストレスを感じながらのプレーになったと思いますが、チームとして機能するために挑戦してくれたことは、間違いなくワールドカップに生かされるはずですが、ブラジルとチュニジアには敗れましたが、本番に向けたシミュレーションとなる戦いになりました。サッカーは、一人代われれば流れが変わる、三人代われればチームが変わると言われるくらい難しい競技



です。毎試合、大幅にメンバーを入れ替えながら戦って呼吸を合わせられたことは、選手とチームにとって大きな収穫になりました。

——中3日での連戦は、今回のワールドカップと同じ日程です。そのシミュレーションにもなったのではないですか。

**森保** その通りです。ロシア大会は中4日でしたから、今回は1日短くなります。限られた時間の中でどのようにトレーニングを組み立てていくか。スタッフは、試合の振り返りをして、次の対戦相手の分析をし、同時に自分たちの戦い方を考える。選手は、長時間プレーした者と、プレー時間の短い者、プレーしていない者に分かれてリカバリーやトレーニングを行い、次の試合に向けて準備する。やりたいことはたくさんありますが、何を削って何を継続するか、ワールドカップを戦うための良いヒントを得ました。

——6月の活動を終えて、現在、チームはどの程度固まっていますか。

**森保** 最終的にどういうメンバーになるかはまだ分かりませんが、間違いない今回の活動に招集した選手たちを中心にチームづくりは進んでいきます。ただし、所属クラブでのパフォーマンスや7月のEAF E・1サッカー選手権2022決勝大会、9月の活動内容もしっかり見

ますから、選手たちには最後までアピールし続けてもらいたいと思います。実力があり、コンディションの良い選手がワールドカップの舞台に立つということです。

### 常に目標を念頭に置き、強く戦っていく

——6月に対戦したブラジル、ガーナ、チュニジアはワールドカップ出場チームです。彼らとの対戦や世界各国の代表チームの試合をご覧になって、日本の現在地をどのようにお考えですか。また、目標とするベスト8以上に進むためには何が必要ですか。

**森保** 日本は、自分たち次第で勝つ確率を高めていけると思っております。課題となるのは、ボールをアタッキングサイドまで運んだ後です。中央やサイドから、個で、そしてチームで崩していくところ。その精度をさらに高めていかなければなりません。6月の試合での得点シーンやチャンスをつくったプレーは、ワールドカップでも再現できます。その質を上げていく。守備では、高い位置から仕掛けるのか、ミドルサイドでブロックをつくってプレッシャーをかけるのかをはっきりさせながら、全体をコンパクトにして相手のボール保持者にプレッシャーをかけていく。全体で連係・連動して相手のボールを奪い、そこから攻撃につな

げていくところをさらに向上させたかと思っております。対戦相手や試合の局面によって状況は変わってきますので、戦い方のイメージをさらにチーム全員で共有していく必要があります。

——今回のワールドカップでは登録メンバーが23人から26人へと変更され、交代枠も5人まで拡大されました。選手選考のポイントとは？

**森保** 先発でも交代出場でも力を発揮できる選手を選んでいきます。個の力は絶対に必要になります。個の力を最大限に発揮するために仲間と連係・連動できる部分も重要です。チームで戦いながら個の良さを発揮するということは、日本が勝つために欠かせない要素です。個々の力を最大限に発揮できるチームづくりをしながらかメンバーを決めていきたいと思っています。

——チームづくりを進めていく上で選手たちにはどのようなアプローチをしていけますか。

**森保** どのような相手でも絶対に勝つという意志を持って試合に臨めるようにアプローチしていきたいと思っています。ワールドカップの出場国は、いずれも強豪です。グループステージで対戦するドイツとスペインは優勝経験国でもあります。われわれには2050年までにワールドカップで優勝する、30年までにベス

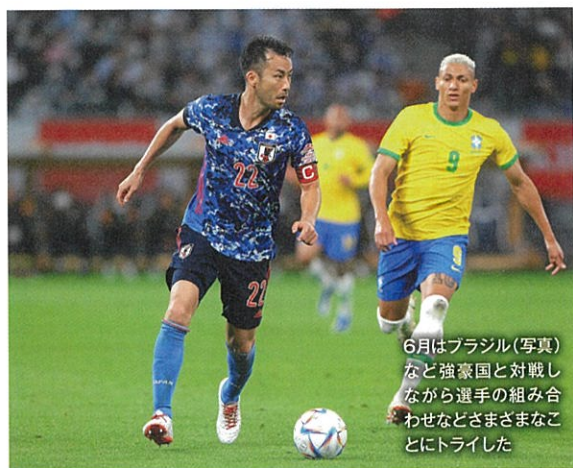
ト4進出という目標がある。それを念頭に置いて強く戦っていくかなくてはなりません。

——森保監督は、4年間チームの指揮を執ってワールドカップに臨む初の日本人監督です。世界の舞台で日本サッカーを披露することについてどうお考えですか。

**森保** これまで多くの人々が日本サッカー、代表チームに携わり、われわれにバトンを託してくださいました。過去、フィリップ・トルシエさん、岡田武史さん、西野朗さんがワールドカップでチームをベスト16に導いています。そのチームが成功したポイントを受け継ぎながら、さらにブラッシュアップして本番に臨みたいと思います。

——ロシア大会でのコーチ経験も踏まえて、キャンプ地選びなどどのように準備を進めていけますか。

**森保** 今回はこれまでと異なり、準備期間が非常に短くなります。選手たちは大会直前まで所属クラブでプレーし、チームに合流できるのは大会の約1週間前。アジア最終予選やインターナショナルマッチデーでの経験を生かして準備を進めていきます。キャンプ地としてリクエストしているのは、まずは落ち着いて過ごせる宿舎です。そして、宿



6月はブラジル(写真)など強豪国と対戦しながら選手の組み合わせなどさまざまなことにトライした

舎と練習グラウンドが近いこと。また、グラウンドだけでなく、ウエイトトレーニングや体のケアができる施設が整っていることも重要です。

——最後に、サッカーファミリーにメッセージをお願いします。

**森保** いつも熱い応援をありがとうございます。皆さんのおかげでアジア予選を勝ち抜くことができました。ただ、過去を振り返っている時間はありません。ワールドカップに向けて良い準備をし、世界の舞台で選手が躍動できるように進めていきます。結果で皆さんに喜んでいただけるよう、そして選手たちのプレーで皆さんに勇気や元気、根気を届けられるようベストを尽くしていきます。引き続き応援をよろしくお願いします。





© 2022 AFC

# 過酷な連戦を乗り越え、意地を見せる

2年後のパリオリンピック出場を目指すU-21日本代表がAFC U23アジアカップウズベキスタン2022に臨んだ。連戦が続く中、日本はアジアの強豪チームを相手に堂々たる戦いを見せた。

※U-21日本代表メンバー、大会結果、公式記録は44～46ページに掲載

### 集中力を切らすことなく 粘り強くグループ突破

23歳以下のアジアナンバワンチームを決めるAFC U23アジアカップが6月1日から19日までウズベキスタンで開催され、大岩剛監督率いるU-21日本代表は3位に入った。

大半が23歳以下の選手でチームを編成する中、日本は2年後のパリオリンピックを見据え、21歳以下のチームで参戦。5月29日に集合し、千葉県内のトレーニングを経て30日からウズベキスタンで本格的に活動をスタートさせた。現地での日中の気温は40度に迫る酷暑だったが、選手たちは精神的に調整を進めていく。31日にはホテルに戻って、日本代表専属シェフの西芳照氏の料理に舌鼓を打ち、束の間のリラックスタイムを楽しんだ。6月1日には、クラブの事情で合流が遅れていた藤田譲瑠チマ（横浜F・マリノス）、加藤聖（V・ファーレン長崎）、藤尾翔太（徳島ヴォルティス）も到着。全23人がそろい、3日に行わ



© 2022 AFC

韓国との準々決勝で日本の追加点を挙げる細谷(写真中央の①)。日本は2歳年上の相手を上回る戦いで準決勝進出を決めた

れるUAEとのグループステージ初戦に備えた。2日の公式記者会見には大岩監督と鈴木彩艶（浦和レッズ）が登場。大岩監督は、「経験しにきたわけではない。優勝を目指す」と話し、鈴木彩は「優勝することが次につながる」と抱負を語った。

UAEとのグループステージ初戦、日本はコンディションに不安を抱えていた藤田や斉藤光毅（ロンドンSK／ベルギー）が先発し、暑さが残る18時にキックオフを迎える。日本は連動した守備と最終ラインからの丁寧なビルドアップで、攻守が一体となった戦いを標榜しているが、序盤はUAEの鋭いプレ



# JAPAN NATIONAL TEAM



オーストラリアとの3位決定戦で3点目を決めた藤尾。  
準決勝での敗戦を引きずることなく、うまく切り替えた末の勝利だった

スに苦戦を強いられる。「選手たちのコンディションがバラバラの中で何とかしのぐことができた」と大岩監督が振り返った前半を終え、後半は良い形で縦パスを送るシーンが増えていく。61分に鈴木唯人（清水エスパルス）が相手のミスを逃さずに得点を決め、リードを奪う。直後に守備陣の連携ミスから追い付かれ、72分にはPKを献上。しかし、このピンチをGK鈴木彩が好セーブで救うと、チームは勢いを取り戻す。76分に藤尾のクロスボールに細

谷真大（柏レイソル）が頭で合わせ、2-1と勝ち越し。日本は初戦を白星で飾った。

リカバリーと最終調整を挟んで迎えた第2戦のサウジアラビア戦は、初戦の反省を生かして序盤から積極的にボールを動かしている。「スムーズに攻撃を組み立てられるように、全体のポジションを変えた」と指揮官が語る通り、山本理仁（東京ヴェルディ）を軸にパスをつないでゴールに迫る。速攻からピンチを招く場面もあったが、GK

鈴木彩や鈴木海音

（栃木SC）らが粘り強く対応。チーム最年少（18歳）の

チェイス・アンリ（Vfbシュトゥット

ガルト／ドイツ）も相手に食らい付き、空中戦では相

手を上回る戦いを見せた。運動量が

落ちた終盤はサウジアラビアに主導

権を握られる時間もあったが、最後

まで集中力を切らすことなく勝ち点

1をもぎ取った。

タジキスタンとのグループステ

ー

ジ最終戦。引き分け以上でノックアウトステージ進出が決まる一戦に、大岩監督は前節から9人の選手を入れ替えて臨んだ。これまで出場機会が少なかった選手たちが躍動し、今大会初先発の松木政生（FC東京）が11分に先制点を奪えば、佐藤恵允（明治大）も56分にゴールネットを揺らす。試合終了間際には途中出場の中島大嘉（北海道コンサドーレ札幌）が加点し、日本は3-0の勝利を収めて2位でグループステージ突破を決めた。

## 準決勝の敗戦を払しょく 3位決定戦で底力を発揮

中2日での連戦が続く中、日本

は準々決勝で韓国と対戦した。鈴木唯が「絶対に負けられない」と意

気込んだように、選手たちもモチ

ベーションを高めながら大一番に

向けて調整を進めていく。しかし

試合当日、複数の選手が体調不良

によって欠場を余儀なくされるア

クシデントが発生。想定していた

メンバーとは異なる11人で韓国戦

を開く。22分には鈴木唯が直接FKをねじ込んで1-0とすると、後半も足を止めることなく躍動する。65分に細谷が追加点を奪い、80分には鈴木唯が鮮やかなタッチで相手をかかわして左足でダメ押しゴールを決める。「選手たちが最善の準備をしてくれた」と大岩監督がねぎらったように、難しい状況の一戦を制して準決勝に進んだ。

開催国・ウズベキスタンとの準決勝は、新型コロナウイルスの陽性者が出たことにより、日本は18人で戦うことになった。疲労が抜けない日本は体が重く、高い位置からボールを奪いに行くことができない。攻撃を組み立てるときもミスが頻発し、中盤でボールを失い、カウンターのアタックを受ける場面が目立った。そして、60分にはウズベキスタンの10番、Jabborjonovに強烈なミドルシュートを決められてしまう。バイハンドを負った日本は反撃に出るが、決定機をつくることができず、逆に攻撃に人数を割いた隙を狙われ、89分に2点目を許して敗れた。「ただ悔しい。その一言」という松岡大起（清水エスパルス）の言葉通り、チーム発足後、初の黒星に誰もが悔しがった。

準決勝で敗れた日本は、オーストラリアとの3位決定戦に回った。パリオリンピックの最終予選を兼ねた2年後のAFC U23アジアカップのポット分けに関わる大一番だ。勝てばポット1が確定し、負ければポット2に回る可能性が増す。

日本は重要な一戦で底力を発揮する。疲労度の低い選手たちが先発したこともあり、立ち上がりから主導権を掌握。7分に佐藤のゴールで先手を取ると、39分には山本のCKが相手のオウンゴールを誘発し、2点をリードして折り返した。後半も隙を見せず、63分に松木のアシストから藤尾が加点する。相手の反撃もGK鈴木彩やセンターバックの馬場晴也（東京ヴェルディ）が跳ね返し、無失点を維持。このまま3-0で勝利し、2年後の同大会でポット1に入る権利を手にした。

大岩監督は大会を振り返り、一人人としてもチームとしてもハイレベルな基準を設けたい」と選手たちに一層の成長を促した。指揮官はチームの発足当初から「サムライブルー（日本代表）經由パリオリンピック」というメッセージを伝えてきた。今大会の後も「あくまでも目指すべき場所はサムライブルー。今回の結果で満足することはない」と語った。さらなる進化を目指し、U-21日本代表は歩みを進める。



# U-19日本代表、 健闘するも6位

5月29日から6月12日にかけてフランスで開催された第48回モリスレペロトーナメント。「トゥーロン国際大会」の名称で親しまれてきた同大会に日本はU-19日本代表で参戦し、12チーム中6位で大会を終えた。



## 上の年代との対戦で 健闘を見せる

「トゥーロン国際大会」は、主催者の意向により今大会から「モリスレペロトーナメント」に名称が変更された。U-21年代の大会として開催されているが、日本は、9月のAFC U-20アジアカップ予選と来年の本大会、そしてその先にあるFIFA U-20ワールドカップを見据えて、U-19日本代表が参加した。

フランス入りした後に富樫剛一監督の新型コロナウイルス陽性が判明。船越優蔵コーチが指揮を執った初戦は、U-21アルジェリア代表と対戦した。相手に主導権を握られる展開となるも、56分に相手のミスを突いて北野颯太(C大阪)がゴールを奪い、1-0で試合を制した。再三の好セーブで完封勝利に貢献したGK木村凌也(日本体育大学)は「全員が粘り強く守備をしたことで無失点で勝利できた」と振り返った。

続く2戦目はU-21コモロ代表と対戦。先発した高橋センダゴルタ仁胡(FCバルセロナ)が「相手の敏速な動きと体の大きさに驚いた」と語ったように、前半は、フィジカルで勝る相手のペースとなる。後半には何度か決定機をつくったが、両チーム共に得点は生まれず、スコアレスでPK戦に突入する。日

本は1人目から3人連続でキックを止められ、0-3で敗戦。勝ち点1を得るにとどまった。

## 6位で大会を終えるも 今後の成長に期待

U-19コロンビア代表とのグループステージ第3戦、この試合に勝利すれば無条件で準決勝進出が決まる。前半に何度かチャンスをつくった日本だったが、これらを逸すると、後半に入って2失点してしまう。終盤に猛攻を仕掛け、90分には中村仁郎(G大阪)がPKを決めて1点差に追いつけたものの、あと一歩届かず1-2でタイムアップ。中村は「得点を挙げることでできてうれしい」と話す一方で、「納得のいくプレーはほとんどできなかった」と悔しさをにじませた。

富樫監督が復帰した5・6位決定戦はU-20アルゼンチン代表と相まみえた。前半は相手の激しいプレスや高い個人技に翻弄されてなかなかペースをつかめず、37分、43分と失点する。2点ビハインドで迎えた後半にようやく反撃に転じ、61分に坂本一彰(G大阪)がPKを決める。しかし、3分後に再び失点。試合

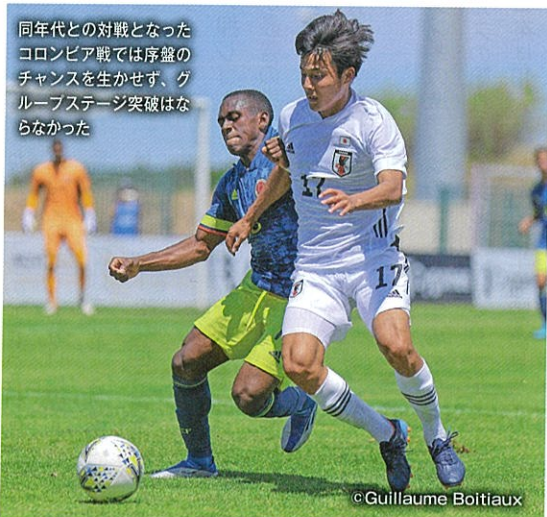
終了間際に横山歩夢(松本山雅)がPKを決めて追いつけたが、2-3で敗れた。

富樫監督は、6位で終わった今大会について「選手に伝えていた世界基準がそれ以上だったことを体感できた」と振り返り、「世界に出て良かった。もっとやらなければならぬ。もっとやれるはず」と選手たちの今後の成長に期待を寄せた。

### U-19日本代表 戦績

- 第1節 1-0  
vs U-21アルジェリア
- 第2節 0-0(PK0-3)  
vs U-21コモロ
- 第3節 1-2  
vs U-19コロンビア
- 5・6位決定戦 2-3  
vs U-20アルゼンチン

※U-19日本代表メンバー、大会結果、公式記録は46~47ページに掲載



同年代との対戦となったコロンビア戦では序盤のチャンスを生かせず、グループステージ突破はならなかった

©Guillaume Boitiaux





U-16インターナショナルドリームカップ2022 JAPAN presented by JFAが6月8日〜12日、宮城県仙台市のユアテックスタジアム仙台で開催され、U-16日本代表が優勝を飾った。

### 3年ぶりの大会開催 攻撃陣が躍動する

U-16インターナショナルドリームカップは、U-16年代の国際大会として2015年に始まり、これまで5回開催された。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2020年から2年間は中止となったが、今年は感染対策を万全に期し、3年ぶりの開催が実現した。U-16日本代表は、大会直前の5月にルーマニアを遠征し、世界レベルのプレー強度を体感したばかり。森山佳郎監督は今大会のテーマに「ハント」(狩りのように相手からボールを奪うこと)を掲げ、高いプレー強度を選手たちに要求した。

### 3試合ともに無失点で 前回大会に続いての優勝

最終日に行われたメキシコ戦は、前半、守備陣が体を張った守りを見せ、0-0で試合を折り返す。54分、杉浦のパスを受けた柴田翔太郎(川崎F U-18)のクロスで佐藤龍之介(FC東京 U-18)が体ごと押し込んで先制。69分には小杉啓太(湘南 U-18)のクロスから磯崎がヘディングで追加点を挙げた。日本は2-0で勝利し、9得点無失点で3戦全勝という成績で2大会連続の優勝を飾った。大会 MVPには「自分のストロングであるスプリント力を出して、ゴールに絡んで価値を示そうと、意識してゴール前

と、34分に名和田のクロスから道脇豊(熊本ユース)がヘディングシュートを決める。39分には名和田がミドルシュートで3点目を奪取。後半は、東北開催の今大会で唯一、東北のチームから選出された GK 上林大誠(山形ユース)をはじめ、守備陣が奮闘して反撃をし、90分には中島洋太郎(広島ユース)が追加点を奪って4-0で圧勝した。

初戦の韓国戦は、7分に矢田龍之介(清水ユース)のゴールで先制。さらに40分に杉浦駿吾(名古屋 U-18)のクロスから磯崎麻玖(大宮 U-18)がヘディングシュートを決めてリードを広げる。後半も5分に杉浦が右サイドから中央へカットインして放ったシュートが決まり、3-0で快勝した。

続くウルグアイ戦は7分に名和田我空(神村学園)のゴールで先制

に入っていたという杉浦が選出され、名和田と磯崎が得点主となった。

森山監督は「3試合ともDFを体格の良いFWと対峙させた。我慢しながらだったが、ルーマニア遠征とこの大会でかなり経験を積めた。得点以上に失点ゼロも評価したい」と、大会を通じて守備力の高さを見せられたことへの手応えを語った。U-16日本代表は世界を相手に戦った経験を携えて、10月に行われる AFC U17 アジアカップ バレーン2023 予選に臨む。

### U-16日本代表 戦績

- 第1節 3-0 vs U-16韓国代表
- 第2節 4-0 vs U-16ウルグアイ代表
- 第3節 2-0 vs U-16メキシコ代表

※U-16日本代表メンバー、大会結果、公式記録は47〜48ページに掲載

MVPに選出された杉浦は初戦で1ゴール1アシストの活躍。チームに勢いをもたらした





# 国際親善試合

# なでしこジャパン、

# セルビアとフィンランドに2連勝

なでしこジャパン（日本女子代表）は、6月の欧州遠征でセルビア女子代表、フィンランド女子代表と国際親善試合を戦い、それぞれ5得点を挙げて連勝を収めた。

## チーム積み上げへ 23人を招集

なでしこジャパン（日本女子代表）は、今年1月から2月に開催されたAFC女子アジアカップインド2022で4強入りを果たし、来年開催されるFIFA女子ワールドカップの出場権を獲得した。現在はワールドカップに向けて強化を図っており、4月の代表候補トレーニングキャンプを経て6月に欧州遠征を実施、セルビアとフィンランドで国際親善試合を行った。

なでしこジャパンの池田太監督が「ワールドカップに向けたチームの積み上げとして重要な位置付け」と話した今回の遠征メンバーには、WEリーグで初代最優秀選手賞を受賞したGK山下杏也加（NAC神戸レオネッサ）や、同リーグ初代得点王の菅澤優衣香（三菱重工浦和レックスレディース）らが選ばれたほか、4月の候補合宿に初参加した千葉玲海菜（ジェフユナイテッド市原・千葉レディース）が初招集された。海外でプレーする選手は女子アジアカップ以来の代表活動となり、



2021年10月以来の招集となった杉田妃和は、6月24日のセルビア戦で先発。左サイドで攻守に存在感を発揮した

WEリーグのウインターブレイク中にアメリカのポートランド・ソーンズFCに移籍した杉田妃和も代表復帰を果たした。

## 交代選手、初出場選手が 得点を重ねて勝利

6月24日、初対戦となったセルビア女子代表との国際親善試合は、気温31度の暑さの中で行われた。背番号10を背負った長野風花（マイナビ仙台レディース）と、スウェーデンからチームに合流した林穂之

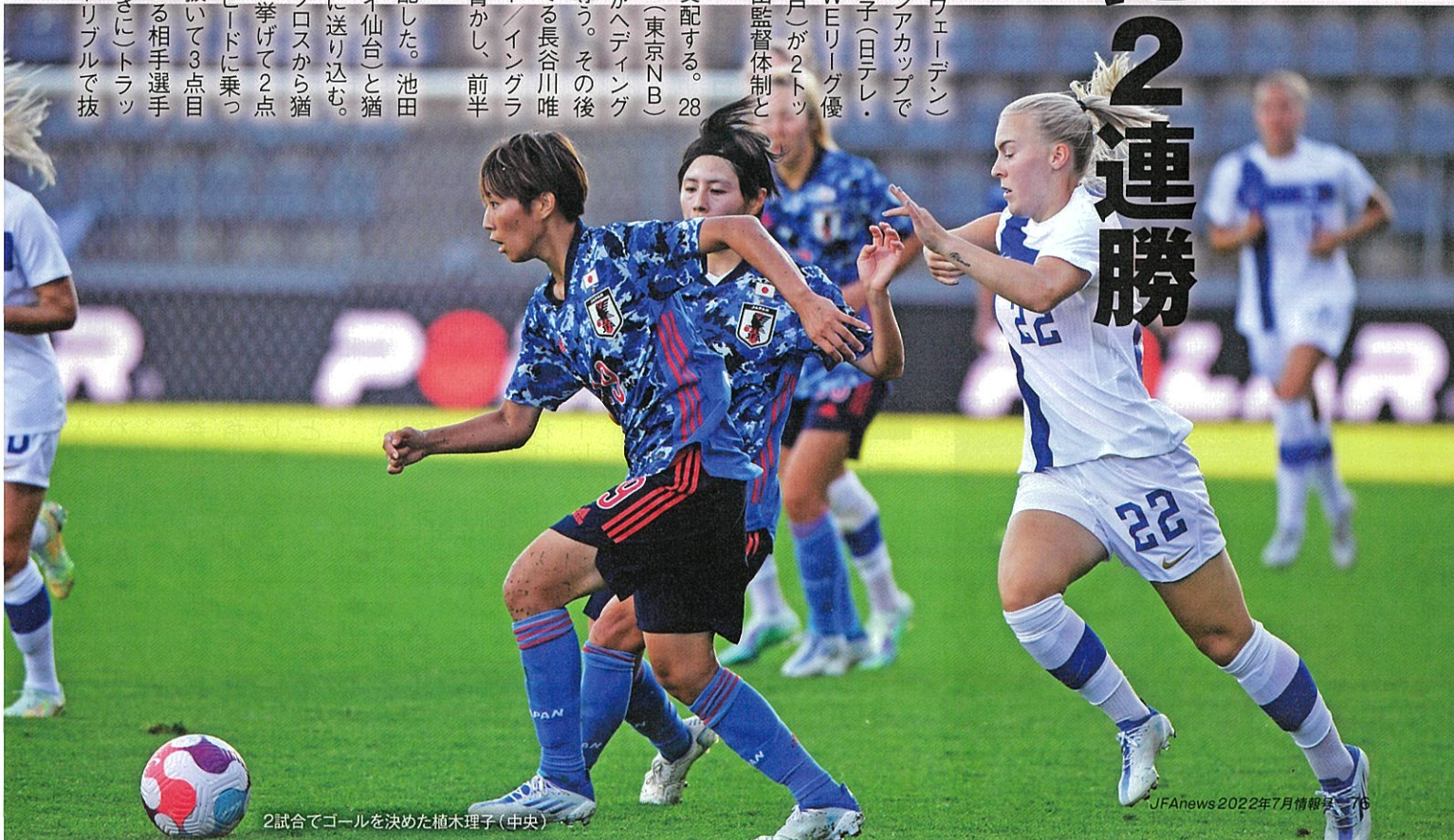


NADESHIKO JAPAN

香（AIKフットボール／スウェーデン）がボランチを形成し、女子アジアカップで5得点の活躍を見せた植木理子（日テレ・東京ヴェルディベレーザ）、WEリーグ優勝に貢献した田中美南（神戸）が2トップを組んだ。また、杉田は池田監督体制となって以降、初出場となった。

日本は前半からボールを支配する。28分、右サイドバック清水梨紗（東京NB）のアーリークロスから、植木がヘディングでゴールを決めて先制点を奪う。その後も右サイドで攻撃を組み立てる長谷川唯（ウエストハム・ユナイテッド／イングラント）を起点に相手ゴールを脅かし、前半を1点リードで折り返す。

後半も日本がボールを支配した。池田監督は60分、宮澤ひなた（マイナビ）と猶本光（浦和）を同時にピッチに送り込む。すると、その2分後、宮澤のクロスから猶本が国際Aマッチ2得点目を挙げて2点差に。さらに宮澤は得意のスピードに乗ったドリブルから右足を振り抜いて3点目を奪った。「自分と並走している相手選手がいたが、（パスを受けるときに）トラップで相手の前に入れたのでドリブルで抜



2試合でゴールを決めた植木理子（中央）





セルビア戦、後半に国際Aマッチデビューを飾った千葉玲海菜。長谷川唯からの右クロスをしかりと押し込んだ

き切り、最後は冷静にゴールを見ることができた」という宮澤。瞬時の判断が光るゴールだった。

78分には、千葉が国際Aマッチデビューを果たし、センターフォワードとして出場。ピッチに入って3分後には、落ち着いたシュートで国際Aマッチ初得点を挙げた。「長谷川選手がナイスボールをくれたので、自分は押し込むだけだった」（千葉と謙遜しつつも、WEリーグで好調を維持するプレーを国際舞台でも発揮してみせた。

試合終了間際にはシステムを4-2-3-1に変更し、熊谷紗希（FCバイエルン・ミュンヘン/ドイツ）がセンターバックからボランチに移動する形も試した。88分には相手GKがファンブルしたボールを成宮唯（一神戸）が押し込み、セルビアとの一戦を完封勝利で終えた。

**先制直後に失点も相手に主導権を渡さず**

フィンランドに移動し、セルビア戦から中2日で迎えたフィンランド女子代表と



フィンランド戦、遠藤純は相手のオウンゴールを誘い、自ら得点を決め、CKではチャンスを出した

の対戦は、セルビア戦から先発メンバーを6人入れ替えた。高橋はな（浦和）と熊谷がセンターバックを組み、三浦成美（東京NB）は昨年の東京オリンピック以来となる代表戦となったほか、遠藤純（エンジェル・シティFC/アメリカ）も渡米後初の代表戦を迎えた。

日本は13分、遠藤が左サイドからゴール前にクロスを上げると、これを相手DFがクリアミスしてオウンゴールに。日本が早々と先制した。ところが5分後、三宅史織（一神戸）がプレスを掛けに行ったところをEngman Adelinaにかわされ、そのままドリブルからシュートを許して同点に追いつかれてしまう。近年、力をつけているフィンランドの勢いをまざまざと見せつけられての失点だった。

池田監督はハーフタイムに3人を入れ替え、長谷川、猶本、植木がピッチへ。すると後半立ち上がり、長谷川、宮澤、清水とつないで最後は左利きの遠藤が右足でゴールを決める。遠藤は「走り込んだときにタイミングよく（清水）梨紗さんからボールが来た」と、味方と呼吸の



フィンランド戦58分の得点シーン。高橋はな（左）は代表初得点に「チームで練習していたセットプレーから得点できてよかった」とコメント

合った勝ち越しゴールを振り返った。58分には待望のセットプレーから得点が生まれる。右CKを遠藤が蹴ると、ニアサイドで植木が頭で流し、高橋が押し込んで代表10試合目で国際Aマッチ初得点をマークした。74分には植木が代表5試合連続弾を決めて4-1とすると、終盤にはペナルティーエリア内で倒された長谷川が自らPKを成功させて5点目を決めた。

なでしこジャパンは、2試合で10得点と充実の試合内容で今回の遠征を終えた。2試合で2得点の植木は「何より勝って帰れることがうれしい。女子アジアカップは負けて帰国したので悔しさでいっぱいだった」と充実感をのぞかせる。熊谷も「自分たちが次に向かう、次につながるチャレンジができた」と、収穫を手にした様子だった。なでしこジャパンは7月のEAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会で大会連覇を狙う。ワールドカップは約1年後、さらなる強化を重ねていく。

**池田浩監督コメント（要約）**

**フィンランド戦後**

前半に課題のあった距離感を修正し、後半に臨んだ。得点を重ねて勝利につながれたことは良かった。試合前のミーティングでは「サイドからの攻撃をうまく使おう」と話したが、それを少し強調し過ぎたことで選手たちもサイドへという意識に傾いてしまった。後半はうまく修正し、ゲームをコントロールして結果につながれたと思う。チームづくりはステップバイステップで、距離感や攻撃のイメージは課題が出ては積み上げて、という繰り返しとなる。チームがやろうとしていることは浸透してきているし、僕が伝えていることも積み上がってきていると感じる。

**池田浩監督コメント（要約）**

**セルビア戦後**

短い準備時間だったが、選手たちはわれわれの狙いとする前からアグレッシブに奪いに行く守備と、関わり合う攻撃を規律よく90分通して発揮してくれた。（先制点は）チームの狙いでもある、ボールから遠いサイドのアクションがしっかりできていたことから生まれたものであり、チームを勢い付けるゴールだった。前半は中央のコンビネーションでいろいろトライはあったが、相手のディフェンスラインで選手同士が固まってしまっていたので「ワイドに使う」とハーフタイムに話した。交代選手も役割をしっかりと全うした。複数の選手がゴールを挙げられたことはポジティブな部分だと思う。

**国際親善試合**  
2022年6月27日 18:15（現地時間）  
トゥルク（フィンランド） Veritas Stadium

**日本 5-1 フィンランド**

13' オウンゴール 1-0  
47' 遠藤純 1-1  
58' 高橋はな 1-2  
74' 植木理子 1-3  
89' 長谷川唯 1-4

18' Engman Adelina 1-5

**GK** ⑩ 山下杏也加  
→ 78' ⑫ 田中桃子

**DF** ② 清水梨紗  
④ 熊谷紗希  
⑤ 三宅史織  
→ 64' ⑫ 宝田沙織  
⑭ 高橋はな

**MF** ⑩ 宮澤ひなた  
→ 90' ⑭ 成宮唯

**MF** ⑩ 長野風花  
⑬ 遠藤純  
⑳ 三浦成美  
→ 46' ⑭ 猶本光

**FW** ⑨ 普澤優衣香  
→ 46' ⑭ 植木理子  
⑮ 田中美南  
→ 46' ⑮ 長谷川唯

**国際親善試合**  
2022年6月24日 19:45（現地時間）  
スタラパゾバ（セルビア） Sport Center FAS

**日本 5-0 セルビア**

28' 植木理子 1-0  
62' 岩本光 1-1  
75' 宮澤ひなた 1-2  
81' 千葉玲海菜 1-3  
88' 成宮唯 1-4

**GK** ⑩ 山下杏也加

**DF** ⑫ 清水梨紗  
⑬ 南萌華  
④ 熊谷紗希  
⑥ 宮川麻都  
→ 78' ⑫ 宝田沙織

**MF** ⑩ 長野風花  
→ 85' ⑭ 高橋はな  
⑮ 長谷川唯

**MF** ⑮ 杉田妃和  
→ 85' ⑰ 成宮唯  
⑱ 林穂之香  
→ 60' ⑱ 猶本光

**FW** ⑪ 田中美南  
→ 78' ⑮ 千葉玲海菜  
⑯ 植木理子  
→ 60' ⑰ 宮澤ひなた



# 世界をつなぐ旅が、 ここからはじまる。

AL RIHLA  
アル・リフラ



FIFA WORLD CUP  
Qatar 2022



# 日本サッカーミュージアム 11+

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)  
Tel: 050-2018-1990

- 営業時間 火～金曜日 12:00～17:00(最終入場16:30)  
土・日・祝日 10:00～17:00(最終入場16:30)  
特別営業期間 10:00～17:00(最終入場16:30)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)  
年2回のメンテナンス期間
- 入場料 一般大人:550円、小中学生:300円、幼児:無料  
団体(20名様以上)・障がい者の方:  
大人450円、小中学生200円  
※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
- URL [https://www.jfa.jp/football\\_museum/](https://www.jfa.jp/football_museum/)

※臨時休館をしている場合もございますので、JFA公式サイトで最新の開館情報をご確認の上ご来館ください。



## 夏休み自由研究イベントを2年ぶりに開催

日本サッカーミュージアムは7月23日(土)～8月21日(日)を夏季特別開館として、10時から17時まで開館する(最終入場16:30/期間中無休)。期間中は、夏休み自由研究イベントを2年ぶりにJFAハウス1階のヴァーチャルスタジアムで開催。コロナ禍に鑑み、自由研究イベントは事前予約制とし、午前・午後いずれも2時間で参加者を入れ替える。そのほかワークブックは持ち帰り用の配布も行う。夏休みに合わせてワークショップやトークイベントも2年ぶりにヴァーチャルスタジアムを会場に開催される。

【自由研究イベント】開催期間:7月31日(日)～8月15日(月)

### ●日本代表歴代ワールドカップを学ぶ!ワークブック

これ一冊で自由研究が完成!日本代表が出場した過去6大会のワールドカップを調べてまとめることのできるワークブック。

### ●10分工作で遊ぼう!グループE紙コップけん玉

日本とFIFAワールドカップカタール2022のグループステージ対戦国の国旗やカラーで自由に飾りつけができる紙コップけん玉。大会前に対戦気分が味わえるかも?

※イベント参加はインターネットによる事前申し込みが必要です。

詳細は日本サッカーミュージアムホームページからご確認ください。

URL: [https://www.jfa.jp/football\\_museum/](https://www.jfa.jp/football_museum/)



### 【スペシャルワークショップ】

#### 「サッカー世界新聞づくり」

日程:7月30日(土)10:15～12:15/14:00～16:00

対象:小学校高学年

講師:サッカー新聞エル・ゴラッソ編集長 寺嶋朋也さん

※インターネットによる事前申し込みが必要です。

URL: <https://forms.gle/JMc4bWxCJTdvnBuW7>

申し込み期限:7月28日(木)まで



### 【スペシャルトークイベント】

#### 「ボールのひみつ&サッカー×SDGs」

日程:8月2日(火)11:00～12:00/14:00～15:00

講師:株式会社モルテン 内田潤さん

対象:小学校低学年～中学年 ※高学年～中学生もご参加いただけます。

※インターネットによる事前申し込みが必要です。

URL: <https://forms.gle/GnnTobsgeurJJaSN6>

申し込み期限:7月31日(日)まで



※そのほかのトークイベントは調整中で、イベントが決定次第、ミュージアムホームページでお知らせいたします。

※詳細はミュージアムホームページをご確認ください。

※主催者および出演者の諸事情により、内容の変更およびイベント中止の場合がございます。あらかじめご了承ください。

## SAMURAI BLUE、キリンチャレンジカップ・キリンカップサッカー記念品を展示

日本サッカーミュージアム1階エントランスでは現在、6月に開催されたキリンチャレンジカップ2022のバラグアイ戦(2日)とブラジル戦(6日)、キリンカップサッカー2022のガーナ戦(10日)とチュニジア戦(14日)に出場した日本代表選手のサイン入りユニフォームとキャプテンマーク、シューズ、キリンチャレンジカップ2022大会プログラム、使用球を展示している。

ブラジル代表のサイン入りユニフォームも展示しているので、この機会にぜひともご覧いただきたい。

※展示終了日は未定。予告なく展示物に変更になる場合あり。



## U-16日本代表、U-16インターナショナルドリームカップ記念品を展示

日本サッカーミュージアム1階エントランスでは現在、U-16インターナショナルドリームカップ2022 JAPAN presented by JFA(6月8日～12日、ユアテックスタジアム仙台で開催)で優勝したU-16日本代表の優勝トロフィーとサイン入り公式試合球、使用球を

展示している。※展示終了日は未定。予告なく展示物に変更になる場合あり。



## 日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業(五十音順) ※2022年7月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ  
アスカ美装株式会社  
カルテック株式会社  
キリンビール株式会社  
キリンビバレッジ株式会社  
KDDI株式会社  
広友物産株式会社

株式会社Jリーグ  
株式会社ジエブ  
株式会社シミズアウト  
株式会社ジャミング  
株式会社スケール  
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社  
株式会社テレビ東京

株式会社電通  
株式会社電通ライブ  
西鉄旅行株式会社  
株式会社野村総合研究所  
びあ株式会社  
ホテル東京ガーデンパレス  
マッシュコーポレーション株式会社

株式会社ムラヤマ  
株式会社モルテン  
ヤマザキビスケット株式会社



## 読者プレゼント

応募締切：2022年8月15日(月)当日消印有効

### アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「adidas スポーツタオル(サイズ:70cm×140cm)」を1名様にプレゼント。



### JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。今号では「アスパス! LEDシリコンブレスレット」を1名様にプレゼント。



<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE



### プレゼント応募方法

#### ■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/ate7CYtgNR9LiXXe7>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスして  
ご応募ください。



#### ■はがき

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号) JFAハウス  
公益財団法人日本サッカー協会・広報部  
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnews  
のご感想・ご意見を明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2022年8月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる場合があります。予めご了承ください。

\*収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用いたしません。また、お送りいただいた葉書は返却いたしません。

## 公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

# JFA news

発行人：須原清貴

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 広報部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2022年8月情報号は、2022年8月23日発売予定

## [特集] 指導者の聞く力

\*特集テーマ・内容は変更となる場合があります

### ご購入のお知らせ

#### ・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

\*クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の

購入が可能です。

#### ・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記インターネットよりお申し込みください。

#### ・チーム登録をされているご購読者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。



日本サッカー協会(JFA)は現在、主にウェブ会議システム等を用いて会議や会見、取材等を実施しています。本誌の取材につきましてもウェブ会議システムや電話、書面による取材で皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染拡大を抑制し、一日も早い終息に寄与するとともに、働き方改革の推進などより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。



KIRIN

さあ、

# 免疫ケアで 健康管理!

健康な人の免疫機能の維持をサポート  
[ プラズマ乳酸菌の研究報告 ]

# IMUSE



機能性表示食品



果汁1%

【届出表示】本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC (プラズマサイトイド樹状細胞) に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。

●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

## 免疫のひみつ スペシャルムービー

声優に花江夏樹さん、竹達彩奈さんら  
を起用。「免疫のひみつ」について楽しく  
学ぶことができます。

詳しくは  
こちら!



キリンホールディングス株式会社  
〈お客様相談室〉 ☎ 0120-770-502  
受付時間10:00~16:00 (土日祝日除く)

IMUSE <https://www.imuse-p.jp/>  
のんだあとはリサイクル。







定価600円(本体545円)